

わいふ

女の言いたい放題誌 ● 195

WIFE

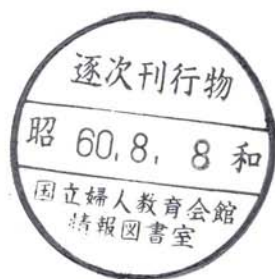
新連載 ● 私の昭和史 桜井淳子

グラビア ● 女のグループ④ 女性による民間教育審議会

レポート ● 箱庭療法でのぞいた“日本女性”のこころのスペクタクル 井田真木子

投稿 ● サークル通信回収騒動 なまたまご

ファミリー・イン・ブルー ● 浮遊家族 田口けい子





株式会社 ミネルヴァ書房

〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
☎(075)581-5191 振替京都 2-8076

戦争を生きた 女たち

証言・国防婦人会

鞠谷美規子 戦後の婦人教育の拠点婦人会館は、戦前のなにわ女たちが建てたかつての国防婦人会館だった。この意外な事実から、情報ボランティアグループの国婦掘り起こしの作業が始まった。5年にわたる調査と聞き取りを通じて浮かびあがったその驚くべき実像とは……。

【内容】国防婦人会―その実像を探る／国防婦人会―栄光と挫折／戦争を生きた女たち／再び軍国の母となるなかれ 一七〇〇円 250

A・ミユルダール／V・クライン著

女性の二つの役割

大和チドリ／桑原洋子訳・家庭と仕事 家庭と仕事を両立させながら男女平等を確立する条件とは―本書はこの女性問題を歴史的・社会的に考察した名著の全面改訂版。ミユルダールは82年度ノーベル平和賞受賞。二〇〇〇円 250

私の「女性学」講義

小松満貴子著・あすをひらくために 女性性が本
当に自立するとはどういうことか。精神的・経済的・生活的・市民的―四つの面での自立を女性学の視点から考える。 一七〇〇円 250

『WILFEE』194号のほんで紹介

子どももって 不思議

―学ぶことは生きること―

長谷川 孝著 定価1300円・送料250円 B6判 224頁

管理体制によって硬直化したといわれる学校教育の現場に
スポーツを当て、教師の現実を鋭くえぐる本

★人間って不思議 半田たつ子著

46判・344頁 定価1500円・送料300円

「新しい家庭科―We」も

ぜひお読み下さい

家庭科教育に携わっている方、ほんとうの家庭科の創造を志す方、男女のかかわりを考える方、差別のない社会の創造を志す方へ！

A5判・96頁
例月号年10回・増刊号2回
年間購読料6700円

◎1985年度のWe◎

- 4月号 性をどう語る
- 5月号 結婚の風景
- 6月号 家族、その人間関係
- 7月号 離婚と子どもたち
- 8・9月号 法律と私たち
- 増刊号 働きつづけるために…子育て、くらし方
- 10月号 いま、熱く女性の時代
- 11月号 みりの秋に
- 12月号 人間と土を生かす
- 増刊号 (フォーラム全記録集)
- 1月号 くらしの文化を探る
- 2・3月号 水はいのちの泉

ご注文は、最寄りの書店に。(地方小出版流通センター扱)
ワイ書房に直接お申し込みの場合は、送料をお添えの上振替で。(書名明記)

182 東京都調布市西つじヶ丘2-25-14
☎03(3326)1380 振替 東京六三六ハセ
ワイ書房

いいたい放題　したい放題

書きたい放題　よみたい放題の

投稿誌が　わいふです

人間　ほんとにやりたいことは　やれるもの

ウジウジ・イライラふり捨てて

思いつきりやれば　気がはれる

いろんな人のいろんな時の

いろんな心を材料にして

二か月に一回　わいふが出来あがるのです

仕上げに適量の“ユーモア”と

“思いやり”のスパイスを！

ピリツとくるか　まろやかになるか

それはあなたの“うで”次第！

WIFE 195

わいふ目次

表紙イラスト 松本圭以子
レイアウト 望月浩子

女のグループ4

女性による民間教育審議会

4

写真 佐々木恵子 文 田中喜美子

職場は多面体

9★

細野清美・上原友子・平田幸枝・
吉原美代子

親のホンネ

17★

岡村和代・赤松裕美子・岡井美代子・
戒能まり子

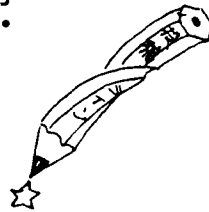
箱庭療法でのぞいた「日本女性」の

こころのスペクタクル

井田真木子

ファミリー・イン・ブルー 30★

田口けい子・TY・匿名



22



私の昭和史

42

WIFE・連載1

桜井淳子

対話のページ

50★

野村純子・藤枝まさ子・坂本良美・高野容子・
栗岡理子・勝俣元子・山田幸子・浜尾幸恵・
高野貴子

サークル通信回収騒動

60

なまたまご

エッセイスト・クラブ

73★

小川由里・藤野宏子

オットどついで 78 ★

たまき久美

うちの悪ガキ 81 ★

関根洋子・栗屋郁子

マジの発言 84 ★

著名雪子・田中恵子・紺清由美子・MH

生きてます活字人間 91 ★

松本弘子・岩田和子・林夫佐・須藤揚子・田中喜美子

WIFE・短期連載3

子連れのフランス 96

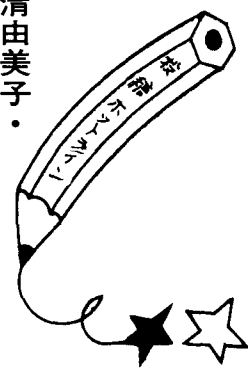
かずみせきこ

マスコミむしる 104 ★

津島遼子・堀内千恵子・柴田知子

ニューヨーク便り ⑤ 110

西田淑子



観たり聴いたり 80 ★
松本家栄子

生還記 116

石渡雅子

マンガ笑止笑止 栗田笑 126
ショートショート

わいわいがやがや 128 ★

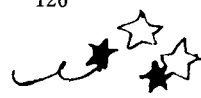
中野桂子・匿名・佐竹陽子・嶋田たい子・斉藤友子・鶴岡俊子・岩崎八重・斉藤雅子・伊藤智子・内海真木子・今井富美子・原眞智子・森本邦子・守田厚子・古山明子・島村雅子・関根信子・岡本のりこ

サークルだより 40 情報コーナー 70

ほん 114 月刊問題について 77

テーマ原稿募集 127 投稿募集 142

編集だより 144



★印は
投稿ホットライン
のページです！

女のグループ④

女性による民間教育審議会

写真●佐々木恵子 文●田中喜美子

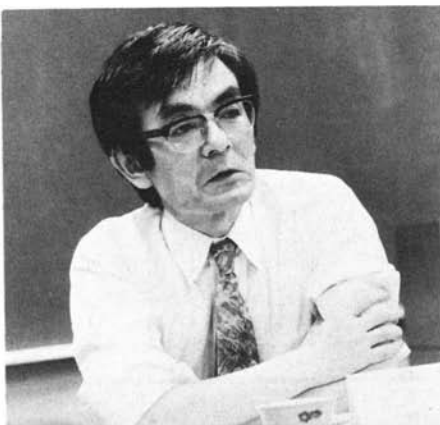


作家 永畑道子さん 評論家 俵萌子さん

「We」編集長 半田たつ子さん



助言者 都立大教授 山住正巳さん



小児科医 梅村浄さん

東横学園教諭 原田璃美子さん
の司会ぶり



問題提起者 和光大講師 小沢牧子さん

いま、女の視点を教育改革に生かさなければ、四月八日、「女性民教審」が発足した。教育の各分野に関わりのある女性ばかり十八名。その大半が、母親でもある。一人一人の子どもの幸せを守るために、男たちだけに改革を任せてはおけないのだ。現場から、子どもの声を、父母の声を、教師の声を吸い上げて、教育改革に反映させたい。月二回、これ以上ないほど忙しい女たちが集まって審議を重ねている。



教育評論家 駒野陽子さん

助言者 法政大教授 尾形憲さん





七月二日・新宿区婦人情
報センターで行なわれた
第五回公開審議会

「大学改革を考える」

大学は、受験をめざしてかりたてられてきた若者たちの、束の間のいいこの場になっ

てしまっている。
セックスと、アルコールと、パチンコと、
アルバイトの青春。

企業の働きバチとして、再びかりたてられるまで与えられる、四年間の猶予期間。
居眠りのでる講義。

やる気のない学生。

なわ張り確保に必死の教授。

この状態から、どうしたら大学は、脱け出られるのか？

当日のゲスト、法政大学の尾形教授はいう。「学生に直接、現実と向きあわせること。障害児の施設でもいい。横浜の寿



全景



町でもいい。とにかく人間の、生きて動
いている現場に学生を送りこむこと。そ
こから必ず何かが生まれる」と。

ラマーズ法を考へる



『お産の教室』編●寺島千尋監修
産み方は
自分で決めよう

定価1200円

新宿は、
おんなの街である。
古屋能子

定価1100円



第三書館

東京都新宿区大久保
1-16-15 電208-6668

季刊
リサイクル文化 No. 14

●盛岡市民福祉バンク・編

特集・3R Reduce Reuse Recycle ハンドブック

家の中には使わない衣類や家具、電気製品などがいっぱいある。放っておけばいずれはゴミとなるこれらの品々も、ちよつと手間ひまかけて修理したり、作り変えたりすれば立派に使えるものばかり。そこで今号では素人でも簡単にできるリフォーム、リベアの方法を学んでみよう。

●八月二〇日発売予定●A5判／定価六〇〇円

「リサイクル文化」バックナンバー

第10号・BOOK GUIDE二み問題の分かる50冊二み問題の本および雑誌記事等を紹介しながら、リサイクル文化社会づくりを考える。

第11号・全国ニュー・クズ屋さんのプロワイール家庭から出る資源ごみなら何でも代価を支払って回収するシステムづくりについて挑戦する「ニュー・クズ屋さん」二十九軒のプロワイール第12号・二み処理技術の可能性と限界二み問題の将来はますます深刻化する様相にあるが、これに対する技術的対応はどこまで期待できるか

第13号・リサイクルショップPART②全国約百三十軒のリサイクルショップのリストと、それぞれの店の開店の動機や経営方針、仕入れの方法や値段のつけ方など紹介

ガボロジー「ゴミ学」

(全国学校図書館協議会選定図書)

石澤清史著

一五〇円(千二百五〇円)

発行リサイクル文化社

発売 星雲社

東京都中野区東中野四一六・七・四〇七
電話三三三・三八〇五

東京都文京区小石川五一一九・二二五
電話三三九・四七一一

投稿ホットライン——能ある鷹は爪をかくす

職場は多面体

愛すべき職場——死角の部分に何があるか？

ホームヘルパー体験記

神奈川県横須賀市 細野 清美

私が「ホームヘルパーをやっているの」とある人に言ったら、「何を売ってるの？」と聞かれ、一瞬、返答に詰まりました。今流行のホームパーティの何かだとその方は思ったのでしょうか。まあ、それほどではないにしろ、どうしたらヘルパーになれるのか、その内容はどんなことか、働く条件は、など知らない方も多いと思います。

私がやっているのは、市に登録されている有料ヘルパーで、市から口がかかる、その家庭へ直接伺い、日常生活の助けをするものです。これは頼む人が一時間五百九十円を払うのです。直接にお金のやりとりはなく、ヘルパーは市から渡される就業記録に働いた時間をその日毎に記入し、その方の印を押してもらい、一カ月分をまとめて市に提出します。そ

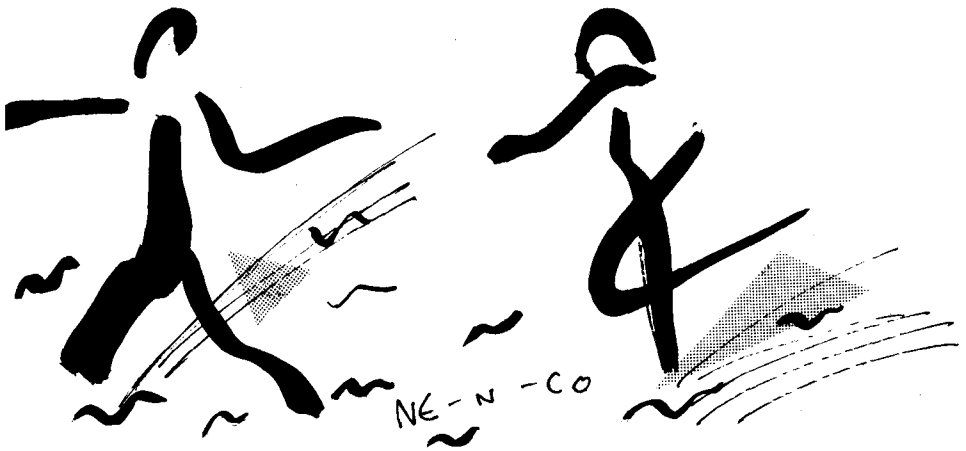
れを市が頼んだ家庭へ振り込み用紙と共に請求し、ヘルパーには、その人名義の通帳に、一カ月分に交通費（実費）を加えた金額を振り込んでくれる仕組みです。なお、一カ月に一度、市へ提出しに行く交通費と、一時間分の賃金も加えられます。仕事始めには、バッグ、ボールペン、ファイル、割烹着、クレゾール液、ゴム手袋（厚手と薄手）などが支給されます。いよいよ仕事内容ですが、大まかに言えば掃除、洗濯、食事の世話、買い物、話し相手など、身の回りのこと全般の老人のお世話です。



日常生活に支障のある家庭に行くので
すから、最初の日など、特に、台所の汚
さには、皆、ギョッとします。それでも
私達が四、五日も行くと、ずい分と清潔
になってきますし、私などは、毎日、同
じ家庭に行ってるので、自分の家の台所
よりきれいになってしまい、（ああ、家
にもヘルパーさんが欲しい？）などと思
うくらいです。

あと、洗濯の量など大したことはあり
ませんし、掃除も毎日ではなくても大丈
夫です。ただし、ベッドの周りのゴミ箱
の中のゴミとか、私の場合は、部屋にポ
ータブルトイレを置いてある家庭ですの
で、毎日その溜っている尿を捨てたり、
たまにはその容器を洗剤で洗ってあげた
り、爪を切ってあげたり、体を拭いてあ
げたり、身の回りは清潔にしてあげない
といけないでしょう。

食事は食べたいと言うものを作ってあ
げます。魚を煮たり焼いたり、肉を炒め
たり揚げたり、野菜の煮物やみそ汁を作



ったり。とても喜ばれますよ。味の好み
もだんだんわかってきますし、心配する
こともないと思います。普段しているこ
とですから。

ただ、多くの人が躊躇するのは、老人
を扱うという点だと思います。私の場合
はもう三年前から姑の看護という経験が
ありましたから、自然とこういう仕事に
目が向いていったのですが、全然経験の
なかった人もやっていますし、最近、私
の友人も始めましたが、習うより慣れろ
で、元気にやっています。

この仕事の良い点は、主婦がやる仕事
として、時間帯が良い、という点がひと
つ。朝の三時間くらいですから。週に二
日しか行かない人もいれば、一日おきの
人、四日行く人、私のように先方の要望
により、毎日行く人、さまざまです。口
がかかった時、自分に出来ない条件であ
れば断れることが出来ますし、私のように
、辞めたり、またやり出したり、とい
うことも出来るのが良い点でしょう。

私の場合、自分ではベッドから起き上がれず、歩けずのリウマチの姑を、息子四人で交替で三カ月ずつ世話をしているので、何の仕事をするにせよ、一年のうちその三カ月は、どうしても家にべったり居なくてはならないのです。ですから、どこかへ就職しても永く続けることが無理なのですが、ヘルパーは、自分が空いている期間動ける、という私にとって願ってもない都合の良さなのです。

ちなみに私の子供は小学校の四年と二年ですが、子供の帰宅前に帰って来られるし、夏休みはやらないし私のような条件の主婦には、今のところ、適当な職種だと思っています。家事といっても、自分の直接の収入になる家事は、また、違いますね。それに、老人と接するのは世の中の弱者の部分を見るわけですから、いろいろと考えさせられます。

最後になりましたが、ヘルパーになるための登録に必要な資格は何もありません。やってみようという意志のみで、誰

でもなれます。身分は、市の非常勤嘱託。ヘルパーの研修も無いのが不満でしたが、今月末には、やっと、研修会が開かれるということ、市の福祉施策説明や、意見交換が催されるようです。私も、まだ始めて七カ月の新米ですが、毎日行っ

ケーキ屋の招かれざる客

東京都杉並区

上原 友子

ケーキ屋のパートも三カ月経過した今は、もうすっかりプロ並みである（と自認している）。間にメチャクチャ忙しいクリスマスがあり、客のさばき方もうまくなってしまった。以前は「一人帰ってまた一人」のペースがやっとだったが、最近は一、三人同時に店に入ってきてもう平気になった。

夏までやっていた保険の仕事と違って楽なのは、なんといっても客のほうからやって来てくれることだ。

ペコペコ頭を下げて買ってもらい必要もなく、ケーキが売れようが残ろうがお

るご家庭に、とても喜ばれていて、夏休み前に辞めてしまうのが、お互い、ちょっと寂しいほどです。以上、私のヘルパーの報告でした。皆さまいかがですか？

構いなし。客は皆、ケーキを買うという明白な理由のもとにやって来るわけだから、保険の時のように世間話をしながら、それとなく相手の下心を探るなんて、いやらしいことは一切なくてもいいのだ。ちなみに、売れ残ったケーキはどうするのだろう、ひょっとするとタダでもらえるかもしれない、という私の甘い期待は、パート第一日目にして、ものの見事に打ち砕かれてしまった。

なぞって、売れ残ったケーキはお店の奥の大きな冷蔵庫にしまっておき、また次の日の朝、出してくるのだから。その

上、ケーキは売れゆきを見ながら少しずつ作っていくので、大量に残るなどということは、まずあり得ない。

事情を知らない友達に、「あなた、ケーキ屋さんでいつもおやつに、ケーキをもらって食べているんでしょ」と言うのだ。おやつにもらう、なんてことは一度もなく、指についたクリームをこっそりなめるくらいが関の山。それとて、チーフと客に見つかからないように素早くやらねばならず、技術を要する。初めてやった時、余り大っぴらに指をしゃぶったため、チーフに叱られてしまった。

あれやこれやと忙しく日がたつていき、二カ月目からはだいぶ楽になってきた。

唯一、苦手とするデコレーションケーキの包装もクリスマスケーキで修業を積み、すっかりうまくなった。レジのミスもしなくなり、やっとこれで軌道に乗ったと思った矢先に、思いもかけないハプニングが起こった。

その客は十一月のある日、フラリと何

気ない様子で店に入ってきた。見るからに「奥さま」という感じで、紫色のジャケットと、同色のスカートを粋に着こなしている。インテリ風で、なかなかいい雰囲気の人である。

ケースの前を行ったり来たりしながら、ケーキを眺めている。しばらくたって、客の注文を待っている私の耳に、聞きえないことばが入ってきた。

「女のお尻は、とってもきれいだ。お風呂屋さんに行くと、ピンクのお尻がいっぱい。前は毛がふさふさで、羨ましいくらい。私のなんか少ししかないのに。ああ、きれいだ。ピンクのお尻はとってもきれいだ。きれいなお尻を開いてやるの」

こんな調子で、まるでお念仏のようにブツブツ言っているのだ。声の調子もしつかりしていて、明らかにひとり言ではない。

チーフと私はあつけにとられて、ポカんとその人を見つめていた。すると彼女はムツとした調子で、「何よ。ちょっと

あんた、なんで人の顔ばかりさっきから見てるの？」とくっつけてかかってきた。

ああ、恐ろしい。チーフは返事のしようもなく、困りはてた様子で突っ立っている。日頃は私を相手に、たちの悪い冗談をとばしている彼も、この時はやはりタジタジである。

彼女は、と見るとまたケースの前をいったり来たりしている。この人、本当にケーキを買うつもりなんだろうか。そう思うと、内心不安になってきたが、まさか客を置いて逃げ出すわけにもいかず、ひたすら下を向いてじっとしていた。そのうちにピンクの、お尻なんとやらの合間に「チーズケーキ三つ」と言ったので、ほっとした。

彼女が帰ったあとは、力が抜けたようになつてしまい、思わずカウンターによりかかってしまった。チーフと顔を見合わせたまま、しばし言葉が出なかった。

時間にしてせいぜい、七、八分ぐらいだったと思う。その間、無限に長く感じ

られた。

二回目に来たのは、クリスマス前のどさくさの時。この時は店もたて混んでいたの、彼女もおとなしくしていて、ことなきを得た。

そして三回目は、お正月の人の波も去った一月半ば。いつもやつのことで忘れかけた頃にやって来るので、その度にびびってしまうのである。今回も運悪く、またしても他に客がいない昼下がりに現われた。

「いらっしやいませ」と言うなり、ドキッとする。「ソレ、また来たぞ」と思い、あわてて心の準備をする。

今回は「モンプティ―二つ」と先に注文を言ったので、しめたと思った。この調子でいくと、大丈夫かもしれない。早くケーキを包んで、一刻も早くお引き取り願おう。

そう思いながら、ケーキを箱に入れ、ひもを結ぶ手もどかしく、包み終わってふり返ったその瞬間、ガンと一発、

例の調子が始まった。

「女のお尻は毛がぼうぼう」

一緒にいた午後からのパートの子は、初めてなので何のことかわからず、まじめな顔で聞き返している。

「は？」

「女のお尻はね」

「？」

「女のお尻は腐っているよ」

そのひと声をききつけて、チーフが奥



からのぞきこんだ。チーフの顔を見たたん、私は急におかしくなってしまう、必死の思いで笑いをかみ殺していた。

そうだ、こうしてはいられない。早くお金をもらわなければ、と我に帰り、つとめて平静を装ってこう言った。

「お客様、六百円になります。ありがとうございました」

彼女は帰り際に何を思ったのか、私のほうをふり返り、こともあろうにひととき大きな声で「バーカ」と言って出ていった。

そのあとはもう、笑いがとまらなかった。相棒の女の子は「あの人、あんなこというもんだからてっきり、上原さんの友達と思いましたよ」と言うし、チーフはチーフで、「あの人、バカって言ったけど、上原さん、何か言ったんじゃないの？」という始末。

誰だって陽の明るうちに、見ず知らずの人にあんなことを一度ならず、二度も言われたら、頭が混乱するだろう。

それにしても奇妙なのは、あの美貌と言動のアンバランス。三回目に現われた時のいでたちといったら、黒のコートに黒いっぱの広い帽子。ワイン色のマフラ。本当によく似合い、さっそうとして

最近のこと

六時に起床。たっぷり一時間かけて食事しながら新聞を読む長女は、その日（四月九日）の朝刊を読みながら、スットンキョウな声を上げた。「この記事、お母さんのことだと思っただけど……。初め、名前、年齢が違っけれど、世の中にはよく似た人が居るなと思ってた。読んでいるうち、これは絶対お母さんのことだ」新聞を持って見せに来たが、食事の準備に忙しい私は、記事をはすつとびに読んだ。「婦人とくらし」の紙面のその文章は、数年前「わいふ」の紙上討論会で言ったことの一部だった。

いた。なぜあんなことばかり口走るのか、謎、また謎である。
家庭を一步出てみると、思いもかけない人にぶつかる。
まさに「職場は多面体」なり。

東京都練馬区 平田 幸枝（48歳）

その日は、正午から職場に入る勤務。三時半の休憩時間待って、再度新聞を読み、いささかあわててしまった。「働きたいあなたへ」と題したシリーズ物の記事で、すでに二回目になっていた。その日に読まないにしても、必ず読む習慣にしているのだが、この一回目は見落としたようだ。然し、この二回目の記事の私の言った部分は、その時の状況、前後関係がないと、私の思いのようなものが伝わらないのではないかと、新聞社に電話をし、担当社員にそのことを話しているうちに「わいふ」の田中さんに電話し

て下さることになった。

その日の夜、職場のほうにお電話下さった田中さんとの約束で、近況を書くことになった。

前職場教護院を転勤、現職場に来て一年が過ぎた。自転車で十五分。



時間がいくらあっても足りない私には、それまでの通勤時間の二時間―三時間が非常に無駄に感じられたが、いざその時間がなくなると、新聞雑誌を読む時間、居眠りしたり、ボケツとする時間がなくなり、職場と家庭を切り換えるクッション的要素が、この無駄と思える通勤時間であったことに気付く。と同時に、昨年新設され、丸一年を迎えたこの職場が、自分の思わく違いだったことで、不平不満を言うと、主人は「初心に帰れ」と言う。

初心？ 「何でも良い、安定した収入ならどんな仕事でもする」ということである。もちろんそのつもりは今でもある。義務として与えられた仕事は当然である。然し、保母を志し、保母になって十一年を迎えた今、これからこそ本格的に仕事に燃えようと思った時、腰砕けの状態になった。

それは現職場が、障害者の通過施設で、我々の働きかけが、これから社会へ出る

人達に役立つと思っていたのに、入所者のほとんどに、そのような意識がなく、意識改革をすることすら不可能な人達に囲まれ、意気込んで転勤して来た私には、非常なショックで、一年目にして転勤願いを出してしまった。が転勤できず、何となく仕事をしていると、自分自身がだらけてくる。

家のことも、子供達が大きくなったという事で、どんどん手を抜く。でも、家族も、今までの実績があるから文句も言わないのだろう。その証拠に長女は「お母さんを見てみると、結婚せず仕事を続けようかな、主婦業はしんどいものネ」と言う。

ともあれ、不平不満ばかりも言っていられないので、本腰を入れて仕事をしてゆきたいと思っている。文を書き始めると、どんどん広がって本の一冊くらい書けそうな気がするが、才能もないのでまとまらない。また、ちょこちょこ投稿させてもらいます。

ひとりぼっちの

コーヒータ임

長野県北安曇郡 吉原美代子

ちょっと背伸びをして、頭上の観音開きの戸棚に手を伸ばし、コーヒーの瓶を降ろす。かすかに蓋の緩む音。マグカップにお湯を注ぐ……仕事始めにいつものように一人で過ごすコーヒータ임。

この会社の食堂兼休憩室の五坪足らずの部屋は、生産現場からも事務所からも分厚いドア一枚で隔てられている。

工場の重い鉄の扉を開けると、自動旋盤機の騒音とマシン油の臭いが襲いかかる。

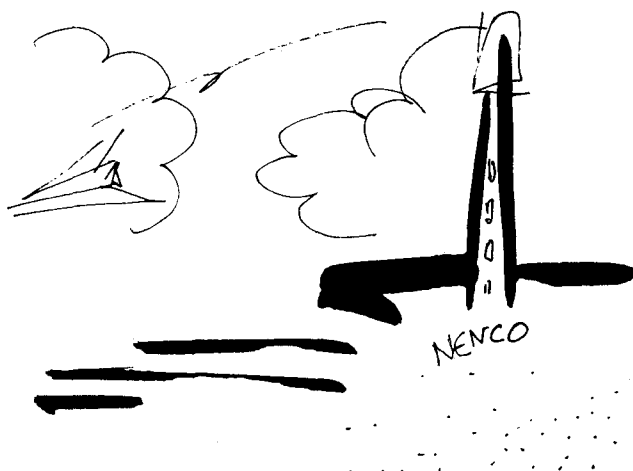
我が家は六人家族で、私は二児の母。

祖父と夫とで社員十人ほどの会社を経営している。私は夫の下で働く平社員。また経理担当主任であり、最終検査と、荷詰め発送係。はたまたお茶くみと掃除婦も兼ね、二十一面相ならぬ、時には社長も恐れる八山の神Vにも豹変する万屋社員。

会社は、池田町五丁目の国道沿いに在り、自宅とは二キロメートルほど離れている。私はいつも経理関係書類の入ったアタッシュケース、作業服、昼食のお弁当や保温ジャーと、まさに所帯道具一式を持ち歩いては、家と会社を往復している。まるで引越しセンターのように。

車を運転しながら、このまま会社と反対方向に人生のハンドルを切ったとしても、これだけ積んでいけば当座の暮らしには不自由しない——と秘かにチャンス伺いながらの生活をもう十年も続けている。所詮、私は働きバチなのか、（ままよ、それも私らしくていいじゃないの——）と、今では半ば開き直って自分を慰める。

一家の主婦から、会社の従業員への切り替えスイッチをONにする時、私はまずこの部屋でコーヒーマグカップを片手に、



昨日までの仕事の進行を頭の中でチェックする。カップが空になる頃には、頭为天辺から足の爪先まで「シャキッ」として、会社の顔に変わるから不思議。「さあ、今日も一日がんばるぞ」と、心に一声かけて事務所のドアを押す……。

（え・カステラネンコ）

投稿ホットライン——言うべきか言わざるべきか

親のホンネ

この際言っちゃう！親だから、感じるここといっぱい

懇談会、嫌い！

長野県長野市

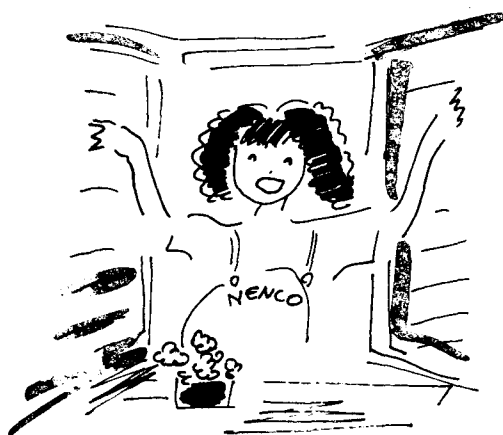
岡村 和代

子供の頃から、人が大勢集まっている所は苦手だった。二十歳から三年間勤めた職場も、最盛期は百人ものアルバイトが出入りしているというふうで、仕事そのものよりも、対人関係に神経がすり減ってしまった。

結婚して専業主婦となり、これで苦手な人づき合いをしなくてよい、家の中のことだけしていればよい、と思ったのも、ほんの何年間かだった。

上の子が三歳で幼稚園に入園するやいなや、保育参観、懇談会、遠足の付き添い、夕涼み会、クリスマス会等々、又しても煩わしい人混みの中に、出かけて行かねばならなくなってしまった。

上の子が三年、下の子が三年、合計六年間通い続けた幼稚園も、下の子の卒園と同時にやっと縁が切れたが、一年前まで住んでいた東京と違い、「教育県」と言われている長野は懇談会の回数が多い。



しかも、夕方四時半とか五時までかかってしまい、私は少々うんざりしている。嫌なら欠席するか、途中で帰ればよいと言われるかもしれないが、妙に律儀な性格が災いして、しーんと静まり返っている教室の中を、たてつけの悪いガラス戸をガタガタいわせて中座するほどの勇氣もなく、いつもしらけきった気持ちのまま、子供用の小さな机に座っている。司会をする学級会長とかいう人が、先

生が教科書の読みでも当てるように、発言を順番にさせていくのにもなじめない。東京では、発言者がなければ、時間前でも帰宅できたのに、とつい愚痴っぽくなる。

懇談会の内容についても、他のお母さん達が、「うちの子が、うちの子が」と連発するのもついてゆけない。私は自分の二人の子供を、単に“うちの子”とは思っていないし、そういう言い方もしない。子供は所詮、親の手元から社会へ巣立って行くべきで、私^{わたくし}すべき性質の存在ではないと思っている。

だから、専業主婦の奥さん方が、「う

保育園とは……!?

「どうでした」

「濡れタオルで拭いてあげるようにとのことです」

「で、飲み薬とつけ薬は」

「別にありませんでした」

ちの子には毎日、玄関掃除をさせています」とか「うちでは、トイレ掃除をさせています」とか得々としてしゃべっているのを聞くと、どうせ出て行く者の労力をあてにしても、いかなければ、全て自分の負担になるのに、それなら、旦那さんにもお掃除や洗たくや料理を教えて助けてもらう方がマシだわ、とつい意地の悪いことを考えてしまう。

最近、指折り数えてしまう。PTAとのつき合いも、あと何年我慢すればいいのかと……。

とにかく、懇談会、嫌いです。

東京都杉並区 赤松裕美子

「えっ?!」絶句した保母は、奥の看護婦に向かって「清潔にしておくだけですってえ」

「どこのお医者さんですかあ」と奥から声。

「近所のM小児科です」

「……………」

某月某日、午前十時、ある公立保育園の乳児室での会話です。医者に寄っての遅い登園で、一刻も早く職場へと私の心はあせるばかり。

それは、前日の夕方から始まりました。子供を迎えに行った私に待っていたのは、「顔に湿疹ができてます。明日は、医者に診^みせてから登園を」の言葉。明日は遅刻するわけには……と洩る私に、「園医の方針です!!」どうやら今日は園医の検診があつたようだ。

とにかく、私は言いつけ通り医者に診せたのだから文句あるまい。げげんな表情の保母の手に、今にも泣き出しそうな我が子を押すつけ、職場に向け一直進。どんなに急ごうともう完全に遅刻だ。

八年前、初めて長男を保育園に預け始めた頃の私にとって、園とは実に有難い存在だった。独り身の時間を保証してく

れる上、衣服はこう、食事はこう、爪が伸びた、耳垢がたまっている……と、懇切丁寧な指導に、新米の母親は大助かりだった。「共に育てる者」の存在は誠に心強かった。

三年後に次男の誕生。多少の手抜きでも、子供は育つもんだと知る。しかも長男と性格も体格も異なり、そのまま適用とはいかない。教科書的な、一貫した園のやり方がうっとうしくなってきた。この道ひと筋の、ベテラン独身保母ほど熱心に指導したがるようにみえる。

そして三男の誕生と入園。園は、医者

は、大人は、本当に子供の立場に立っているのだろうか、と疑問がわいてくる。医者通いは、長男の時に比べ、めっきり減った。多少の具合の悪さは、放っておくと自然に治った。

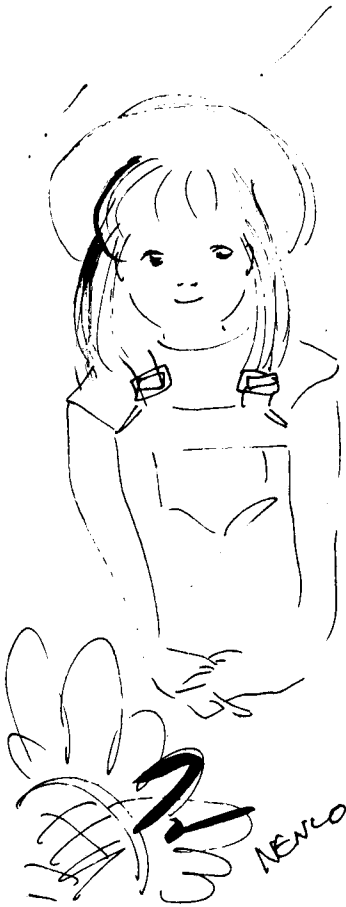
ところが、保育園は放っておいてはくれない。毎月の園医の健診、毎朝の検温と看護婦の視診、そして毎日、保母が目を光らす。少しの異常も見逃さず、医者が命じられる。健康管理は至れり尽くせりだ。

素朴に熱心な保母さんらを憎めないけれど、でも、本当に子供のためなのかし

ら。葉づけで弱くしているだけじゃないのかしら。医者まかせの自信のない親を作っているのじゃないのかしら。こんな思いは、三男が入園したての、ある冬の日の出来事で頂点に達しました。

それは脇の下から背にかけての小さな水いぼをめぐってでした。もう何カ月も前からそこに出来ており、前の依託先である保育ママでは、別段問題にならず、それまでの小児科健診でも、そのままにと言われてきたものでした。園に催促され、仕方なく訪れた皮膚科医の診たては「冬服で感染の心配はないので、もう少しばらくそのままに。ほぼ免疫が出来ており、自然消滅の近い状態」というもの。

これには保母は納得せず、「他の子にうつる」(プールもないのにいったい何を根拠に?)、「園の方針」の一点張り。どうしても即刻、取ってこいと言う。職業熱心な看護婦や保母らと押し問答の末、遂に園医の命令書までつきつけられるに及びました。皮膚からピンセットでむし



り取るという拷問的処置の必要性を、親もかりつけの医者も認めないというのに、ムキになって方針に従わせようとする園側の態度に、かつての「共に育てる者」の存在など吹っ飛んでしまいました。保育園は子供を育てる場ではなく、(親の)保育に欠ける子を、収容、管理する場だったんですね。

かく悟った今となっては、とかく安易に薬を処方したがる医者の中で、「出来るだけ薬は使いたくない」と申し出ることが、せめてもの抵抗。こう言うと、ここ

うしろ姿

子は親の後ろ姿を見て育つという。私の後ろ姿を見て育った娘と一緒に暮らしているのだから、今更言っても仕方がないが、主婦という座を譲って、台所を明け渡すと、今までの主党と野党が逆になって、目にかかることだけ多く嫌な姑根性が出てきてしまう。理解のある親にな

やかに同意してくれる医師はまれで、たいていはムツとして書きかけた処方箋を捨てる。かくして、けさの園での会話となった次第です。

それぞれの育て方、それぞれの生き方が通用せず、方針が一人歩きし、「皆のため」ということを名目に管理が優先する社会って(何も保育園に限りませんが)、考えてみると恐ろしいことですね。

長年の園通いで育ったのは、子供よりも親の方だったようです。

奈良県天理市 岡井美代子

りたいものと、何も言わずに、新築の「離れ」に主人と引っ込んではいれるものの、留守番ばかり。孫の帰宅も気になるし、あわてて出掛けるのだらう、台所も部屋もやりっぱなし「あーあ、こんなに散らかして」とつい手を出して片付けようかと思うが、待てよ、今更野党の私が手を

出すこともないし、と愚痴る私に「ホツトケ、ホツトケ」と主人。

でも、とうとう黙っていることにも限度があって、「もう少しどうにかならへんの」と私「だって忙しいんだもの、掃除なんか、ひまな時いっぱいにするわ、それよりしたいことがいっぱいなのよ」と娘の口が返ってくる。これも私の後ろ姿なのかしら、お嫁さんだったら、こんなこと言わないわね……。

私が嫁に来た時は、明治生まれの姑に、家風とか、しきたりとか言われ、何でもハイハイと素直に頷き、二十数年一緒に暮らした間には、逃げ出したい時も、うっ憤を胸に抱きつつ反発したい時もあつたけれど、結局姑の後ろ姿どおり、又自分も歩んでいる。時代が違うと言え、それまでだが、若い人の自由奔放さを、指摘して、反発を買うまいと遠慮していて、いいのだらうか。少々のトラブルは「雨降って地固まる」と言うではないか。私も、まだまだ主婦のOBとして、後ろ



姿で羨していくべきではないだろうか…。
因に私六十歳、娘三十六歳、今更頑張
ったところで、老いの坂は目の前、「お
ばあちゃん どうにかならへんの」と、

深呼吸

一つ、大きく深呼吸した。新しい空気
と胸の中の古い空気が入れ替わる。アラノ
私、こんなところで何しているの？ こ
の振り上げたこぶしは何？ 大きく開か
れた口から飛び出しそうになったのは、
どういう言葉？ 目の前にいる息子よ、
お前は どうしてそんなに逃げ腰なの？
そうだ、思い出した。お前の面に、一発
喰らわそうとしたのだ。どうして泣き虫
なのだ、情けないのだ、と吐こうとし
たのだ。
も一つ、大きく深呼吸した。フーン、
これはいいぞ。いやに気持ちが悪く着く
ぞ。お前良かったな。母さんがいいもの
見つけたお陰で、なぐられずにすんで。

荷物になって逆襲されない様に、やっぱ
り、ほどほどに、しておく方がいいかし
ら。

愛媛県松山市 戒能まり子

怒鳴られずにすんで。

お前も深呼吸してみい。気持ちいいぞ。
くずれかかった心が、しゃんとするぞ。
アレノ ボク、どうしてカンシヤク起こ
しそうになったのかな、と不思議に思っ
た。ウソみたいにすつきりするぞ。

今度は、いっちょ二人で外へ出て、深
呼吸してみるか。母さんの空気まで横取
りするなよ。半分ずつ分けようぜ。何？
母さんきれいと？ お前もいとこある
じゃないか。お前もなかなかハンサムで
男らしいよ。腹が立った時の妙薬、『深呼
吸』のこと、二人だけの秘密にしとこう
な。

(え・カステラネンコ)

箱庭療法でのぞいた“日本女性” のこころのスペクタクル

四月二三日から二九日まで国立京都国際会議場で開催された「第九回国際トランスパーソナル会議」に出席して——フリーランスライター・井田真木子



京都国際会議場の中庭

あなたのような人が
カウンセリングを？

「わたし、最近、心理療法を受けようか
と思ってるのよ」

というと、ともだちの浅井彩子のはのけ
ぞって驚き、こういました。

「まあ、あなたが、あなたたちの夫婦、
そんなに悪くなったの？」

まったく、カウンセリングとか、心理
療法とかいうと、ヒトはなぜ悲劇的な状
況しか想像しないのかしら。

「おい、そんな恥ずかしいことよしてく
れよ」

と、これは夫。

「恥ずかしいこと、なんにもないわよ」

欧米では就職するとき、退職するとき、
入学、卒業、結婚、離婚、出産、中絶と
人生の節目節目に心理療法（セラピー）
をうけるのがごく一般的なのだ、と私は
夫に説明します。他人に話をすることで
考えがひらけるってこと、あるじゃないの。

「でもさ、体位とか、週に何回とか、強くてフトいだの弱くてホソいだの、あらざらいい話さなきやいかんのでしょ」

あっ、いやだ、この人ナニか感じがしている。夫は心理療法やカウンセリングといえばセックスセラピーのことだと思いい込んでいたのです。でも、このテの認識不足はむしろ一般的。カウンセリングをうけるということ、即、夫婦仲が悪い、ノイローゼでおかしくなっているか、性的欲求不満で悶々としているかだと思っている人は多い。日本には正式のライセンスをもった心理療法士がまだ少ないことにも原因があるのかもしれない。私はこの二年來、月に二回セラピーセッションを受けています。セラピストはカリフォルニア州でサイコセラピストの資格をとった五十代の男性療法士。彼は牧師であり、メンタルヘルス関係の企業を経営するビジネスマンであり、また東京女子大学の講師でもあります。日本で仕事をしている心理療法士の多くは、正式

なライセンスをもっている、前述のような心理療法に対する無理解も手伝って、なかなか心理療法に専従できないのが実情。彼のようにセラピーセッションと同時に別の仕事をもって兼業化している人がほとんどです。

ところで、私と彼とのセッションのテーマは、もちろん「強くてフトい」とか「週に何回」ということではありません。私の子供について考えることが、このセッションの目的です。とはいえ、私は子供もちはありません。妊娠もまだです。つまり私は「将来、生まれるかもしれないわが子」についてカウンセリングをうけている、というわけ。

バカね、子供なんてウダウダ考えてないで一人でとっとと生みなさい。でもねえ、そうはいかないのが私の事情というものなのです。私の仕事はフリーランスの雑誌記者。朝九時から夜十時まで働いて、完全な休日は毎月一日半。六坪半の事務所と社員を二人かかえている「管理職」で

もありますから、わが身ひとつをどうこうすればよろしいというものでもない。さあ、いったい私はどうやって子供を生むための時間と心の余裕を獲得したらいいのでしょうか。この難問を解くにはセラピーが必要だったのです。

日本の女は、今や世界のお手本となった

こうして二年間、セラピーセッションを続けるうちに、私は心理療法そのものに興味をもちはじめました。

今年の四月二十八日、私の友人、ジャネス・金光が『第九回国際トランスパー



会議を聴講する外国人女性

ソナル会議』にプレスとして出席しないかとさそってくれたのも、こういった興味から、私が近頃ボツボツと心理療法関係の記事を書き始めたことを知ってのことでした。ジャンス・金光は日系米人でトランスパーソナル学会事務局に勤める女性です。プレスとしての取材許可願いを提出する労をとってくれたのは、『わいふ』の田中喜美子さんでした。

トランスパーソナル会議は、物理学者、生化学者、心理学者、企業家、宗教家、社会運動家などから構成されている大きな学会。とくに心理学者、心理療法師の参加が多く、二十一世紀の新しい科学の枠組みをあらゆる学問と社会運動の分野から考えることを目的にしています。そして従来の西欧主導型の家父長的宇宙観から脱却し、東洋的な母性的全包括的宇宙観にシンパシーを示しているのが特徴だといわれています。その学説の詳細な説明は、あまり煩瑣になるので省きますが、トランスパーソナルな視点では、東洋は西洋より、女性

は男性より基本的に優位な位置におかれていることは確かです。ですから考えかたによっては東洋人でしかも女である私はトランスパーソナル学会の中ではお手本の人物だといってもいいでしょう。それをあらわすように学会聴講者の23は外国人です。なるほど、経済力だけでなく、哲学や科学観といったジャンルでも、日本は世界のリーディングヒッターにおしあげられたんだなあ。でも、正直な感想をいえばこの立場はあまりしっくりしない。第一、私は東洋の女のおさなるものをはたしてもっているのかしら。

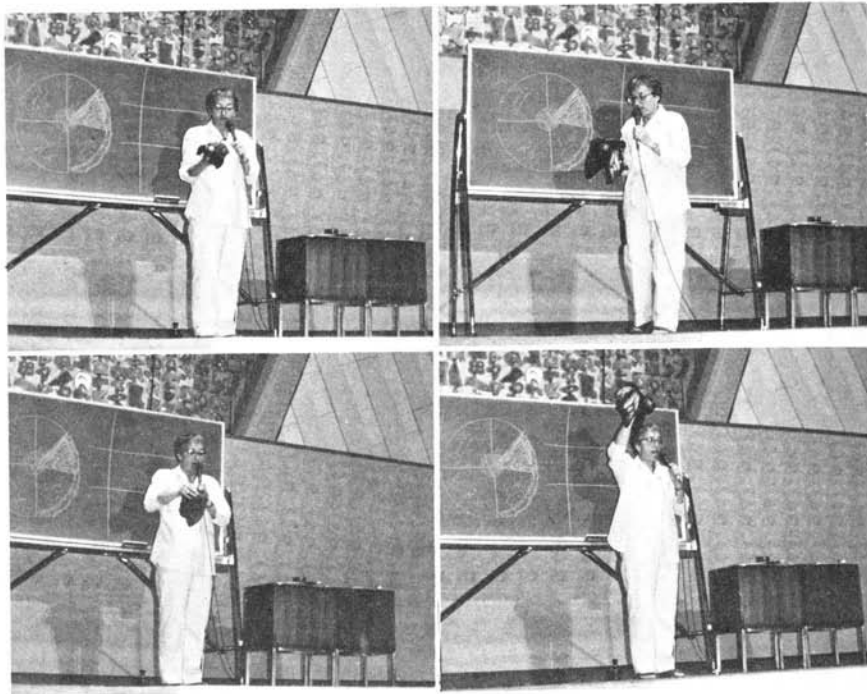
死を怖れる人は、生 きることをも怖れる

そんなことを考えているうちに学会発表が始まりました。私は、以前ある月刊誌で記事にしたことがある心理療法のひとつ、箱庭療法の創始者、ドーラ・カルフ女史の講演をとりあえず取材する予定

でテープとカメラをセッティングしています。

ところが二番目の発表がおわったところで面白いことがおこりました。聴講席から十数人のアメリカ人と思われる女性が立って、まだ発表者が出てこない講義壇の前に陣取ったのです。彼女たちは手にオートカメラをもっていて、発表者が壇上にのぼるやいなや、パチリとやるかまえ。まるでアイドル歌手が出てくるのを待つファンです。思わずプログラムに次の発表者の名前を探すと、それはホスピスの提唱者で、現在アメリカでもっとも人気のある死の臨床研究医、エリザベス・キューブラー・ロス博士でした。





ロス博士は生から死へと移行する瞬間を、蝶がサナバから孵化する現象にたとえ、死とは生の成長段階の最終ステップだと表現する。このヌイグルミは博士のお手製。

「死ぬことを、自然死でさえも非常にこわがる人っていますよね、みなさん」

そのロス博士の第一声はこれでした。

「なぜかしら？ 私、思うに、そんなふうにして死を恐怖する人って生きているタイプなんじゃないかしら。なぜなら、死というのは生がちよっと形をかえたものにすぎないわけですから」

りだわ。私は心の中で賛成の声をあげていました。

たとえば、世間には「古い」という言葉をきくのもいやだ、という人たちがいます。このタイプの人たちとは、皮肉なことには現実的に老いていきつつある中年者や老人ではなく、若い人、実際のところ若すぎるくらい若い人たちなのです。

私はティーンエイジャー雑誌や若者雑誌にも記事を書いています。そういう雑誌の読者、だいたい十三歳から二十歳までの男の子や女の子などがまさに典型的なそのタイプだと思うことがあります。

彼、彼女らは「オジン」「オバン」になることを非常に怖れます。じゃあ、いったいオジンやオバンというのはどんな怪物なのかしら？ 彼らにいわせれば、それは二十五歳をすぎた人たちの総称です。「二十五歳すぎたら人生、おわりだ」

彼らは実には大マジメな顔でこう断言します。そう。彼らにとってオジン、オバ

ンになることは一種の「死」を意味するのです。彼らとつきあってみると、ロス博士というところの「自然死」さえも異様に恐怖する人」とはこういう人間たちかと実感することが少なくありません。

彼らは言葉使い、服装、行動のすべてを「子供」の状態にとどめることにより、オジン、オバン化を防ごうと涙ぐましい努力を惜しみません。その努力のほどは、ロス博士の本拠地であるアメリカで、「若い」と「死」に抵抗しようときちがいじみたフィジカルトレーニングにあけくれるビジネスマン諸嬢諸氏のそれと、本質的に同じものです。そして日本の子供とアメリカの大人は「死」を怖れるばかりに生きることを楽しまない点でも共通します。「西洋型の思考では生はあくまでも人間がコントロールするものであり、死はコントロールの失敗を意味してしまいました。その点、生とより共感的なつきあいをしてきた東洋人の死に対する考え方は、もっと自然なのではないかしら」

ロス博士はこういいましたが、どうして、日本人の死に対する抗いかたも自然さでは負けていないじゃないの、私は自戒をこめてこう思いました。

さて、ロス博士の話はこのあたりにして、本来の取材目的である箱庭療法のことを少し説明しましょう。箱庭療法は日本においてもっとも普及したという評価を得ている心理療法のひとつです。

ところで、そもそも心理療法とはどういうものなのでしょう。心理療法にはカウンセリング方式をとるもの、作業療法と呼ばれる、仕事をするを通して治療行為を行なうもの、絵画療法といって絵を描くことを治療方法とするものなどがあります。箱庭療法は絵画療法の一変型のようなものです。

やりかたはさまざまでも、心理療法のめざしているところは同じ。こころの病いをもつ人を、自発的に現実に向かいあう姿勢をとらせるのが目的です。

おや、心理療法というのはノイローゼ

を治したり、悩みを解決して幸福な状態をもたらすのが目的なんじゃないの？ 実はこれが大きな誤解。心理療法の目的は患者を悩みのない幸福な状態にすることではなく、悩み多い現実と正面から向きあえる勇気をもたせることにあるのです。心理療法で心身症がなおる、というのは、患者本人が自身の現実をすっかり直視できるようになったことによって、二次的に症状が消えた、という意味。チック症や神経性の頭痛を治すことが心理療法の第一目的ではありません。

セラピストはなんのために立っているの？

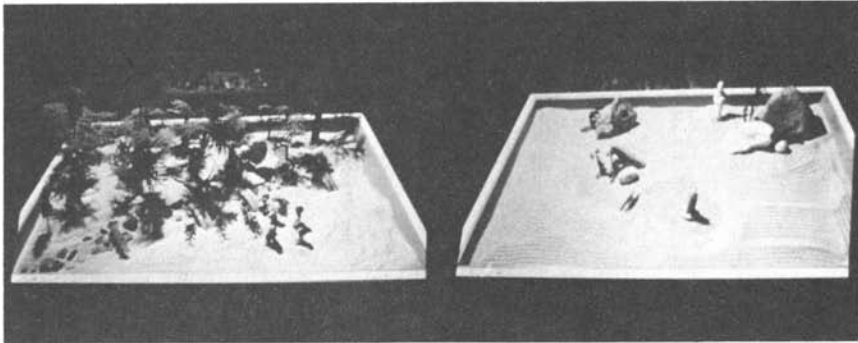
話が抽象的になりすぎましたね。では今度は、箱庭療法の実際の治療現場を再現しながら、箱庭をつくるとなぜ、現実に向かいあうことになるのか、を解明してみることしましょう。

箱庭は、玩具をおく前には単なる小型の砂箱にすぎません。患者はこの砂箱に自分のつくりたいものをつくります。セ

ラピストはクリニックに来院した患者に「今日はアレをつくってみたい気分？」とききます。もしそのとき患者が箱庭にさわりたくなければ、決して「作らない」と強制されることはありません。患者の自発性が箱庭療法のミソなので、患者は「アレをつくってみたい」という気分になり、箱庭の砂をいじり、玩具を置き始めたとしましよう。

そのときセラピストは何をするのか？

答え、何もしません。ただ砂箱の横にたって患者が箱庭をつくるところをみているだけです。もし患者がすばらしくダイナミックな海の風景をつくり始めたら、セラピストは「ヒヤッ、凄いのね」というかもしれません。また非常に奇妙な形のお墓を造形すれば「へえ、それ何？」ときくかもしれない。しかし、それ以上のことは決して言いません。「こう置いたら」というような指示もしないし、「その帽子はあなたの母親を意味していますね」などと賢しげに講釈をたれる、とい



箱庭療法の用いるのは長方形の箱とその中にいれた砂、そして小さな玩具類だ。患者が箱庭に「自分の作りたい情景」をつくっている間、療法士はそのわきに立ち箱庭を眺めている。療法士が玩具の置き場所を指示したりすることは禁じられている。

うこともありません。

じゃあ、その人、いったい何のためにいるの？ セラピストは患者が箱庭を前にして一人きりにならないために存在しているのです。砂箱の中に箱庭をつくる、という創造行為を通して、否が応でも自分の心、そして自分の心を病ませている現実にはむかいあわされるという事態はどんなに強い人間でもふるえあがらせる経験です。セラピストは、自分自身が砂箱の中につくりだした「現実」に、患者が怖れを感じて、思わずうしろをふりかえったとき「大丈夫よ」と言い、患者をホッとさせるために立っているといっても過言ではありません。

実は、私も箱庭を一回つくったことがあります。前述した月刊誌に箱庭療法の記事を書いた時のことです。三木アヤさんという著名な箱庭療法士の自宅で記者みずから箱庭をつくり箱庭療法を体験してみるという企画でした。

私はこのとき砂箱の中に、ある「夢」を

再現してみるつもりでした。その夢とは私が八歳のときから月に一回から二回のわりあいで見つづけている大津波の悪夢です。私はこの夢の意味を知りたいと思い、冒頭で紹介した男性セラピストを前にして、それをコトバで再現しようとしたのですが、これは失敗に終わりました。

失敗の理由は、とにかくこわかったからです。私はコトバをあやつることを生業としている人間ですが、自分のみた悪夢をスミからスミまで正確に言語化するというのは、とてもじゃない、ムリな注文でした。ひとことでまとめようとすれば、夢が現実味を失いますし、細部までことこまかに述べれば述べたですさまじい恐怖感が襲ってきます。あまりこわいときには声が出ないように、私は、夢の再現がナマナマしくなるにつれてコトバを口からおしだせなくなりました。

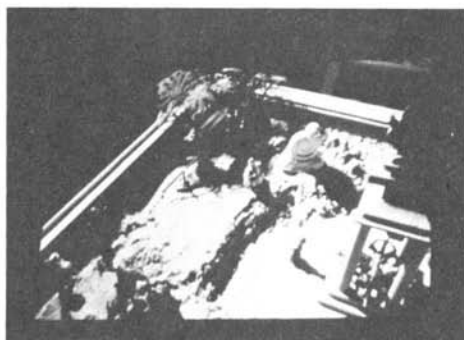
そこで、私はこの夢をコトバではなく箱庭で再現してやろうと思ったのです。結果は？ 大成功でした。私は恐怖を感じ

ずに自分の夢を思うさま箱庭に表現することができました。同時に、それまで越えがたいと感じていた、子供を生むこと^とに対するアンビバレントなこだわり、無力感、絶望感といった否定的感情が徐々に雪融けの様相を呈してきたのです。

これが現実^ににむきあう、ということなのでしょう。箱庭をつくった三日後、私は風呂^いだ海の夢をみました。十二日後、私は夢の海の中で泳いでいました。一カ月後、私は海にもぐり海底でアヒルのおまるに腰かけ泣いている赤ん坊をみつめて救出する夢をみました。どの夢も八歳以降の二十年間、一度もみたことのない夢であることは言うまでもありません。

トランスパーソナル な男と女の箱庭

この箱庭療法は日本人にむいた心理療法だといわれています。旧来から「箱庭」という文化があったせいではないがよかったのかもしれない。が、最大の理由



患者は玩具を置く際に説明を加えることもあるが、何もいわなくてもよい。この場合には患者は本文中のような説明を付け加えた。

は日本人が箱庭療法の特徴である、患者とセラピストの「無言の会話術」に長けているからだ、とされています。例えば言語化コミュニケーションの国、アメリカでこの箱庭療法を行なうと、セラピストは講釈をたれたくてウズウズし、患者はなぜ自分がこの玩具を手にしたか、というのを大声で説明することに時間を費やしてしまうことが往々にしておけるとか。その結果、患者は自分のドラ声とセラピストの欲求不満状態にジャマされ



箱庭療法は患者がもう十分だ、と感じたときに自発的にやめることができる。この患者はこの箱庭を作って療法をやめた。

てなかなか自分の心に沈潜することが出来ないという悲喜劇があります。この点、日本人の、とくに女性には箱庭の治療効果をひきだす能力に富む、というのが定評です。

ですから、この学会でカルフ女史が日本人の中年女性の箱庭を紹介したのは大変、必然なことだといえるでしょう。

この女性は既婚。因襲的な生活様式が色濃く残る京都の田舎にすむ、ごく平均的な人物だということです。彼女は夫の

両親と折り合いが悪く、実家の猛反対をおしきって結婚したために、実父母との間にも感情的なシコリをつくってしまいました。そして最近では、夫の、姑や舅に対する態度にも、煮え切らないものを感じています。

彼女が初期につくった箱庭(27P右)は川で箱が分断されており、彼女がそのとき感じていた疎外感が伝わってきます。しかし何回か箱庭を作りつづけるうちに初期の作品にみられる悶々とした雰囲気は次第に開放されます。27P左の箱庭はそういう時期の典型的な作品。ユートピアを思わせる白い砂地の右隅に「聖母」が出現しました。彼女は「聖母」を観音だともいっていいわ、とカルフ女史にいい、次の機会に作った28P左下の箱庭にはこの「聖母観音」に向いあう形で大仏が姿を現します。聖母と観音が融合しているというところがなんとも日本的。カルフ女史は、この聖母観音は彼女の母性、左隅の大仏は男性としての夫なの

ではないかしら、と語ります。彼女は現実を正面からみつめているうちに、一番大切なことは、自分自身を知ること、女性であり、母性を根源的エネルギーとしている自分の姿を把握することだと感じたわけです。そして29P上の箱庭は彼女が一番最後につくった作品です。私は、この作品がうつしだされたとき思わずカメラのシャッターを押すことを忘れて、スクリーンに見入ってしまいました。会場内からは期せずしてホッというようにだよめきがおこったことをおぼえています。

「この、男(夫)と女(彼女)が一つに融けあっている箱庭は、トランスパーソナルの極致だと思っんです」

カルフ女史はこうしめくりました。相反する二つのものが、それぞれの特性を保ちながら融合するトランスパーソナル状態がこの一女性の心の中に具現しているとカルフ女史はいうのです。日本のおバンもなかなかやるわね。私はスクリーンをみながらそう考えました。

投稿ホットライン——笑う門には福来たる

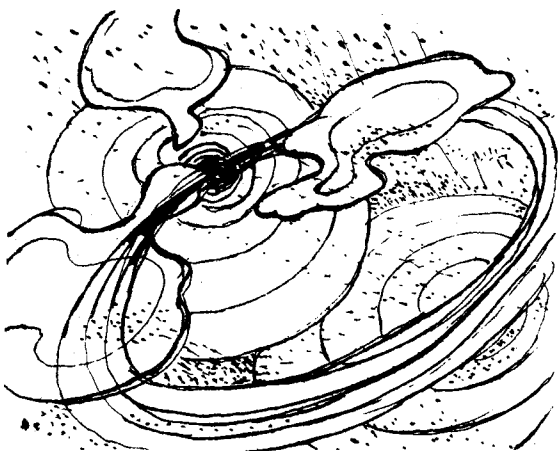
ファミリー・イン・ブルー

知に働けば角が立つ。情に棹させば——ああしんど!

浮遊家族

東京都江東区

田口けい子



この七月で会社をやめる。六回目の転職だ。私は今年二十六歳になるが、高校を卒業してから八年間というものの、転職に次ぐ転職人生を重ねてきた。どの職場でも可愛がられ、大切にされてきた。しかし長続きしないのだ。お尻のあたりかむずむずしてきて、いてもたってもいられなくなるのだ。なんという根気のなさか。情けないとつくづく思う。思いつつ、また今年も退職届を書いてしまった。

私の兄は今年三十五歳になる。彼の転職回数は私などの比ではない。私が知っているだけでも十六回。今の会社には今年の四月から勤めしたが、私の読みではたぶん九月には荷物をまとめて帰ってくるだろうと思う。私は働くことは好きなので、必ず次の仕事を決めてからやる。仕事がないと不安でたまらない初心者だ。

兄はその点、器が大きいというか、神経が図太いというか、先のことなど耳かすほどとも考えてはいない。食えなくなる

と田舎に帰って来て何日でも寝て暮らしている。三年寝太郎という昔話があったが、うちの兄などは十年寝太郎である。

昔話の通りなら、いったん腰を上げればこの兄もひとかどの人物なのかもしれないが、たぶん一生腰など上げぬだろうと私は思っている。

さて、父であるが、彼は昨年中に三回転職をした。三十四になるムスコがいるのだから父だっという年なのだが、彼もまた若い頃から一カ所に三年以上勤めたためしがない。彼の場合、職安に行っている新しい会社を見つけ、大喜びで出かけるのだが、出かける前は褒めちぎっていた会社を、帰って来るとヤクザのタコ部屋以下に悪くいう。その変容ぶりはあきれる……というよりも、最近はその域に達した感がある。

「給料がいい」は「残業ばっかのクソ会社」に変わり、「上司の人柄がいい」は「口ばかりのタヌキおやじ」に変わる。ようするに、会社に過大な期待を抱き過

ぎるからいけないのだが、夢多き老年というか、年老いたピーターパンというか、彼は先日喜々として職場へと出かけて行った。「今度のところはすごいんだ。今までで一番いい会社だ」という、いつものセリフを口走りながら。

モラトリウム家族、放浪癖一家。我が家には、皆で力を合わせて家庭を守ろうという気持ちが欠如しているのだ。我が家の誰もがボリーナスをもらったことがなく、有給休暇なんてものは夢のまた夢。失業保険だって半年働かなくてはもらえないのだから、めったに恩恵にはあずかれない。当然のことながら家は貧しく、貯金なんぞは一銭もない。

母親は家族のていらくに開いた口がふさがらず、もはや悟りの境地に達したようだ。コツコツと続けていたパートタイムも放棄し、自分だけ働くのが馬鹿らしくなったのか、働け、とも言わない代わりに自分も働かない。

とどのつまり、みんなろくに働かず、

まあ自分がなんとか食えりゃいいんじゃない、と極楽トンボを決めこんでいる。のんきでいいネと人は言うが、何と答えていいのやら私にはわからない。

暮れと正月だけ家族が全員集まる。この時の騒ぎは並たいていではない。酒を飲むにつれ父は唄い、踊り、裸になる。

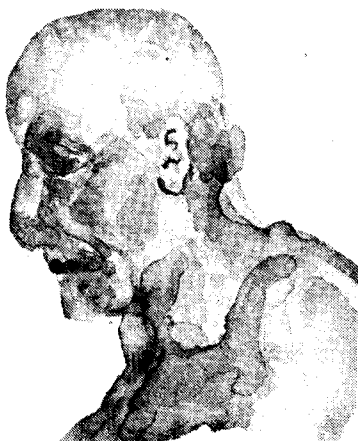
母は泣いたり笑ったり、文句を言ったり忙しい。兄は誰彼かまわずからみだし、しまいにケンカとなる。コップが倒れ、皿が飛ぶ。ガラスが割れ、泣いて、怒って、謝って、狂乱劇は朝まで続けられる。傷つけ合い、のしり合い、それでも年二回なんとなく寄り集まってくるところがおかしくてかなしい。

家族の結びつき方にもいろいろあるわけ、良い悪いはともかく、我が家はこれで案外うまくいっているのかもしれない、とこの頃は思う。父五十五歳、母六十歳。二人の老後を考えている者は誰もいない。だからといって、二人が子供をうらんでいるようすはさらさらない。

三人の老人を看取つて

大阪府高槻市

T・Y



私の祖父、しゅうと、姑、三人共三年ほどねたきりとなって亡くなりましたが、私の祖父は、娘の頃で若さもあって、力もあり、世話をすることなど少しもつらいと思いませんでした。

でも、しゅうと、姑ともなれば、気持ちが一変します。小姑一人でも鬼千匹というのに、六人もいたのですから想像もつきましよう。長男の嫁、次男の嫁、三男の嫁、それぞれ違ってきます。高木さ

んは編集部が宝塚にあった時からお会いして知っています。高木さんのようなお嫁さんだったら、長男の嫁である私はほんなに楽だったか知れません。

しゅうとは、私の次男が生まれて半年ほどしてから床についたのです。赤ん坊と病人とをかかえての戦争です。おむつの洗濯に追いまくられました。遠い川へ行つて……。おむつをする時、病人の足を私の両肩にかけるようにして、「ヨ

イシヨ」と病人と声をかけ合ったものでした。便の悪臭が私の体から消えるのに、やはり長い期間かかりました。絶えず香水を振りかけて人前にでしたが。

今度は姑です。しゅうとの十七年忌をつとめてやれやれと思つたら……。ねたきりとはいえ、温和しくしていません。

食べていないとか、便が出ないとか、医者に早く死ぬ注射をしてくれるように頼めとか、私もぼつぼつつかれてきました。よく新聞種になる「病人と共に看病づかれ云々」看病したものでないとわからないと思います。フトそんなこと考えることもありましたよ。

三人共亡くなった時、涙がでませんでした。何故なのか、鬼の目にも涙というのに。

高木さんの文章をよんで、こんなこと書く気になりました。高木さん体に気をつけて下さいネ。

突然のお墓事情

東京都江東区

匿名



「いったい私はどこの人間だろう」まさか記憶喪失でもないし住所不定でもない私であるが、私の胸の奥からはその思いが離れない。

二十五で結婚するまで佐賀県で育った。夫の父親も私の両親も佐賀に帰ってほしいと希望があったので、いずれは帰るだろうというくらいの気持ちで上京した。舅は結婚してかなりしてから、長男である夫に家業の後継ぎをしてほしいといひ続けていた。それ故東京に住んでいて

も当然佐賀県人と迷いもなく思っていた。

私は旅先などで

「どこから」

と気軽に聞かれても、

「東京から」

とは未だに言えない。

「今は東京だけど……佐賀」

とどうしても言いたくなる。

その私がどこの人間かと迷い始めたのは、五年前、舅がなくなつてまだ初七日もたたないうち姑から、

「お父さんのお墓を分骨にします」

と一方的に骨壺を示された時からだ。

夫が中一の時舅と再婚した姑であるが、仲の良い夫婦だったし親子だった。私もお墓のことなど考えたこともなかったが、というより考えもしないほど、私達の死後はここのお墓にと信じていたのではないかと思う。あるいは姑は長男である夫にも、父の側にいさしてあげたいという優しさからの言葉だったのか。

その時の驚きと怒り、ややあつての淋

しさは言葉にはならなかった。

結局その時はお墓も仏壇もないので今は貰っていないとお骨はおいてきた。

東京に戻るやいなやお墓のことが気になった。中でも一番の気がかりは、値段よりも場所よりも私達がお墓を買ったとして、田舎に帰る場合、お墓も中古の売買が出来るかどうかということである。友人に話しても考えたこともないという人が大部分であつた。別の友人は、分骨は身体を別々に離すことだから仏様に対してよくないと言う。しばらくそのことでゴタゴタしていたが、時間がたつうちに分骨の話も消えた。

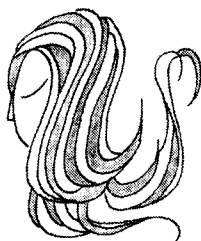
その後、姑は夫の入院の際も快く手伝いにきてくれたし、夏休みごとの帰省を楽しみに待っていてくれる。先日もあるにみごとに出来たのと、じゃが芋と玉ねぎを送ってくれた。仲の良い親子であるし、嫁、姑である。

ただどあれ以来、みなし子みたいなたよりなさか私のどこかにある。

(え・岡田正子)

ワンポイント情報④

ヘアダイのすべて



質問

- ① いづごろから、なぜ？ ② 髪の種類と体質 ③ 種類と分量
④ 使ってたわかったこと ⑤ 面白いエピソード

若さへのノスタルジアか？

髪を染め続けてもう十年が過ぎた。

に思っている。

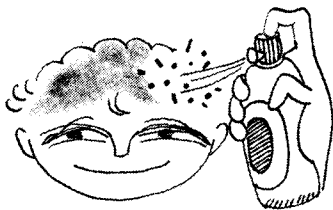
五十の年を数えてからは髪を染めるたびにこれで最後にしよう、と思うのだが、少しばかり改まった場所へ出ることがあると、迷いつつ染めてしまう自分を不可思議

初めて毛染めをする時はお店に任せるのが安心だが、お店だって失敗することを私は経験したことがある。私の髪は柔らかく、鳥のぬれ羽色ならぬ栗毛色でくせつ毛な

のだが、それは馴染みの店だったにも関わらず、染め加減を見ていた店のおかみさんの驚きようは、私にもそれとすぐ判った。鏡に写る私の毛は何と黄金色だった。勿論注文通りの栗毛色に仕上げても

らったが、その時のおかみさんのあわてようを思い出すと、吹き出しそうになってしまう。二度と金髪にされては困るので、しばらくは自宅ヘアダイを続けたいことがあった（ビゲンとウエラ

東京都三鷹市 阿部 小枝



スプレー式が手軽で確実

製品)。シヨートの髪には市販品の半分の量で充分で、残りは危険のない場所に保存し、二カ月後に使用しても私の髪には何ら損傷はなかったから、お店でのヘアダイ料とは比べられないほどの安さなのが嬉しいことであった。

しかし夏の盛りや、暖房を必要とする期間のヘアダイはおっくうだし、化粧台周辺での作業は思いも

よらない所へ染め液が飛んでいて、汚れ落としにはひと苦労がある。もう染めまいと思う一つには、艶のないあわれな髪を見る時だ。きま目のありそうなシャンプーやリンス、トリートメントと使ってはみても効果は薄く、毛染めなど不必要だった頃を懐かしんでいる。最近になってヘアマニキュアをする店を見つけてトライした。

一カ月間は髪に艶を保つというところだ。若い髪へのノスタルジアを追うか、あるがままの白髪を享受するか、嗚呼、五十代はまだまだ悩み多いのです。

●ビゲンヘアカラー
ユーホー(株) 名古屋市東区徳川一五〇一
六四〇円

●ウエラ

ファイン コスメティック(株)
東京都港区芝浦四一三四田町きよたビル Ⅷ(代) 〇三三四五六一六五〇〇
一三〇〇円くらい

●黒染カラースプレー
黒ばら本舗 東京都墨田区本所二一七七一 Ⅷ〇三二六二五〇〇四〇
五四〇円

剛毛、直毛、漆黑、三拍子そろった私の髪は、若白髪をまぬがれない運命にあったと確信している。なにしろ高校生の時から出はじめたのだから。

チラホラとごあいきょう程度にあった白髪が、急に目立ちはじめたのは短めの髪形にしてから。一見わからなかった(奥にかくれていた)白髪が、段カットによって表

面に現われ、そろそろ染めなくてはならないかなと、それでもまだそんな余裕があるころはよかった。五月下旬。今までより少し短めにカットしてもらい、美容院で鏡を見てわが目を疑った。一気に増えている。思わず傍らの美容師さんに、「ひどい。これはひどい。染めなくちゃ!」と言っていた。早速、これがいいですよと持ってきてく

神奈川県横浜市 橋本由紀子
れたのは、スプレー式の白髪染め。染めたい部分にさっとひと吹き。シャンプーすれば落ちるというのも手軽そうだったので、即、買い求めた。

色は黒。使いはじめて一カ月足らずだが、使い勝手は上々である。

私の場合、前髪にはほとんどなくて、両サイドに集中しているので、

スプレーもしやすい。スプレーする時は、必ずタオル等で肩をおおひ、顔にもひっかからないように気をつける。かりにひっかかっても顔はふけばすぐ落ちる。スプレーした直後は髪にさわると色が手につくが、しばらくすると手にも

つかなくなる。ヘアスプレー特有の髪のゴワゴワ感も、時間をおいてくしでとかせば解決。今のところはこのスプレーで、若返りならぬ、年相応[・]が果たせそうである。なにせまだ三十二歳。白髪が目立つには早すぎる年齢で

はあるまいか。これから先、スプレーではカバーしきれなくなる時もあることと思うが、そうなら本格的なヘアダイを試みるまでのこと。単に目立たなくするためには、スプレーが手軽で確実、ということにははっきり言えること

である。
●フォードエクセルカラースプレー黒髪
三口産業(株) 大阪市天王寺区玉造本町六一五 皿〇六一七六一
一五六三六
一〇〇〇円(一五〇g入り)

ほつとつとつとは言ったもの……

①五十歳ぐらいから。友達にいわれてから。

②やわらかい染まりやすい髪。体

は何の反応も示さない。

③粉末、液体、クリーム状。

④自分で染めると十日目頃から、一本ずつ生え際から目に見えるようになる。

今から十年ほど前の話。

「ちょっと相談したいことがあるので、都合つけて来てくれへん」と電話。

ちよっとこいに用心、といいながら行く。男女五、六人、顔なじみばかり。

「のむのか」「なにいつてんの、大事な相談や」

「実は、地域の新聞でもつくって、交流の場にしようと思うのやけど」

「そら、あかんワ、つづかへんワ、前もやりかけたけど、いつのまにやら消えてしまったやないの、やめとき……」

一瞬、座が白けたようになってしまった。

ワイワイ、ガヤガヤ、
「じゃこの話は次にして、今日はのもうか」

それがいい。こんなことだったらすぐきましてしまふ、とリーダーのしびい顔。

やがてトイレにゆこうと思って立った一人の男性。

私の頭をつくづくながめて、

「あんた若い気にいるけど、てんづく(中心)まっ白やで」

「なんやて。ほつといて、白でも黒でも」

大阪府高槻市 吉田てる子

まあ、まあ、と仲裁にはいられて腹の虫がおさまった次第。

若い、若く見せたいという女心の裏側をつかれたような思いはいまでも忘れられない。執念とはおそろしいもの。

「まっ白やで」の一言から、集中的に神経が頭にくるようになったこと。十年前は、美容師も「ま



だ若いのですから」と派手な色をとすめていたのが、現在は「もうお年ですからこの色で」言葉がかわってきたのがシャクの種。年をへると共に、ますます面の皮は

あつくなるばかり。美容師の手にかかった髪も、十五日もたてば、白く見えてくる。

「奥さん元気なセイですよ」とニヤリ。何をいおうとしているのか。

あー気持ちワル。
●パオントリートメントカラー
山発産業(株)

九〇〇円(六〇ml入り)

●ビゲン・クリームトーン

ホーユー(株)

一〇〇〇円(四〇g入り)



アリミノブラウンカラー

私がヘアダイを始めたのは四十代半ばからである。仕事(速記)の関係上ファッション界の一流の方達を訪ねてのインタビューに同行するようになった時、ひとり下を向いて文字を連ねる白髪(私は後頭部が目立った)頭を、三宅一生ややまもと寛斎に見つめられることにひけ目を感じて染め始めた。最初は三月に一度美容院で染める程度だったが、だんだん期間が短くなり、ヘアダイとセットで七千円ほどの出費がもつたと思われ、自分で染めるようになった。体質はアレルギーだが、皮膚テス

トは異状なし。最初シャンブー式のを使ったが、現在は、(株)アリミノのアリミノブラウンカラー。一箱六百五十円を二回に分けて使う。毛染め用刷毛で根元からつける。アリミノ商品は、美容院専用らしく、一般の化粧品店頭にはないようだ。日本人の髪に合った商品を永年研究しているということだが、使ってみて、全体にムラなく染めるには、それなりの技術がいる。しかし慣れてくると結構きれいに染まる。色もちは一カ月経つとムラになるし、新しい白髪も混じって汚

なくなるが、外出の用がない時はギリギリ我慢している。いつもきれいにしていられないなら、染めなかったほうが良かったのでは……と思うこともしばしば。アリミノを使うようになったのは、次のような経緯がある。岡山市に住む姉が行く美容院では、ヘアダイの客がくると「染め方教えてあげるから、これを使って自分で染めたら」といって、一箱千二百円で分けてくれる。前述のように一般店頭で売っていないからといって、上京の折、二箱買ってもってきてくれた。その後、箱に書

東京都新宿区 T・A
いてあった住所をもとに会社に電話して尋ねたところ、「代理店で売っています」といって一番近い代理店を教えてくださいました。そこで同じものが六百五十円で買える。近頃は東京から岡山へのおみやげにヘアダイをあげている。姉は私よりずっときれいに染めている。毛の質にもよるのだろう。
●アリミノブラウンカラー
(株)アリミノ 新宿区下落合一ノ五ノ二二 Ⅷ〇三三六三三八
二一一
六五〇円

パーマが伸びるヘアダイ

東京都日野市 早川 裕子

四十代も半ばにさしかかると、目立って多くなってきた白髪が気になる、去年の春頃からついに染める決心をした。最初自分で染めるのは、うまくいくかどうか不安だったので、美容院で染めてもらったことにした。肌に合うかどうかをみるパッチテストはOK。が、染料を塗ってしばらく待っている間、薬が頭にしみてやたらに痛い。美容師に言うとう、みんなある程度はしめるのだという。

更に困惑したのは、それ以来、洗髪する度に髪の毛が馬のシッポ(想像だけ)みたいにゴワゴワで、とても自分の毛とは思えなくなること。トリートメントをすれば、一応しなやかになるのだが、私の自然の毛ではない。こんなこと、頭髮や頭皮にいいわけないなあ。

みんなこんな思いをして染めてるのかなあと、複雑なキモチ。二回目のとき、そんなことを美容師に話すと「ええ、私の髪もゴワゴワで針金みたいですよ」と平然。その時もしみたけど我慢して、二ヶ月おきに染めてついに三回目のこと。染めた翌日、何気なく頭に手をやった私はビックリした。地肌に大きなカサブタみたいなものができているのだ。驚いてあちこち手で頭をなでまわすと、大小いろいろなのが、あちらこちらにできている。これは大変と、もう染めるのなんかヤメたと決意した。この染料は「ウエラ」という名前だそう。

そんなとき、編集部の中でも一番白髪の多かった和田さんが、突然真っ黒い頭でさっそうと現われた。今までより十歳くらい若くみえる。これまでアレルギーなどで染められず、白髪頭を余儀なくさせられていたところ、先日夫君のお母さんと間違えられて、くやしきのあまり一念発起、肌に害のないものを探しあてて染めてきたというわけだ。

それは「ネオビーマン」といって、昔「オハグロ」に使っていたものを、毛髪用に開発した染料だという。三ヶ月たつて自分の頭髮を鏡の中に見るのがユウウツになってくると、これを自分も試してみようという気になった。買ってきて使用法を見ると相当ややこしい。液が二つに分れていて、一号液を塗って二十分置いてから、二号液を塗り、今度は三十五分放置するという具合。でもこれは痛くもかゆくもなく、まずは安心。ところが、この一号液には副作用があつて、これを塗るとパーマが伸びてしまうのだ。

しかも問題はまだまだあった。これで二回染めたあと、パーマをかける段になった。説明書には「本品で染めた毛髪はパーマがかかりにくく、コールドパーマ液で紫色の濃い色が出ます。それをおさえるため、パーマの前に、ハルンをお使い下さい」とある。薬局へ買いに行ってみたが、ハルンはなくて、注文するのだという。そのときはそれを待つ時間がなくて、しかたなくそのまま美容院へ。美容師にわけを話して、きつめにかけてくれるよう頼んだが、案の定パーマ液と反応して紫色の液が出た。美容師は、私が美容院で染め

るのをやめて自分で染めたのがもとで、彼女の手が紫色に染まりなかなかおちなかつたりしたので大変機嫌を損ね、「やっぱりこれは、いくらきつめにかけようとしても、なかなかかからないです」と冷たい。

それ以後私は八方ふさがり。生来ちぢれ毛でパーマの必要のない和田さんが羨ましい。パーマをやめれ

カツラなんて言うなバカ!

●「豊かな黒髪にしたい」という両親の独断と偏見で、私は四歳まで丸坊主にされていた。お陰で、黒くハリネズミのような固い髪、にどれほど悩まされたことか! その反動で、愛する夫と巣を構えてすぐヘアダイ。赤毛のアンのごとき髪に大満足だった。

●二年後中止。「毛染めは白髪を促進させる」と友人から忠告され

ば、あまりにもポリュームのない私の髪は手入れに困る。そうすると結局白髪頭を貫くしかないのか……。段々白さの増してきた頭をにらみながら迷いの日々をしばらく過ごしたあと、また薬局で「資生堂ヘアカラー」に手を伸ばしたのは、最後のあがきというべきか? これは副作用もなく、パーマ上の問題もなくて、染めやすいという。

中にパッチテスト用液も入っている。悪ければ返してよいと良心的。そのテストもOKで、いざ染めてみると、泡立て式なのでネオビーマンより染めやすく簡単。しみることもなく、頭髮もゴワつかず、染まり具合もまずまず。これでやっと私はヘアダイトラブルから解放されたのかどうか——その答えの出るのはいさう少し先かもしれない。

●ネオビーマン

(有) 共同製薬所 Ⅷ〇三—八三一〇—三三五・五七九〇

九〇〇円

●資生堂ヘアカラー

(株) 資生堂 Ⅷ〇三—五七二—五一—

一七〇〇円(外に色落ちを止めるシャンプー使用一二〇〇円)

たのがきっかけ。

●それ以来、日々年々いや増す白毛を見て見ぬ振り。しかし昨年九月の誕生日、鏡に写ったおのが姿を見て「もはやこれまで」とヘアダイ覚悟。この一年霜降り頭を人工的に若返らせてみた。

●頭皮はツラの皮並みの強さなので毛染めのトラブル一切なし。

●アリミノ(新宿区下落合一—五

—二二)のヘアカラーテンミニッツNo3。定価六〇〇円がスーパーで五四〇円。安いのが気に入って

いたが、どうも使用中お酢の中に頭をつっこんでいるようなにおい。これが欠点だ。

●一カ月前から、ポーラ化粧品品のポーラヘアカラー3Rに切り替えた。値引きなく二〇〇〇円。これは香料が入っているせいか悪臭な

東京都多摩市 中国 洋子

く、当分これでやってみるつもり。

●毛染め所要時間三〇分。もともと毛の伸びの早い性質なので、月一回。この道での先輩Tさんから「ショートヘアは半量で充分」といわれやってみた。仕上がりグッド。

●先日ワケあってテレビ出演した時「あなたいいカツラ買ったわね」と友人から電話。いやーんもう、これでも自毛なんだよーん。

サークル だより

箱根サークルだより

五月十日に箱根と秦野サークルの交歓会が、新緑とつつじのまっ盛りの箱根で開かれました。

会員手作りのケーキに舌つづみをうちながら、相互の活動方針や各人の自己紹介、サークルを続けるにあたってのアドバイスを先輩格の秦野より伝授して頂き、我が

箱根サークルも、やるぞ、

という感じをもてて良かったと思っています。

これからも、親睦を兼ねて、

こういう機会をもちたいものです。秦野の皆さん、ご協力、有難うございました。皆さんのいろいろなお話が、とても参考になりました。

各地のサークルの皆さんも我がサークルと交歓会をもちませんか。まだ歩きはじめたばかりですが、少しずつ、皆さんの良い点を見習

い実りあるサークルにしたいと思っています。『氣負わず、自然体で!!』という威能さんの言葉を肝に命じて、出来ることを大切に会員の融和をはかりながら、少しでも魅力ある女性になりたいものです。これからはメンバーも増やして、各人の意識の向上に努めたいと思っています。 石沢由美子

松戸サークルだより

五月の集まりで、わいふ、購読拡大について話が出ましたのでご報告いたします。

月刊にするという案が編集部より提案され私達も、望ましい方向、として受けとめておりますが、具体化にはまだ問題もあり、時間がかかると思われます。理想としては読者を現在の倍以上増やすことにより、経費の効率化と、新会員による誌面のリフレッシュを図るというのはいかがでしょうか。

机上の空論というよりは、食卓囲みでの雑談に近いものですが、二三提案いたします。

①地方の読者の掘りおこしと拡大を、計画的に行なってほしい。

編集部に出かけて意見をいえるのは都内や近郊の読者に限られるので、もう少し遠い地域の読者の意見を聞くと同時に読者獲得の目的で、講演会を開いてはどうでしょうか。独自の講演会は準備に人手も時間もお金もかかりますので、各都市の社会教育委員会や婦人団体主催の、講演、等に乗乗するやり方が一番賢明だと思えます。すでに田中さんと和田さんが精力的に行なっているらしいですがあまりにもお忙しい二人にのみ押しつけるのは無理と思われま

地方の読者の協力をお願いして、各地の公的講習会や講座の予定表を出来るだけくわしく報告しても

サークル だより

らい、便乗できそうな日時を知らせてもらってはいかがでしょう。
「わいふ」の講師をお願いするよう陰ながら尽力していただければ申し分ないと思われます。

講師の人材はこの際幅

広く発掘してみて

はいかがでし

よう。三カ

月〆六カ

月先の

予定も

含めて、

年間スケジ

ュールのよう

なものを作って、

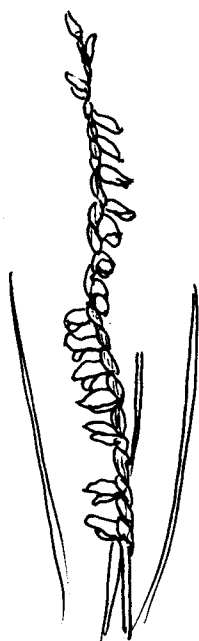
計画的に行動されたなら、少人数でもかなり行動範囲が広がられると思われます。

地方の読者の方々の協力が得られれば、可能な方法と思われますが、いかがでしょうか。

②テーマ原稿の投稿規定を兼ねたミニグループ作りと読者発掘。

テーマ原稿は個人でまとまった長い文を書くのが苦手だったり、時間がなかったりすると、非常に興味のあるテーマであっても、なかなか投稿できないのが現状だと思います。

テーマを三回分ぐらいまで公表して、各テーマに関心のある人達でミニグループを作り、ディスカッションしながら原稿をまとめるという方法はどうでしょうか。その際読者だけに限定しないで近所や



同窓会仲間等もさそって一緒に話し合うことにより、「わいふ」の楽しさを体験してもらうこともできると思います。〆切りまで時間がない場合は、まとめ役の人を決めても良いと思いますが、時間がある場合、誌上でまとめ役を公募し、名のり出て頂くのも良いと思います。テーマ別のグループなので地域別グループとちがった広がりが生まれ、継続するのも良し、一回だけで解散するのも良いという自由さが魅力になると思われます。一度ご検討頂きたいと思います。

(文責 松下)

編集部より

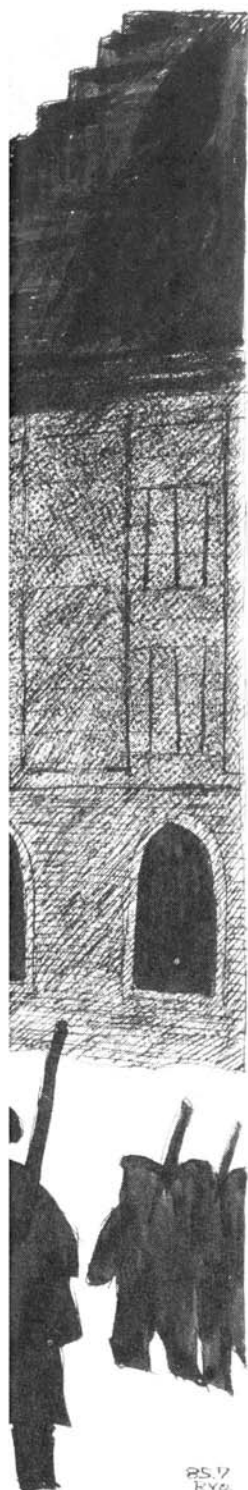
ご提案ありがとうございます。月刊の実現はとうとう不可能になってしまひほんとうに申し訳なく思っています。

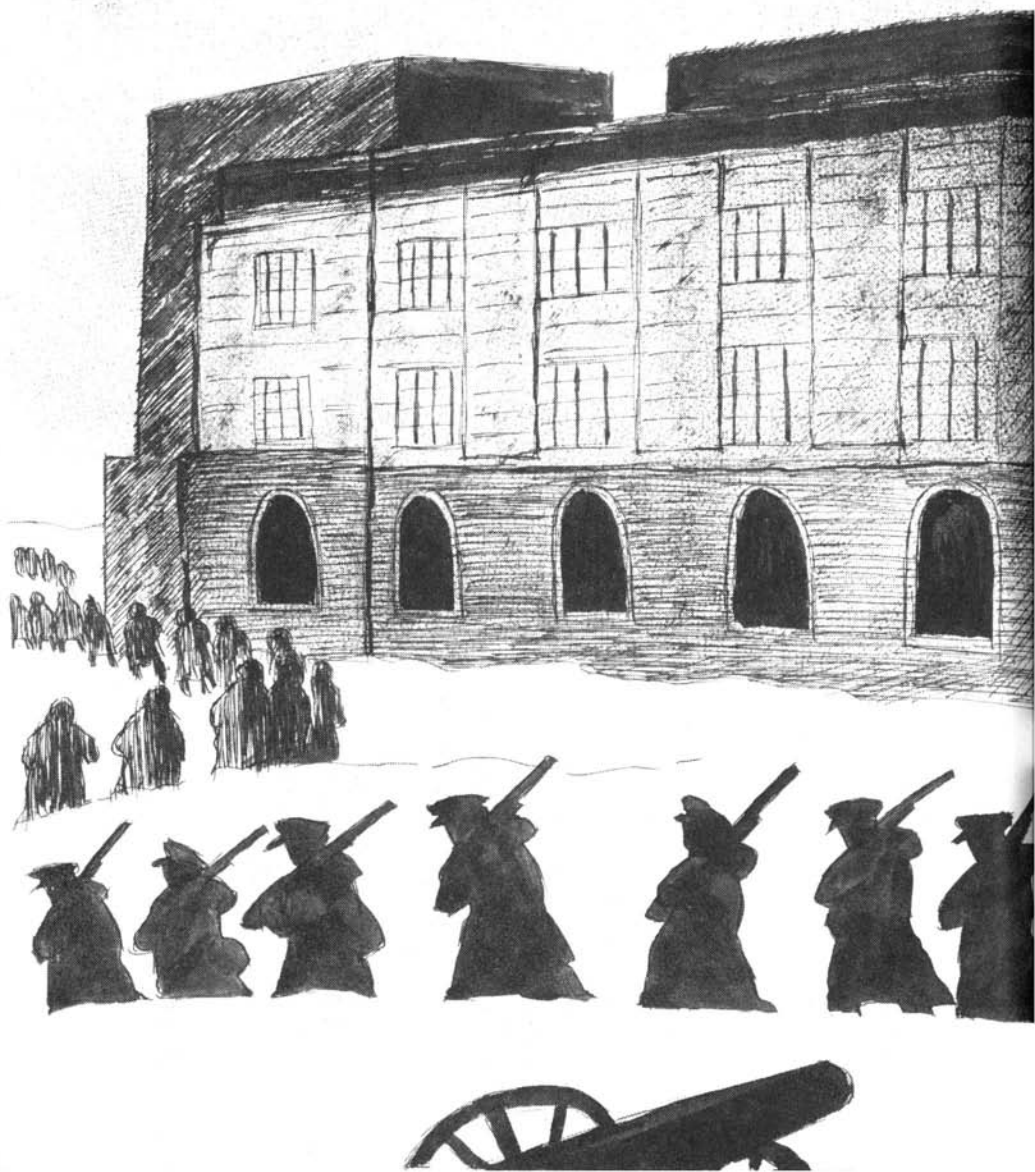
第一のご提案はこれまでも同じ線で努力してきましたので、これからも広げていくつもりです。労働・再就職問題では原田静枝さん、PTA・教育問題では早川裕子さん(民教審の事務局の大黒柱です)結婚・性の分野では鈴木由美子さんと、人材が育ってきていますので、どうぞお声をかけて下さい。さて、テーマ原稿に関しては、グループで討議しながら作成というのは無理だと思います。そもそもテーマ原稿は、どうしてもこれを書きたい、という切実な体験を持っていらっしゃる方のために設定しているのですから。

私の昭和史 ①

桜井淳子

雪の日





昭和七年二月三日、私はこの世に生まれた。

私の記憶はある雪の日から始まる。当時、東京の中目黒^{あぶらめん}油面という所に住んでいた。前日から降り続いていた雪は地上の全てを覆い、一面の銀世界と化していた。

朝食が済むと、二人の姉は学校へ出かけた。ブスリブスリと小さなゴム長靴は雪の中に穴を作っていた。雪まみれになって消えていく姉達を私は窓から眺めた。

私は元禄袖の着物に綿入れのちゃんちゃんこを着、赤い別珍の足袋をはいていた。両手を八ツ口に突っこみ、母の側からはなれようとしなかった。

台所で食事の後かたづけをしている母のかたわらに立っていた。台所は四畳半の板の間で、土間にはへっついがあり、大きな釜がいつも乗せられていた。板の間の一隅には、タイルの流しがあり、その横に、大きなかめが置いてあり、その中には水が入っていた。金属製の柄杓が入れてあり、いつも水が使えるようになっていた。井戸は家の外にあり、バケツで水を汲んでは、かめの中に入れるのであった。

ガスも水道もなかった。

板の間の一部は、上げ板になっていた。一番土間に近い板をはずすと、炭俵が入っていた。まん中の板をはずすと、漬物の樽が並んでいた。一つはぬかみそであり、一つは白菜漬のつまみものであり、もう一つはたくあんであった。

味噌のかめや、醤油の瓶、梅干のかめ、らっきょうの入ったガラスの大きな広口の瓶も入っていた。奥の上げ板を取ると、ブリキの大きな罐が並んでいて、中には昆布やかつをぶし、かんぴょう、おふ、豆類の乾物がしまっていた。

私は、母が台所の上げ板をはずして、中の物を入れたり出したり、整理しているのを見るのが大好きであった。

板は毎日、ぬれ雑巾で拭くのでピカピカ光っていた。

板の間の端には、木製の米櫃とねずみいらず（戸棚の一部をアミ戸にして、風通しよくしかもネズミが入らぬようにしたもの）が並んでいた。ねずみいらずの上段には、常備菜の佃煮や、煮豆が蓋物に入っていた。ガラスの戸のついた中の段には、お客様用の茶器や、ガラスのコップがきれいに並べてあった。下の段の深い抽出しには、家族の使う食器や箸箱が入っていた。

板の間は、母の領分でもあり、子供達のおそびの間でもあった。

母は食器を洗い拭き終わると、外に出ていった。たらいを板の間に運び入れた。そして馬穴で雪を運んではたらいの中に入れた。

私は何を始めるのだろうと見ていた。母は大きなお盆を自分の前に置くと、たらいの雪をすくってお盆に入れた。手でかためて形をとのえると、庭から取ってきた南天の

実で目を作り、アオキの葉っぱで耳を作った。

「雪うさぎ」

母は、私の目の前に雪うさぎのお盆を差し出した。

「さあー、淳子も作ってごらん」

小さなお盆を私の前に置いた。私は、ハッ口から手を出すと、母のまねをして、たらいの雪をすくいお盆の上に乗

せた。雪は、バラバラと崩れてかたまらなかった。どうやらこうやら小さなかたまりを作ると、南天の実で目を作り、アオキの葉っぱを押しつけた。不格好な小さなうさぎが出来る上だった。

「おかあさんうさぎと、こどものうさぎ」

母は、二つのお盆をおぜんの上に並べて乗せた。うさぎ



は今にもはね出しそうであった。

炭取りから炭を一つ取り出すと、母は風糸で炭のまん中を結えた。そして、糸を私の背丈ぐらいで切った。

糸の端を私の手に握らせて、その上に母は自分の手を重ねた。糸のついた炭をたらいの中に落とす。そして、糸を手繰りよせるとまっ白い雪が、まっ黒い炭に吸いつくようにしてついてくるのだった。

「雪つりよ。ひとりやってごらん」

母は言った。

私はひとりで、糸のついた炭をたらいの雪の中にほうりこんでみた。そして手繰りよせた。最初少しかった雪は、だんだんに大きくなって炭にくっついてくる。面白くて、時間のたつのも忘れてしまった。

母はこうして私をあそばせながら仕立て物の仕事をするのであった。

母はいつも働いていた。

朝から晩まで、ある時は夜中までも。

私が目を覚ます頃には、台所でコトコトと朝食の支度をしていた。

朝食になると、夫や子供達へごはんをよそったり、おみおつけを配ったり、のりを焼いたりいそがしかった。母

は何時、ごはんをたべるのか不思議でならなかった。

食事が終わると、台所で後かたづけをする。井戸端までいき水を汲んでは、台所のかめの中に入れて貯めておき、飲料水や洗ひ物に使う。

ごはんは、へっついで薪を燃料として炊く。炊き上がるまでは、へっついの側をはなれられないのであった。煮物は七輪に火を起し炭火で煮る。

掃除は、はたきで障子や襖のほこりをはたき、ほうきで塵を掃き、雑巾で拭いていく。

洗濯はたらいの中で洗う。固形の洗濯石鹼を使い、洗濯板の上でごしごしともみ洗う。井戸端での洗濯は、雨の日や雪の日を除いて、母の毎日の日課であった。

春夏秋冬、母の仕事は変わらなかった。季節によっては、その節目の仕事があった。衣がえになると、汚れた着物をほどこし、洗い、張り板にのりをつけた布をピンと張り、乾かして着物を縫い直す。ふともも古くなると、わたを打ち直し、皮を洗い、新品のようなふっくらとしたふとんに仕立て直す。

野菜は、旬の頃に山と買いこみ、漬け物にしておく。らっきょう、梅干し、なす、きゅうり、白菜、大根、保存出来るものはなんでも保存しておくのであった。

たった一人で、てきぱきとこなしてしまふ母であった。

座っている時は、いつも裁縫をしていた。家族のもの他に、近所の人々からの仕立て物もしていた。

母の仕事は速くてきれいであるとの評判であった。

近所のおばさん達が反物を持って、母をたずねてくると、お茶を入れ、お菓子を出してもてなし、注文を聞きながら寸法や、仕立て上がりの時間等を手帳に書いていた。話好きのおばさんの話を、仕事をしながら聞いていた。世間の噂もけっこう知っていたようであった。

長い髪を束髪に結び、着物の上に割烹着を着ている姿、それが母であった。割烹着には三種類あり、家の中にいる時は、洗いざらしのつぎの当たっているのを着、町に買物に出る時は、衿や、ポケットにレースのかざりのついた洒落たのを着る。

お正月や、特別の日には、新しい下ろしたてのを着るのだった。

雪つりにあきると、私は座敷に上がり、母が縫物をしている隣に座った。部屋の中には大きな火鉢があり、やかんがしゅんしゅんと音を立てていた。

母の前には裁台タチダイが広げてあり、その上に縫いかけの着物モノが置いてあった。母の針箱が横に置いてあった。針箱の一番上には、針山があり、鋏ハサミ、篋ヘリ、指貫等ユビメが入れてあった。

★わいふバックナンバー

179号 成功したしつけ・失敗したしつけ(四五〇円)

180号 父親はほんとうに必要か (以下同じ)

181号 PTA・その苦しみと楽しみ

182号 家にいてできる仕事

183号 特集なし(イメーヂチェンジ一号)

184号 私の災害体験

185号 私の親ばなれ闘争記

186号 お医者さんを診断する

189号 知的内職の落とし穴

190号 わが家の夫婦ゲンカ

191号 集合住宅で生きる

192号 私のやってみたセールス

193号 学校教育への疑問

194号 わが家の受験戦争

送料は一冊二〇〇円、二冊と三冊二五〇円、四冊と六冊三〇〇円、七冊と九冊まで三五〇円です。十冊以上は編集部で負担致します。

注文は編集部へどうぞ。(〇三)二六〇一四七七

上段の引き出しを引くと、糸がぎっしりつまっていた。色々な色の糸が糸まきに巻かれて並んでいた。絹糸は光っていた。木綿糸は丈夫そうだった。麤糸も束ねてあった。下の段には、ゴム紐や風糸、ゴム通し、スナップのついた紙や、ボタンが入った小さなセルロイドの箱が入っていた。小さな手帳とエンピツもそこに入れてあった。

私は母の手先をみつめた。白い割烹着から出ている母の腕は白くふくらんでいた。

母は火の中に入れてある鑊カマを時折り出しては、先ず当て布で熱さをためしてから縫い物の布に当てるのであった。

紬台でぴーんと張った布を、すいすいと針ですくいながら紬ていくのは見事であった。篋カで印をつけては待ち針で合わせて、チクチク縫っては、針を指貫で押し出してから、指でしごいていくのも面白かった。

私も母に倣って、母が私用にくれた裁ち落としの小さな布であそんでいた。缺で切ったり、糸で縫ってみたりした。早く母のように縫い物の上手な人になりたいと思った。

しばらくすると、

「雪を食べようか」

母は手を休めて言った。それから立ち上がると、外に出ていった。母はどんな寒い時でも家にいる時は素足であった。白い足首から形の良い足が、寒さのために踵から指先

へかけてうす紅色に染まっていた。雪の中へも、その素足のまま高下駄をはいて出ていくのであった。

井にいったいの雪を入れて髪に雪をちりばめて母は部屋に入ってきた。

小さな小皿に雪を取り分けると、ガラスの砂糖壺から砂糖を雪の上にサラサラとかけた。

銀色の匙をそえると

「美味しいよ」

と言って私に小皿の一つをくれた。

雪は飛び上がるほど冷たくて、口の中で砂糖と一緒に溶けていくのだった。

出来上がった仕立て物を風呂敷に包んで母は考えているようだった。

「留守番している？ それともかあさんと一緒に竹下さんのおばさんの家までいく？」

「いっしょにいく」

私は即座に答えた。

たった一人で雪の日に留守番はこわかったからだ。

母は私の着物を脱がせると、姉の小さくなったセーターやスカートを押入から出して着せた。赤いマントも取り出した。

母も別珍ベージュの藤色の足袋をはき、洒落た割烹着に替えると、

大きなショールを頭からすっぽりかぶった。

二人は雪の外へ出た。

母は大切な仕立て物を二重に包んでしつかりと片手にかかえ、片手で私の手を引いた。

高下駄にはさまる雪のために母の足元はおぼつかなく、ころびそうであった。私も、自分の長靴よりも深い雪の中を歩くのは大変なことであった。

やっとの思いで二人は竹下のおばさんの家へ着いた。



「まあーまあー、大変でしたね。明日でもよかったのに」

おばさんはそう言って、こたつに入るように勧めた。マントを脱ぎ頭からかぶっていた衾まききはずすと、私はこたつに入った。

母も大きなショールをはずしてこたつに入った。

「はい、お駄賃」

おばさんは私に五銭の銅貨をくれた。大金だった。

熱いお茶とお菓子をお馳走になっておばさんの家を出た。帰りに、母は私を背負ってくれた。

「雪やこんこん、あられやこんこん」

二人は大きな声で唄いながら雪の中を帰るのだった。

母の割烹着のポケットには、私のもらった五銭と仕立て物の賃金が入っていた。二人とも豊かな気分ですれ違ひも感じなかった。

外から帰ってきた父が二重廻しの雪をはらい落としながら、興奮した口調で話をしていた。それを聞いて母も驚いたようであった。とても大変なことが起こったらしかった。幼かった私には解らなかった。

二・二六事件であったと後年理解したのである。

昭和十一年二月二十六日の雪の日であった。

(え・田井亮子)

投稿ホットライン——あちらを立てればこちらが立たず

対話のページ

受験戦争の記事に思う

兵庫県宝塚市 野村 純子

三年半の川崎転勤を終えて宝塚に戻ってきました。川崎での最初の一年は関東と関西の生活風俗の違いを気がつくままに書きとめて、それは主婦的視野で季節季節にこまごまとあり、優に一年何かと書くことができました。二年目からは川崎の生活にも慣れて、だれていましたが、それがまた宝塚に帰ってみると「ああ、これはこうだったんだ」と思うことがちょこちょこあって、今しばし感動の毎日を楽しんでいるところです。

そこへ丁度一九四号が転送されて来ました。

その号の特集「わが家の受験戦争」をチラッと見て、また川崎当時の自分のやるせない暗い気持ちが続きました。「受験戦争」がテーマで偶然か当然か、特集三編のうち、東京近郊の二編が中学受験、他県の一編が大学受験、ここにすべてが集約されます。つまり東京近郊の小学校が今、変に進んでいる？ 恐るべき状態なのです。そして多分、ずっとそこで暮らしている親子は特に変だと深く考えていないし、そこ以外のところでは子供が子供らしく遊びながら育ち、しかも学校でちゃんと勉強している現実を、昔のことのように思ったり、全く信じられなかったりしているのです。

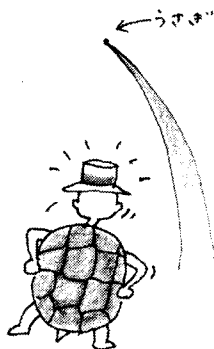
一体誰がこの異常な中学受験をうみ出したのでしょうか。その遠因の一つに、高度に合理

性を追求した文明都市の単一化があると思います。

宝塚にはまだ自然が残っています。人間にとって美しく気持ちよい花や木だけでなく、ボーボー茂る雑草や可憐な野の花がありました。ハエや蚊もいますが、その他名も知らぬ無数の虫の生活もあります。

いろいろあって、それぞれが生きている。時には助けあい生かしあって生きている。便利はいいこと、エリートは幸せと思ひ込んでしまった人は、本当は人間も含めて自然界は、多様でこそ豊潤”ということをしつぱり忘れてしまっているのではないのでしょうか。

親の力で子を幸せに出来ると思う傲慢さも本来の自然の姿を忘れた都会人の特徴では？ シツペ返しがあれば良いかと憂慮します。



「わが家の受験戦争」を読んで

東京都江東区 藤枝まさ子

一九四号の「わが家の受験戦争」を読んで
中学受験について思うことがいくつかある。

一言で言うと中学受験は親の見栄とエゴイズムと押しつけ以外の何ものでもない。哀れなのは子供達である。たとえ子供が自らの意志で進学教室に通い始め、楽しんで受験生活を送っているように見えたとしても、中学受験をするという選択をした背景には、親の考え方の投影があるはずである。

公立中学に行くより私立中や国立中学に行ったほうがコースに乗りやすいという、社会情勢を踏まえた判断を十一歳か十二歳の子供ができるものだろうか。自分で判断を下したとしても、長じてから後悔することもあるに違いないと私は思う。親の意志と願望の手足となった従順な子供達は、自分の選択でない

押しつけの選択に身を任せて必死に勉強しているのだ。そして優位の成績をとることで間違った選別意識を身につけ、小生意気な子供になっていくことが怖い。

それに中学受験は受験戦争の前哨戦ではない。中高一貫教育の学校に入学できても、

六年間は長い。十二歳の時の榮譽しか誇れずに六年後の本番を前に脱落する者は確実にいるのだ。その例を私はいくつも見聞きしている。私立大学付属中に入学した場合、後の十年間は優雅に過ごせるだろうが、学外者と比べて学力の低下は必至であり、温室育ちの免疫力のないお嬢さんや、遊びなら第一級のお坊ちゃんができるがったりする。

無事入学しても、進学教室と塾と親の力によって波に乗せられて受験勉強を続けた子供が、今度は自分一人の力で勉強を始めようとしても、先ず第一に有効なやり方を見失い、途方に暮れてしまうだろう。なにしろ今まで自分だけではなく、二人三人がかりでマラソンを続けて来たのだから。勉強は親がさせるのではない、子供がするものなのに、受験

産業の波に乗せることで、他人の作ったカリキュラムののっとった勉強を続けて来たのだから。だが財力のある方はそれも問題ではないかも知れない。入学後も入学前と同じく大車輪で塾や家庭教師の助けを借りれば良いだろう。

中学受験に成功しても、東京では国立の数を除いて、ほとんどの私立中学が男女別学である。国立中は抽選制度があるので勉強ができるだけでは入学できないし、私立の共学校もあるにはあるが、敢て受験勉強をし、遠距離通学をさせるほど魅力のある学校でもない。とすれば、合格した者は男女別学の六年間を過ごさざるを得ないことになる。

六年間も同性だけの学校で過ごすことは異常なことである。感受性のおやかな時代に異性から閉ざされた環境に身を置くことは、それ自体暗く長いトンネルを忍耐して通ることにはかならないのだ。触れさせないでおくより、共学にあって異性を見る目をきたえておくのは大切なことだ。本年度東大合格上位二十校中、共学は僅か五校である。商船大学

が女子に門戸を開いたように、別学校にも共学の道を開くことが、二十一世紀に活躍する人間に対しての配慮ではないだろうか。

私立高の著名大学進学がここまで跳躍した裏には、東京で言えば都立高校の目をおおうばかりの凋落がある。その原因が学校群制度の導入と、ゆとりの時間の導入にあるのは周知の事実であろう。都立高校の凋落が私立高校国立高校の、著名大学合格の上位独占に拍車をかけ、教育の機会は均等ではなくなり、教育の質の違いは歴然としている。

たとえば私の居住する江東区で高校受験をする場合、都立高校はどれもこれも似たり寄ったりで大したことがない学校ばかりである。そのどنگりの背くらべのような高校に入るのに区立に通う中学生は四苦八苦しなくてはならない。何故なら区立中学生は物理的に勉強の時間を作り出すことができないからである。

主要科目の授業時間数を見ても、私立と区立では倍近く差がついているというのに、区立中学生は、連日夜六時半までの運動部の練

習をこなさねばならない。中学生に自由時間を与えることは非行につながる、という考え方からか、運動部にはほぼ全員が加入し練習は毎日、それこそ日曜も夏休みも切れめなく続けさせられる。中学生は帰宅したときにはすでにくたくたになっており、欠伸をしながら宿題をしているうちに眠ってしまうそうである。

区立中学は生徒を問題なく通過させることを焦るあまり、学力をつけるよりも非行化させないための配慮を先行させている。知力よりも体力を目いっぱいに使って中学三年間を送った挙げ句に、やっと都立高校に入学しても、その都立高校がどنگりの背くらべだとしたら、事態は全く閉塞的ではないか。

このような公立中高の状況を悲観して、一握りの親たちが子供を中学受験にしむけるのだろうが、中学受験の勉強など子供に強制するのはまっぴらだと思っている親は、区立中都立高の平凡なコースを選ぶしかないのである。そしてその平凡なコースからは人並みの大学も難しいらしいと聞く。そんな茨の道を

敬遠して子供をコースに乗せるために、受験産業の只中に放りこむことも一つの見識かも知れぬが、子供に選択の余地を残し、茨の道を敢て進ませるというのも、やむを得ない選択と言わざるを得ないのである。

若木さんへお答えします

東京都中野区 坂本 良美

「離婚予告」を書いた直後、夫と別居し、現在ではアパートを借りて子供二人と暮らし始めました。もちろん子供は保育園、私は仕事に出ています。「予告」を書いたころはまだ揺れ動いていた私ですが、今は自分が信頼できるように、充実した毎日をおくっています。

私は生まれて二十八年目にしやっと「自分」というものを見つけたのです。他人の価値判断や社会通念に惑わされない本当の「自分」を。それまでの私は「優等生」であり続けようとして、自分を縛り、苦しみ続けてき

ました。「良い子供」でなければならぬ。
「良い生徒」「良い嫁」「良い母親」でなければ……と。

でも「良い」というのは誰が決めたのでしょうか。少なくとも私以外の誰かです。他人の目から見て「優等生」になろうとしていた私は、優等生になれない自分に絶望し、他人を恐怖し、それこそ就職する勇気も失っていました。

ですから、子供ができて結婚した時点においては、結婚は私にとっての逃げ場であり、救いでありえたのです。その点では夫に感謝しました。本当に愛せる相手ではなかったにもかかわらず、この人でいいんだ、と思い込もうとし、この結婚にしがみついてしまったのは、私の絶望と未熟さのゆえです。それは弁明の余地がありません。

ただ、未熟な男女が結婚した場合、妻のほうが一方的に夫の横暴に対する被害者になってしまうのです。話し合うことでわかり合える相手ならそうです。でも不可能なことは初めから知っていました。自分に自信が持て

ず、彼しか選べなかった自分が情けなくて、私は何度悔やし涙を流したことでしょ。

ところが、もうほとんどあきらめていたのに、思いがけず自信をとり戻すことができたのです。奇跡のように思われました。私はどうしてもやり直したい。それがどんなに自分勝手であろうとも、敢てこの「自分勝手」を自分に許します、「自分」のために。

「良い」「悪い」の判断から自分を解き放った私は、すべての社会通念に疑問を抱いています。なぜ両親がいないと子供がかわいそうなの？ なぜ母親といたいとかわいそうなの？ 母親は子供を幸せにできるのか？ そんな自信あるの？ 母親の役割って何？ 父親の役割って……？

でも、これだけはいえると思うのです。母親が幸せでなかったら、子供は幸せになれない……と。そして今の私は幸せです。

最後に……子供達は両親に望まれて生まれてきました。それは確かです。子供は私の心の支えです。子供達は私の絶望を和らげ、私にいつのまにか成長する糧を与えてくれてく

ました。夫と別れた今も、たぶん私は子供達がいてくれるからこそ、強く生きていこうと思えるのだ、と思います。

まず表現しましょう！

東京都多摩市 高野 容子

「一九三三『グラビア』に一言」の鈴木さんへ——「何か解せない」とあるので、何か変なのかな？ と思って一九三三号を見たけれど、私にはピンとこず、ややあって、全員の写真なり、会場全体の写真ならばともかく、個人しかも常連らしき人達だけだから、鈴木さんは「解せない」のかと思ひあたりました。
「わいふ」が、投稿誌と看板をかかげている以上、「投稿をしない人々を大切に」という件は、本末転倒ではないでしょうか。

高校時代に、英語の教師が、授業とは関係なく、突然に、「声なき声をきけ！」とよく日本人は言うが、声なき声をきくことが出来ますか？ 日本人は、単一民族で、言語も単

一、しかも島国という交通上の難点からか、言わずとも、他人の気持ちを思いやる。これは悪いことではないが、決して良いことでもない。外国人は、地続きで、民族も多く、そのために言葉ではっきり言わなければ通じないことがあり、それは日本人には過剰な表現のように感じるかもしれない」と。教師は、ともかくイエスでもノオでも、ハッキリ表現することを盛んに言っていたことを思い出しました。

短絡的な部分もあり、一概に言えないこともあるでしょうが、その後、表現は違うけれど、日本（人）対外国（人）という現場で、度々日本人の腹芸の不可解さが指摘されています。

極端な言い方をすれば、その号の『わいふ』が不満だったら、投稿しなくても、その号も送り返すぐらいの意志表示があってもいいのではないでしょうか。編集部の人にとって、沈黙している人は、良いと思っているのか、悪いと思っているのか、計りようがないのが事実だと思うのです。

かく言う私も、はじめて原稿用紙に向かっているのです。一九四号に『多摩サークルを作りませんか』と載せていただいたのですが、それは、便箋にグチめいたものを書いたわけで、載ると知った時は、驚きました。原稿用紙に書いたものでなければ、載らないと思っていたいましたから。で、反応はと言えば、たまたお一人の方からあり、他の読者の連絡がないというのは「サークルなどいらない」と思っているのか、「サークルにはほりたいけど忙しい」方なのか、意志表示がない以上、私は、一人悶々と思いつむのであります。

学生時代以来の原稿用紙、稚拙な文で言いつくせないことはかりで、うまく相手方に伝えれば良いのですが……。

自然食品の汚名挽回

福岡県宗像市 栗岡 理子

一九四号、再就職の落とし穴③に掲載されていた雅根舎の紹介記事を読んでいて少々気

になったことがあります。それは自然食品と健康食品の混同です。文中のチラシ、「無農薬や有機農法のおいしい野菜たちや安全な食べ物」を、ただしいわゆる自然食品店や健康食品店ではありません」を読むと、まるでおいしい野菜や安全な食べ物が自然食品ではないようですが、これらこそ、いわゆる自然食品”なのです。

ですから、ポロ儲け”できる玄米黒酢など決して自然食品ではなく、普通自然食品は腐り易いため、また大量生産できないため、儲からない、というのが相場のようです。

近頃プームの自然食品や健康食品、この二つを同じものと考えている人が多いように見受けられ、新聞やテレビまでが、それらを混同して報道することで、人々に自然食に対する誤った考えを植え付け、食生活や健康にも悪影響を与えかねない情報を氾濫させているのです。そもそも自然食品にプームなどというものがあるはずはなく、ただ余りに不自然な食品が際限なく増え続けていくことに不安を感じた人々が、少しでも自然に近い形に食

物を戻したい、昔から食べ続けていた無害な、おいしい食物をこれからも食べたい、と願い、無添加の食品を捜し、食べ始めたことが、たまたま健康志向の人達の医薬品まがいの食品ブームと重なり、誤解を招いたものと思われます。また私の知っているある良心的な自然食品店を除いて、大抵の自然食品店では、利幅の大きな健康食品に店のスペースの大半を割いていることも誤解を生んだ要因の一つでしょう。もちろん健康食品の中にも良い物もたくさんあるのですが、余りに大きな効能書きや、ビタミン、カルシウム等をむやみに添加している物などどうかと思われます。私達の体は長年食べ続けてきたものに合わせて作られているはずですから、栄養補助食品に頼る必要はないのではないのでしょうか？

我が家では数年来、いわゆる自然食品を食べていますが、特に変わったことはしていません。食品を購入する際、野菜ならば農薬がどの程度使われているか、また加工品ならば添加物の有無等を考えるぐらいです。しかし

人によってはそれがとても奇異に映るらしく、一度ならず「そんなことを考えながら食べていたら、おいしくないでしょう」とか、「おいしいものは何も食べられない。まるで禁欲主義者ね」などと言われました。しかしおいしいとかおいしくないというのは、かなり主観的なことですから、たとえばどんなにスイカが好きでも真冬に、ハウスの中でこのスイカを作るためにどういう薬品がどれぐらい使われたのだろう、などと考えながら食べてもちょっとおいしくないことは、容易に察しが付くでしょう。同様に真冬にミカンというごく普通の取り合わせでも、ニッソール農薬裁判のことを考えると、やはり少々割高でも自然食品店で低農薬有機栽培のミカンを買おうという気になるわけです。つまり私の場合は安心がおいしさにつながっているのですから、禁欲主義者という評価は的をえたものとは言えないのです。

以上、少しでも自然食品アレルギーの方のお役に立てれば幸いです。

「姑を守って」を読んで

東京都葛飾区 勝俣 元子

初めての投稿にこんな内容のことは本当は書きたくなかったのです。けれど、こんなに腹の立った文はありません。きっと、私が長男の嫁であり、体の不自由な姑と同居しているからかもしれません。

ご主人には喜ばれ、子供達の自立のためと良いことづくめのように書いてありますが、家のことを全部おっぱり出して、老人の看病だけ。（あなたには経理の仕事がおりになるようですが）これは次男の嫁だからできることです。

長男の、それも同居（たとえ別棟でも）の嫁がどうしてそんなことできましよう。何をしたって、「当たり前」と見られることがほとんどではないでしょうか。

おばあさんが……静かに夜を過ごしている……、ひまさえあれば……。もし、兄嫁さ

んが看病に当たられていたら、こんな夜を過ごせるとお思いですか。私は腹が立って、おばあさんの看病という大義名文をふりかざして、「何だ。骨休めに来たんじゃないか。おばあさんのためじゃなくて、自分のためにじゃないか」と声に出しました。

「ゆったりとしたやさしい気持ちで……こんな生活も、長い人生の中、何年かはいいのではないかと思っています」の文に本音が表われています。

本来なら、時間と納期に追われ、あくせく働いているのに「看病」がプラスされるわけですから。

嫁と姑の問題は、当事者でなければ、わからないことばかりです。時間的なもの、年齢的なもの、その時の健康状態や、虫の居所によって、さまざまなことが起こるのであって、確執などと、一言で片づけられるものではありません。また、長年一緒にいますと、仲が良い悪いに関係なく、ある情というものの方が強く働いているものです。第三者に、簡単にわかれてたまるか、というような複雑に

入り組んだ感情があるものです。

ノイローゼ気味になられた兄嫁さんが私はお気の毒でなりません。

きっと、あなたのように、生活をすばっと切って看病だけ専念できたら……と思ってい



らっしゃることでしょう。それもできず、あなたのように書いたり、すぐ行動に移したりできない方なのでしょう。長男の嫁って、そういう立場にあるものではないでしょうか。「おねえさんがいるのに、どうして、あなたが世話しないといけないの」なんて言う母で

なかったことを嬉しく思います。と結んでありますが、このせりふは、「本来、長男の嫁である兄嫁がするべきなのに、私がやってあげている」のを暗に表わしています。

姑との同居は、姑が元気な時、若い時のほうが、嫁も未熟なせいもあって大変なものです。寝こむようになって、特に、下の世話だけで、ボケもせず、頭はかしくてやさしいおばあちゃんなら、若い時よりずっと、つき合いやすくなっているはずですよ。

姑に限らず、年老いた親の面倒は、実の親子兄弟、義理の親子兄弟を問わず、兄弟で仲よく看るように、自分の立場を考えたいものです。

かしこいあなたに。くれぐれも私が、私ひとり、おばあちゃんを見るんだというふうにならないように。兄嫁さんの出番をそれとなく作って、みんなで、「おばあちゃんをお世話しているのよ」という雰囲気、あなたならできるはずですよ。そのほうが、子供達にもいい勉強になると思いますし、おばあちゃんが一番よろこぶと思いますよ。

本音を汲み上げる雑誌

香川県丸亀市 山田 幸子 (36歳)

一九四号に載った佐々木さんの「わいふへの応援歌」に、子持ちの主婦ながら、いたく共感を覚えました。私も常々、夫や子どもとセツトになっていない自分の領域を掘げようと思って、いろいろ試みてきましたから。

ですが、現在はまだ女が全きそれ自身として存在し、ものを言いたい状況にあると痛感することしばしばです。それでもやはり、ひるむことなく、夫や子どもをからめて自分と語れないという、居心地の悪さを感じて見すえていきたいと願っています。

話は変わりますが、「わいふ」のおもしろさは、女性問題の最先端をいくようなすぐれて先見性のある意見も載れば、たゆとう専業主婦の心もようも載るといふ編集部の意図せざる(?) バランスにあるのではないか……

とこの頃私は思ったりしています。私を含めて何とかしなきゃと思っている専業主婦には、心のどこかで今の自分をいささかなりとも肯定しなくては立つ瀬がないという思いがあるのではないのでしょうか？

自己否定と自己肯定のはざまで、日々揺れ動いている専業主婦の本音をも、汲みあげることで、私に「わいふ」を読んでも励まされたり、発奮したり、あるいは共感したり、憤ったりしています。

なぜ「女は……」なの？

大阪府交野市 浜尾 幸恵

一九四号、中川あき子さんの「あこがれの……」を読ませていただきました。

終わり近くまでは、「念願の専業主婦になって、生き生きとよみがえっている」この方に、良かったわねと、ほほえましい気持ちでいたのです。

がっかりしたのは、「何といっても女は奥様稼業が一番である」のひと言なのです。

「またか」と思いました。「女は……」ではなくて、「私は……」にして欲しい。このたぐいのひと言には、時々出会います。そのたびに私は、ヘナヘナと気持ちがなえてしまいます。

「やっぱり子供がいなくて人生は……」
「女もちゃんとした仕事をもって……」
「結婚しない女は……」

どうしてこんなふうに、十把ひとからげにしたがるのでしょうか。

子供がいなくても幸福な夫婦はいます。家事がにがてでも、外へ出れば生き生きと仕事をしている人がいます。結婚しなくても、さまたまな楽しみをもって魅力的に生きている人がいます。いろんな人がいるんです。それに、男だから……とか、女だから……という考え方に、こだわらない人も増えつつある世の中だと思います。

おしつけ、説教、紋切り型のことは、もういやだという気がしています。

「お手伝いさん頼む」の巻

東京都目黒区 高野 貴子

「アリヤー、もう六時五十分だ。急がなくなっちゃ大変だ」とベッドから、すっ飛び下りていく。

冷蔵庫には何にもないし、この時間じゃあ冷凍コロッケとレタスのサラダ、卵焼き、ザーサイ、梅干しの定食型お弁当にするしかない。週に一、二回はこの定食弁当になってしまふし、ヘタすると寝すごして「ハイ、パンのお金ヨ」なんて渡しちゃうことだってある。どっかの女優さんみたいに、平均睡眠時間四時間、お弁当は絶対作る、なーんて優秀な母親じゃあないんだから私は。でもどうして女優さんってあんなことができるんだろう。

このままいくと、親子して共倒れになりそう。仕事は絶対やめたくない。

そうだ、ここは過渡期とあきらめて、お手

伝いさん”をたのもう。そう思ったのが五月初旬のある日。気の変わらないようにと、その日のうちに募集広告をたのんでしまった。

その新聞が出てから、三十人近い人からお電話を頂いた。その中で家も近く、電話の話しぶりも良い人にお願ひすることにして、五月下旬から私の生活にも「お助けマン」が登場した。

最初に彼女が家にやってきて、お掃除してくれたときは忘れられない。いつも帰った後ウンザリするあのザラザラは全くなく、ビシッと片づいている。パンザァイ!! これはこたえられない気分ダゾ、イイなあ。夕ごはんだって、トンカツが揚げるばかりで冷蔵庫に入っているし、キャベツの千切りだってある。思わず口元がニタニタとほころんでくる。アア良かったとホッとして、服を着替えて靴下をぬいだときの快感。何とも言えなかった。

そうだ、これは男の気分じゃなかるうか。職場でグタグタに疲れて帰って来て、家の中がピシッと片づいているとき、きっと男の人

ってこんな幸せな気分になるんだろうな。

私は家事が下手で、無能主婦だった。そのへんは今も変わらないけど「何にもできない、駄目だあ、何か楽しいことないかなあ」と強い劣等感に悩まされ、逃げ出すことばかり考えていた。

お金もたくさんは無かったけど、困っていたわけでもなかったの、仏語会話、英会話、華道、テニス、水泳、ヨガ、エレクトーンと次から次へと手あたり次第何でもやってみた。どれもこれも大好きなんだけど、劣等感から逃げるためにやっていたんだから長続きしない。父の死や子供の病気がきっかけですぐにやめてしまふ。それに生活バランスが悪いから、一つのことには夢中になると家事をおろそかにしてしまい家の中はすぐグチャグチャ。亭主には文句を言われ続けていた。

こんなメチャクチャな生活から私を救い出してくれたのは仕事である。

仕事を始めてからは時間が少ないから、逆に家事にも精を出して頑張った。その頃のこととは一六二号の「わいふ」に投稿した通り。

それを見て堀田さんが言われたこともごもつともな話。でも私には転職や転業種は考えられない。

同じ人生の時間を過ごすなら、私はやっぱり自分に向いた仕事を持って生き生きと張りのある日々を送りたい。

女の人がただ女だからという理由で、家のことを全て引き受けようというのはオカシイと働いてみてつくづく思う。

家事、子育て、老人介護など全てを引き受けて、どうしようもなくなると仕事をやめるべきだとか変えるべきだ、という声が出てくる。その言葉を聞くと、私は悲しいまでの絶望を感じる。

それは完璧に家事その他をやらなくては仕事を持つべきではない、やめろ、という考えと同種のものだ。

それを愛情とひっかけて、家事労働イコール愛、できないのは愛情が足りないからと簡単に言われても困る。愛情と家事労働は別問題として考えて欲しい。

三十四歳での再就職としては今の会社は悪くない。

一七〇センチ、六十五キロの体軀をもってこれからもバリバリ働いていくのが、ここ数年の私の姿になるのではなからうか。

(え・松本をきえ)

高文研

101 東京都千代田区猿樂町2-1-8
☎03-295-3415

絶賛発売中/

さらば、 悲しみの性

産婦人科医の
診察室から

河野美代子 著

口絵写真(出産シーン)12頁付

定価1,100円(〒750円)

【読者カードから】

●「読んでいて涙がこぼれ、体が震えました。20年前に読んでいれば、私も悲しい思いをせず、にすんだのに、娘と姪のために2冊購入しました。(主婦・36歳) していきます。(主婦・34歳)」

愛と性の十字路

高文研編著 定価850円(〒750円)

高校生世代の体験と意見を通して、新しい性のあり方を追求！

愛は教えられるか

吉田和子 著 定価950円(〒750円)

性の迷路をさまよう女高生たちへの体あたりの実践記録！

サークル通信回収騒動

なまたまご

埼玉県

自主保育サークル

毎週火曜日の午前中、川崎由美子さんは、四歳になる長男を連れて近くの公民館へ出かけて行く。そこで近所の主婦たちと一緒に、自主保育サークルをやっているからだ。

川崎由美子さんは、三十歳の専業主婦。彼女の住んでいるのは、都心から電車で

約一時間、一千三百世帯、約四千人が暮らす公団住宅である。賃貸で、二DKが中心のこの団地には、由美子さんのように小さい子供をもつ若い夫婦が多く、団地内にあるいくつかの公園は、若いお母さんと幼い子供達で、お天気の良い日には、溢れていた。

由美子さんが、都内のアパートからこの団地に越してきたのは三年前、長男が

二歳、次男が一歳の時だった。狭い部屋の中で子育てに明け暮れているうちに、由美子さんは、時々ノイローゼになりそうなくらい子育てがいやになることがあった。その上、公園にも街にも母と子が溢れているというのに、なかなか親しくつき合える友だちが見つからず、親も子も息詰まっていた。

そんな時、近くの公民館で「子育て講



座」というのがあるのを知った。公民館など一度も行ったことのない由美子さんだったが、保育がつくというので、少しでも子供から離れる時間ができるなら……という思いと、友だちができるのではないかと、思い切って申し込んだのだった。

サークル通信を出そう

由美子さんが、自主保育サークルの中で、サークル通信を出そうと思い立ったのは、今から半年ほど前のことである。

ある火曜日、いつものように公民館のホールで、その日の当番になっているお母さんたちを中心に、親と子でアキ缶を使って遊んだあと、子供たちは、牛乳とビスケットのおやつになった。

子供たちがおやつを食べている間、コーヒーを飲みながら、お母さんたちは、おしゃべりをするのが恒例だったが、そ

講座は、全六回、十組の母と子が参加した。講座終了後、講師のすずめもあつて、参加した十組の母子で、自主保育サークルを始めることになったのである。友だちのいなかった由美子さんは、サークルに期待をかけ、リーダーになった。サークルができてから、もうすでに二

の日もしゃべっているうちに、夫の帰宅時間の話になった。

サークルの十八人の主婦たちの中で、夫が午後八時前に帰宅するのは、わずか二人だけ。残りの十六人の夫は、午後八時から十二時までの間で、しかも不定期な人が多い。おもしろいことに、勤務地には、あまり関係なく、隣町なのに連日、十二時過ぎの夫もいた。職種も営業関係とコンピュータ関係の夫は、不定期がほとんどだった。

話をしながら、由美子さんには、一つの考えが浮かんだ。「ねえ、夫の帰宅時

年。メンバーは、ほとんど入れ替わっていたが、現在は、十八名の母親とゼロ歳から四歳まで、二十名の幼児が参加。活動は、週一回、公民館を利用して母と子で、いろいろな遊びをしたり、おしゃべりを楽しむというようなことをしていた。

間とか夫婦の会話時間を調べて、サークル通信を出そうか？」由美子さんは、サークル通信を出して、いまの自分たちの生活を見つめ合えば、もっとサークルのメンバーがお互いに理解し合い、共感し合えるのではないかと思って、提案したのだった。

「アーラ、それおもしろいじゃない。ついでにアンケートをとって、載せるのなんかどう？」サークルの中では、一番年長のKさんが真っ先に賛成した。

サークルに参加している母親は、二十六歳から三十八、九歳と幅があるが、二

十代後半が一番多く、子供はまだ一人の人がほとんどだ。

「サークル通信、いいわねえ」Tさんもそう言ったので、「じゃあ、みんないいかしら？」と由美子さんはみんなに聞いた。それぞれおしゃべりをしていた人たちから「いいわよ」とか「いいんじゃない。おもしろそう」という声が上がったので、由美子さんは、決めた。

Kさんが一番乗り気だった。アンケートもとることになったので、Kさんと由

アンケートの結果

由美子さんとKさん、Iさんの三人は、翌日、由美子さんの家でアンケートの結果をまとめながら、通信づくりの話し合いをした。

アンケートの答えは、冗談半分のようなものも多い。愛していますかという問いには、「はい」、「まあまあ」、「まあ、

美子さんは、二人で六つの質問を考えた。質問一、あなたは夫を愛していますか？

二、あなたは夫から愛されていると思いますか？

三、もっと豊かに楽しく暮らしたいと思いませんか？

四、今度結婚するとしたら、また同じ人を選びますか？

五、離婚したいと思ったことがありますか？ それはどんな時？

六、ひと言

愛している部類”、死んでも泣かない程度”、わかりません”といった答えだったが、愛されていますかという問いには、全員、ハッキリ、愛されています”と答えていて、主婦たちの自信のほどがうかがえる。その反面、同じ相手と再び結婚

したいという人は三人しかなくて、全員が離婚を考えたことがあると書いていた。その理由は、”にくたらしい時”、ケ

こんな質問ができ上がると、その場で紙を配って、みんなで回答を書き始めた。

由美子さんは、さらに、ひとりひとり、夫の帰宅時間と勤務地、平日の夫婦の会話時間を聞いて回った。

「あらー、こんなことしたら、みんなともっと仲良しになれるじゃない」Kさんは、はしゃいだ。「ねえ、これ名前書くの？」Yさんが聞くと「でも、名前がわかんなくちゃ、つまんないじゃない」とTさんが言い、記名になった。

ンカした時”とあまり、深刻なものはない。

平日の夫婦の会話は、「ナシ」から「二時間」まであったが三十分ぐらいが多く、結婚年数に反比例。勤務地は、三人以外は都内だった。

サークルのメンバーの半数は、由美子さんと同じ団地の住人である。団地以外の人、公民館の場所が駅に近い新興住

宅地にあるせいか、マンションと建て売りの一戸建てで、新しくこの地に転入してきた人ばかり。

長男に嫁いで夫の両親と同居している人が一人、あとは、みな核家族だった。

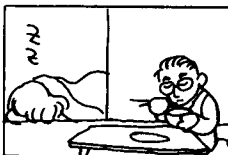
由美子さんが、サークル通信を書くことになった。夫の帰宅時間と夫婦の会話をグラフに表わすと、サークルのメンバーの生活時間が一目瞭然。アンケートもおもしろく、通信の出来は、まずまずだった。

「ねえ、さっきの質問の答え、実名で出すの？」由美子さんが、その夜通信を仕上げていると、Iさんからそんな電話があった。「だって、誰かが、名前がわからなくちゃ、おもしろくないよって言ってたから、そのつもりだけど」「みんなきついこと書いていたから、イニシャルか仮名のほうがいいんじゃないかしら」「仮名ねえ……なんだか軽いわね。まあ、ちよっと考えてみるわ」由美子さんは、Iさんの言葉の意味も深く考えず、そう

言って電話を切った。

由美子さんは、考えた末、グラフの上に姓を、質問の回答の部分には名前だけを入れて、サークル外のフルネームを知らない人には、誰が書いたかわからないようにすることにした。しかしそんなに気を使わなくとも、主婦には、名前なんてないようなものだった。まあちゃんのお母さん、あっちゃんのママとサークルの中でもお互い呼び合い、フルネームを知っている人は少ない。〇〇さんがね」とたまに姓をあげて話をする、それ誰だっけ？ 子供の名前でもないピンとこないわね」と言われることも多かったし、夫がいると自分の名前は、ほとんど必要なかった。

サークル通信は、数人のメンバーで印刷され、みんなに配られた。由美子さんは、公民館の職員に一部と市内で同じような自主保育サークルをやっている友人にも、一部渡した。



85.07.90



85.07 Ryo.

Iさんの夫

サークル通信が、メンバーの手に渡ってから三日後の夜十時過ぎ、Iさんから由美子さんに電話が入った。「あの、なぜサークル通信に実名を入れたの……イニシャルか仮名にしたほうがいいって言っただけど……」Iさんは、いまにも泣き出しそうな声でそう言った。「あら、でも、フルネームは避けたし、わかりにくくしたと思うけど」「それから、誰かサークル以外の人にも渡したんじゃない……」Iさんが、何をそんなに脅えているのか、由美子さんには、よくわからなかった。

Iさんが落ち着くのを待って、やっとわかったことは、どうやらIさんの夫が、

サークル通信のことで、ひどく怒っているらしいということだった。

Iさんの夫は、由美子さんの住んでいる市の職員。Iさんはサークル通信のことを、でき上がる前に夫に話したことがあった。その時夫は、自分のことを載せるのなら、イニシャルか仮名にして欲しいと言ったので、Iさんは、由美子さんに電話した。しかしIさんは、それが夫からの要望だということを言わなかった。で、由美子さんは、内容からして、そんなに慎重に考える必要はないと思ってしまったのだった。

Iさんもでき上がった通信を見て、気にはなったが、夫の目に触れさえしなければ……とのん気に考えていた。ところが、研修旅行中の夫に同僚から通信のことが伝わったらしく、驚き不愉快になった夫が、たったいま、旅先から電話をしてきたというのだ。

いったい誰が夫の同僚に、サークル通信を見せたのか？ サークル通信がサー

クル外にも配られているのか？ Iさんは、不安でたまらなくなつて電話してきただった。

由美子さんの心当たりといえば、公民館へ置いてきた一部しか考えられなかったが、通信のどの部分が、そんなにIさんの夫を怒らせたのだろうか、由美子さんは悩んだ。

翌日、由美子さんは、Iさんの夫に会うことにした。Iさんの夫の帰りを待って、Iさんの家に行ったが、同じ団地に住んでいるのにもかかわらず、Iさんの夫とは初対面である。顔を見た時、Iさんの話より、穏やかそうな人に見えたが、由美子さんは、少し緊張していた。

「川崎さんとか言いましたね。僕は、なぜあなたがここへ来たのかわかりません。僕が怒っているのは、彼女（妻）に対して、あなたにはではないんですよ。彼女は僕との約束を守らなかった。僕のことを載せる時は、イニシャルかなんかにし」と言っただのに、そうしなかったから、

怒っているんで、これは、僕たち夫婦の信頼の問題ですよ」Iさんの夫はそう言った。「この通信の内容って、そんなに実名にこだわるようなものでしょうか。ご主人のことといったって、帰宅時間と夫婦の会話ぐらいじゃないですか？」由美子さんは、話しながら、サークル通信のグラフを見ていた。定時は午後五時、午後八時以降に帰宅する夫がほとんどの中、Iさんのグラフは目立っていた。「そりゃ、ご主人何時に帰ってくるの？と聞かれて話す分には、かまわないですよ。だけど、こうやって印刷されるということは、多くの人に見せることでしょ。自分のプライベートなことが知られるっていうのは、裸で外を歩かされるようなものじゃないんですか？ それは、拒否する権利があって当然だと思うけどなあ」「これは、サークル通信で、仲間うちのものなんです。それにこれを出す理由も、お互いにいまの自分と夫との生活を見つめ合って、女同士理解し合う材料になれば

ば……ということからなんです。冗談半分のも多いし、そんなに問題にされることが、私には不思議なんですけど……」由美子さんはどう言ったらIさんの夫に納得してもらえるのか、考えていた。「仲間うちって言いながら、現に、他の人も持っているらしいじゃないですか？」「外部の人に配ったのは、私の落ち度でした。奥さんがインシヤルに言った時、もっと慎重に扱えばよかったと反省しています。ただ一つ気になるのは、妻は夫の帰宅時間さえ、自由に答えられないのですか？」由美子さんは、聞いた。Iさんの夫は、口で言うのと印刷されるのは違うと言い、やはり、自分のことを書かれる以上、事前に見せてもらって然るべきだと続けた。「誰かが、このグラフを見て、夫のいない時間にいやがらせでもしたらどうするんですか」Iさんの夫は、そんなことまで心配したが、由美子さんには、考えも及ばなかったことで、そういう見方もあるものかと驚いて

しまった。

Iさんは、由美子さんと自分の夫の会話を、そばで黙って聞いているだけ。Iさん自身も、サークル通信の編集にかかわっていて、この通信の目的は、よくわかってはいるはずなのだと思うと、残念だった。

由美子さんは、できるだけ詳しく、サークルの活動状況をIさんの夫に話し、少しでも理解してもらおうと思った。Iさんの夫は、妻がサークル活動をやっていることは知っていたが、それがどんなサークルなのか知らなかったし、いままで知ろうとも思っていなかったようだった。「彼女が何をしようと、僕は一度だって干渉したり、やめろと言ったりしたことはない」とIさんの夫は、言ったが、由美子さんのサークルで、妻のやっているサークル活動の内容を知っている夫は少ない。

由美子さんの夫も、サークルをやっていることすら知らなかった。知らないこと

いうより知ろうとしないのだった。由美子さんの夫の帰りは、毎晩十一時近くで、何度か話したことはあったが、疲れきった夫は、生返事。頭の上を素通りして、るみたいだったのでそのうち、話す意欲もなくなった。

たしかにIさんの夫にしても、由美子さんの夫にしても、妻の行動に干渉しない、いい夫なのかもしれない。しかし、夫たちは、干渉しないのではなくて、昼

外部に漏れた！

由美子さんがIさんの夫と話した日、実は、もっと面倒なことが、女たちの間にも起きていた。

Iさんは、前夜、由美子さんに電話する一方、同じサークルのOさんにも電話をしていた。「サークル通信が外部に漏れたらしいの」というIさんの電話に、Oさんは、逆上し、叫びに近い声を上げ

間の妻の行動に、無関心なだけだった。そして、今回のサークル通信のように、少しでも自分にかかわりのある行動を妻がしていると知った時、夫たちは、話し合い、理解し合うというところを飛び越えて、命令によって妻の行動を制限しようとするのだった。

Iさんの夫は、サークル外で通信を受け取った人に、内容について口外しないことと念を押すことで、やっと納得した。

た。「えーっ、それホントー!! アタシ、困るウ」Oさんは、サークル通信を夫に見せていなかった。それは、質問の回答に、今度結婚するとしたら、別の人」と書いていたし、相手の行動に不信をもった時、離婚したいと思った」とも答えていたからだ。Oさんは、夫がそれを見たら、きっと怒るだろうと決め込んでいたから、こわくて見せられなかった。サークル内でもスピーカーの異名を持つ

プライバシーというのは、守られるべきなのかもしれない。でも、いったいどこまで、隠さねばならないのだろうか。妻は、夫の了解なしにサークル通信にさえ、夫について自由に発表することはできないのだろうか。

由美子さんは、夫婦というものの、妻と夫の関係について、考えさせられた思いがした。

つOさんは、その晩のうちに、サークルの仲間に電話をかけた。『あした、ウチに集合よ!』

翌日、O家には、サークルの半数が集まって、ハチの巣をつついたような騒ぎになった。

「あのアンケートがサークル通信になるなんて、アナタ知ってた? アタシ知らなかったわよ」「これが、夫や親戚の目に触れるようなことにでもなれば、私、

発行・梨の木舎
——子どものからだから見えるもの——
「体」発宇宙へ
毛利子来 岡島治夫 末永蒼生

小児科の診察室から—毛利子来さん
ヨガ道場から—岡島治夫さん
色彩色理のアトリエから—末永蒼生
さんの異なった分野にいる3人が、そ
れぞれの場所からみえる子どもと
おとなの心と体、家族、学校について語り
新しい視野を開く。

¥1,600 発売元・JCA出版

女たちの現在を問う会・編

銃後史ノート

No.7 最終号です。

特集●女たちの戦後
—その原点—

女たちの戦後—その出発点をアンケー
ト644人の声にさぐる／宮城のダシ昆
布／女が家を出るとき ¥2,000

JCA出版

東京都千代田区神田神保町1-42
☎03(292)0401 振替東京7-147755

離婚されてしまうわ」「外部の人間が持
っているんだって!!」みんなは、自分た
ちで決め、自分たちが書いた通信であり、
アンケートであるにもかかわらず、口々
に自分たちは、知らなかったと言いつ
た。

由美子さんは、その席には呼ばれな
かった。わざと外されたのだ。集まった主
婦たちの怒りは、由美子さんひとりに向
けられ、由美子さんが勝手に通信を出し、
勝手に外部の人に配ったと決めつけ、自
分たちは被害者だと信じ込んだ。

その中に、Kさんがいた。Kさんは、
少なからずこの通信を出すことに、かか

わってきたことから、由美子さんひとり
が悪者にされていることに、内心、同情
した。しかし、どうしたら、感情的にな
り涙ぐむ人さえいるこの場を、うまく治
めることができるのだろうか……。

「ねえ、みんな、このサークル通信が、
サークル外の誰に配られたのか川崎さん
に聞いて、その分は、回収してもらった
らどうかしら? サークルの中の人だけ
なら、見られてもいいんじゃない?」Kさん
は、言いたいだけ言って、少し落ち着い
てきた主婦たちに、こう提案した。「そ
うね。サークルの中だけなら、いいんだ
から……」Oさんが納得し、やっと、解

決の方向が見えてきた。

Oさんの家は、由美子さんと同じ団地
で、一番近い棟である。O家に集まった
メンバーも、ほとんど団地の住人だった。



サークル通信回収ノ

翌日、Iさんの夫と話がついて、ホッとしていた由美子さんのところへ、KさんとOさんSさんがやってきた。

Kさんは、前日の話し合いのことを伝え、外部に配られたサークル通信の回収を申し入れた。

由美子さんは、ショックだった。みんなが賛成してくれたサークル通信のはずだ。由美子さんが自分の判断で渡してしまった二部のごとは、責められてもしかたがないと思つたが、由美子さんひとり

夫や子のために……

Kさんと由美子さんは、すべてが終わってから、二人でお茶を飲んでいた。由美子さんは、ひどく疲れていた。Kさんがしゃべり出した。「あなたは、みんなに、いい刺激材料を与えてやってただけだ

が、この通信を出すことを決めたように言われるのには、耐えられなかった。

「みんなが、この通信を私ひとりの希望で出したというのなら、私は、通信全部を回収したいと思うわ。私は、少なくともこの通信が出ることは、アンケートを記入した時に、みんなわかっていただと思つていたわ」由美子さんはそう言われて、黙り込む三人を見ながら、自分が何の目的のために、記入したのか、確かめることもせず、言われるままに名前を書き、あとで自分の行為に責任すら感じることはない女たちがいることが、悲しかった。

つたのよ。主婦つて暇でしょ。みんな退屈なのよ。Oさんの家に集まつた時のみんなの目の輝きつたらなかったわ。あんなにキラキラした女の人の目見たの、久しぶりだったなあ。私だつてね。アンケートを作つたりしたでしょ。だから責任感じちゃつて、どうやってまろく治めよ

「サークル内なら、かまわないのよ」というOさんの言葉を遮るように「サークル内といつても、それ以外の人が見る可能性がないわけじゃないんだから、全部サークル内も回収しましょう」と由美子さんは、きっぱりと言つた。Kさんも「それがいいわね。残念だけど、お互いの信頼の回復が優先だものね」と言つた。

こうして、サークル通信はすべて回収され、焼却されて、女たちは、何事もなかったように平凡な毎日に、帰つていった。

うか。頭痛がするほど考えたのよ。こんなに悩んだの、いつ以来かな。仕事している時は、女ばかりの所だったから、結構いろいろあつて、大変だったんだけど、結婚してから、夫と子供しかいないでしょ。緊張するつてことがなくて、ボーンとしていたから、まあ、ホント、今

回のことは、いい刺激になりましたわ」

Kさんの話によると、夫に怒られるのではないかと言っていた人も、おそろおそろサークル通信を見せたら、ただ、バカなことやってんだな」と一笑に付されてしまったというのも、多かったのだそう。

「女性は、何か起こるとすぐ、誰かを悪者にして、自分の責任逃れをしようとする人が多いんじゃないの。特に、家にいる主婦って、被害妄想になり易くて、世間では冗談で通ることも、ヘンに固く考え込んでしまうのね。夫の反応のほうか

Iさんとこ除いたら、みんな正常だったんじゃないのかな。川崎さん、今回のことは、災難だと思って、元氣出してね。

でも主婦って怖いね。私、つくづく怖いと思ったわ。みんな退屈しているくせに、家庭に波風が立ったり、自分から何かをしようい込むのは、ごめんなんだから……：：：：：
気をつけなきゃねー」Kさんは、しゃべり続けていた。

女性の地位が向上したとか、女性が解放されてきたというが、それは、ホンのごく一部の女性たちのことではないのだろうか。平凡に暮らす家庭の主婦たちは、

少しも変わっていない。夫と子供と自分の家庭を守ること以外、あまり興味もないのではないか……：：：：：由美子さんは、そんなことを考えていた。

由美子さんは、黙ってコーヒーを飲みながら、もう二度とサークル通信など出さないと思った。

Sさんの家では、サークル通信を読んだ夫が「ホラ、うちよりダンナの帰りが遅いところもあるんじゃないか。僕なんか、こう見ると早いほうだよな」と言っていたそうだが……。

(元・田井亮子)

性・妻たちのメッセージ

この一冊は、回数や強さだけを重要視する男たちの思いこみを打ちくだく。心の問題を無視して性を語ることはできない。261人の妻たちの赤裸な声をきこう。

●どんな夫が愛されているか ●経済力の
ある妻ほど夫ばなれが激しい ●妻の婚前
交渉は結婚後の幸福と無関係 ●夫の帰宅
時間は性生活に影響しない ●三十代の妻
は反逆の世代 ●六人に一人の妻が婚外交
渉の体験者 ●マザコン亭主は五人に一人

発行・グループわいふ
発売・径 書 房
234-4608

情報 コーナー

●試写会のご案内

青森県上北郡六ヶ所村を題材にした記録映画「六ヶ所人間記」(一六ミリ白黒二時間五一分)が完成しました。試写会にぜひご来場を!!

◆スタジオ200 西武池袋店八階
 Ⅷ〇三一九八一〇一(内)
 五三二八〇九・七月一五日(月)
 PM四時三〇分〜七時二二分

・七月一九日(金) PM
 一時〜二時五一分・九
 月一〇日(火) PM四時〜六
 時五一分

◆東宝東和第二試写室 東京都中

央区銀座四一四一五銀座ビル六
 F Ⅷ〇三一九六一一六七一九

・九月二日(月) PM三時一五
 ・九月三日(火) 分〜六時六
 ・一〇月七日(月) 分

※一〇月二六日〜十一月一日西武
 池袋店スタジオ200との共催により

本上映の予定。

◆連絡先 倉岡明子 東京都新宿
 区若松町八一四 Ⅷ〇三一九三七
 三八三三 スタジオ200 Ⅷ〇三一九
 八九〇一〇一(内) 三七一四・
 三七二八君塚・丸山

◆七月下旬〜八月下旬、六ヶ所村
 および六ヶ所村に隣接する市町村
 で巡回上映、一二月再び青森県内
 上映。青森での連絡先は青森市花
 園二一七五八倉岡 Ⅷ〇一七七
 一四一八二七七(七月二〇日〜
 八月下旬)

●女の土曜日一〇番

毎月第二と最終土曜日のPM七時〜
 一〇時に行なっています。

誰かとおしゃべりがしたくなった
 時、何か悩み事がある時、ぜひ左
 記にお電話をください。ハンド・
 イン・ハンドの仲間達が電話の前
 で待っています。

〇三二四〇二一四三八五

〇三二四〇二一七三五四

現代家族問題研究所 円 より子

●成長グループへのお誘い

“一緒に体験学習を”

成長グループは価値観も思いも違
 う人達が集って、自分のことを話
 したり、人の話を聴いたり、一緒
 に考えたりする場です。自分は本
 当は何を望んでいるのか、人はど
 んな思いで生きているのか、少
 しずつはつきりしていきます。

◆期間 九月二七日〜十二月一六

日

◆場所 渋谷区代々木一ノ五四ノ

五 第三山野荘苑三〇一号 朝日

カウンセリング研究会

◆参加費 全一回一四〇〇〇円

◆連絡・申し込み先 Ⅷ〇三一九

七〇一三七〇

◆申し込み期間 九月九日〜九月

二二日(一〇時〜四時)

情報 コーナー

●新刊紹介

「時代を踊る子と共に」
保育器からの育児記録

ソーシャルワーカー平出田鶴子著

著者は医療ソーシャル

ワーカー三〇年の

キャリアを持

つが、障害

あるわが

子と共

に歩ん

だ記録で

ある。未熟

児で誕生した

とき、ナースの

トで小児病棟閉鎖にあ

い、脳内出血から水頭症になっ

ていく。医原病のドキュメントである

日本出版サービス Ⅷ〇三二六

四一六二〇四(代) お近くの書

店にご注文下さい。

●新刊紹介

市民読本「水と食」

——くらしと文明を考える

私たちの生活環境はいまどうなっ

ているのだろうか、生きること、

食べることはどんなこと？ 市

民と研究者が一緒になって作った

市民読本です。ぜひご一読を。

◆定価 七〇〇円

◆連絡先 生活クラブ生協内くらしと環境を考える会事務局中村輝

Ⅷ〇四五一九七三一九五一六

●女のための日曜大工教室

九月からのコースにぜひご参加を。

◆住まいの補修・実技教室

①家屋の構造②図面の見方③左官

・塗装の知識と実践④インテリア

・襖の貼り方等

◆期間 九月～十一月 火曜クラ

ス(昼) PM一時～四時 水曜クラ

ス(夜) PM六時～九時

◆費用 入会金六〇〇円 授業

料一八〇〇円 道具一式使用料

三〇〇〇円(分割払い可)

◆問い合わせ・申し込み先 女の

ための大工実技教室R&R 大阪

市東淀川区東淡路四二五一七

Ⅷ〇六一三二一八七九六・三二

三三三六六七

●第二期カウンセリング

研修会のお知らせ

◆期間 九月～十二月隔週水曜日

全八回 PM六時三〇分～八時三〇

分(第四回～八回は次号掲載)

◆内容 第一部「家族と精神衛生」

第一回九月二日(水)「人生の中

で出会う危機とは」第二回九月二

五日(水)「心と体と環境①」第

三回一〇月九日(水)「心と体と

環境②」

◆講師 第一部 鈴木孝子(日本

社会事業大学附属臨床相談室)

◆費用 一八〇〇円(八回通し

テキスト代込み)

◆場所 円より子事務所

◆終了後、「女の土曜日一〇番」

でご活躍いただきます。

◆申し込み先 円より子事務所

Ⅷ〇三三四〇二七三五四(担当

橋本) 必ず電話で予約して下さい。

●THE JAIL

ライブコンサート

「ロックよ静かに流れよ」の主人

公シユンスケ君が八横浜スベース

オルタナティブオープニングイベントに

出演します。ぜひ聴いて下さい。

◆日時 八月二五日(日) AM一一

時三〇分開場 PM一二時開演

◆場所 横浜オルタナティブ生活

館八横浜スベースオルタナティブ 東海

道新幹線新横浜駅徒歩八分

◆問い合わせ先 青生舎Ⅷ〇三

三七〇一三九七〇

情報 コーナー

●グループで学ぶ 自己表現のトレーニング

日々のくらしの中で、子供を叱りながら、近隣とのつき合いに悩みながら、ふと、自分らしさが失われていることに気付

きませんか？

？ 本当

の自分をもつ

とよく知

り、さわや

かに生きてい

くための講座です。

◆日時 九月より連続

一五回 午前コース一〇時～一二

時 午後コース一時～三時 夜間

コース六時三〇分～八時三〇分

◆定員 一五名

◆受講料 各コース共 五〇〇〇円

◆問い合わせ先・会場 フェミニストセラピー・なかま 〒160 東京都新宿区三栄町一七木原ビル三〇二 Ⅷ〇三―三五九―〇九〇二

●河野貴代美の

カウンセリング講座

開講のお知らせ

女性のための、女性による、カウンセリンググループ、フェミニストセラピー・なかまの主宰者、河野貴代美によるカウンセリング講座が開講します。カウンセリングを勉強したいあなた、どうぞご参加ください。資格は問いません。なお教育・福祉従事者用コースもご紹介します。詳しくは、なかままでお問い合わせ下さい。

◆日時 九月一日(木)毎週木曜日

◆期間 二年間

◆定員 各コース共 三〇名

◆受講料 八〇〇〇円

◆問い合わせ先・会場 フェミニ

—— ウイメンズブックストアが心をこめて創りました ——

BRINGING UP GIRLS

BY
KEIKO HIGUCHI

TRANSLATED
BY
AKIKO TOMII

英語版 女の子の育て方 樋口恵子著

日本人の子育ての現在を豊かな視野でとらえ
楽しく語った“愛と自立”への提言
女の子の育て方から鋭い女性論へと展開する
樋口恵子のベストセラーを完全英訳

待望の日本女性評論家による
フェミニストブック英語版！
富井明子の翻訳で完訳！
表紙・イラストは杉原登喜子が担当！

英語テキストに最適！



SHOUKADOH BOOKSELLERS PR. CO.

松香堂刊 定価1,400円

●お問合せは ウイメンズブックストア (有) 松香堂書店
〒602 京都市上京区下立売通西洞院西入
TEL (075) 441-6905 振替口座 京都 8-7950

ストセラピー・なかま 〒160 東京都新宿区三栄町一七木原ビル三〇二 Ⅷ〇三―三五九―〇九〇二

投稿ホットライン——ずっとこけた・ぶったまげた・頭にきた・ジーンときた

エッセイスト・クラブ

あの日のこと、この日のこと、つれづれなるままに……書いてみよう。
読んで面白い、読ませて喜ばれる、大傑作集

たった一つの祈り

埼玉県行田市 小川 由里

少女時代から祈ってばかりいた。毎朝晩、仏壇と神棚にお供えし、花を替え、きっちりと祈りを欠かさない祖母と母の姿を見ていたからかもしれない。欲が深かったせいかもしれない。

懸賞が当たりますように。○子さんと

親友になれますように。父が早く退院できますように。母の手術が成功しますように……エトセトラ。

祈ることが多すぎて困った。「神さま……」とつぶやいて祈ったが、特定の信仰対象があったわけではない。私はただ、

自分の運命を支配しているだろう偉大なものに向かってそう呼びかけたのである。近年、祈ることはふえる一方であった。明日の家族の健康と無事に始まり、故郷の両親のこと、姑一家の健康と商売繁盛、妹夫婦に赤ちゃんが恵まれますようにと

続く。さらに新人賞がとれますように(三) 文小説と自覚はしていても)。童話が入選しますように。少し早いですが息子が希望高へ行けますように。祈りというより、「お願い」を延々としていた。

昨年冬、突然、心臓がおかしくなった。時に原住民の祭りの太鼓の如く動悸する。しょっちゅう脈が抜ける。

病院で「気にしないでいい」と言われても安心できない。場所が場所だから深刻に心配なのだ。通院し、薬を飲みつづけたが症状は同じである。

私は次第に落ちこみがひどくなっていた。ひまさえあれば脈をとり「ああ、抜けている」「ああ、乱れている。もう駄目かもしれない……」とさらに深い憂うつに追いこまれる。

ある日、誰もいない家の中で、コトンと心臓が動きを止めて「はい、それまでよ」となるかもしれない。夜、眠ったまま永久に目覚めないかもしれない。おびえが頭に張りついて離れない。まだ死ね

ないのに、死にたくないのに――。

私は何をしても弾まなくなった。おしやれする気にもならない。意欲、向上心というものはどこかへ消えた。

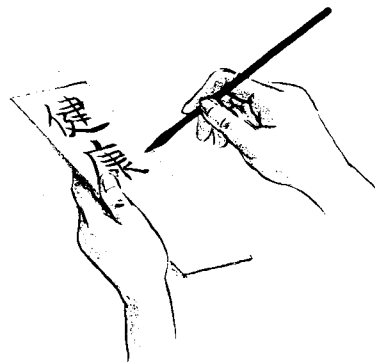
健全な精神は健全な肉体に宿るというのは真理であると実感した。

さすがに何カ月も断続的に不整脈が続くうち、こんな精神状態ではノイローゼになる。と思った。要するに死ななきゃいいのだ。多少の不快感は我慢しよう、と腹を決めた。

ええ、ええ、私は不良心臓を抱えています。それがどうした。普通の生活ができるではないか。医者も大丈夫だと言ったではないか。人間、死ぬときゃ死ぬ。

居直ってみると不思議なもので毎日に死への不安が薄らいでいった。ほどほどの陽気さを取り戻した。

以来、私の祈りは実にシンプルになった。今日一日の無事を感謝し、みんなの健康を祈るだけである。新人賞も童話の入選も祈らない。そんなもの、生きてさ



えいれば何十回でもチャンスはあるのだ。挑戦する楽しみがあるというものだ。

病いを得て、健康しか祈らなくなった私をみて「神さま」は「助かったわい。お願いを一応メモするだけでも大変じゃったからの」とつぶやいているかもしれない。

向田邦子さんを惜しむ

千葉県習志野市

藤野 宏子

向田邦子さんの「無名仮名人名簿」(昭和五十六年刊)を図書館で借りて来た。図書館では向田さんの本の人気は横綱級である。貸し出し月日のゴム印を数える、私の前に七十回、年間約十五人の人が読んでいる。本の天地も小口も、紙がしなしなと柔らかくなり、消毒と手あかの匂いがミックスされて気持ちが悪いくらいだが、人気なんだなあと感じる。図書館の本で最近の痛みぶりのほげしいのは、佐藤愛子、田辺聖子も大したものである。

向田さんは、昭和五十六年に五十代の

若さで、台湾上空で航空機事故にあって亡くなられた。残念ながらも新作は読めない。この本をはじめ、文庫本にもなった「父の詫び状」も「夜中の薔薇」も、小説「男どき女どき」も、向田さん自身は本になったのを見ておられない。自分の人生は自分が一番いいものだし、自分の文の一番の読者は自分であるかも知れない。だから、向田さんご自分の著書を見ないで亡くなられたことはさびしい。

大事な思い出は忘れたくなく、子どもがいれば子どもに、家族に友人に、誰で

も話しつづけるものだが、それを文に書くとき、体験のままに書けるかどうかは疑わしい。かざるといやらしくなる。つかざりたくなる。身びいきになる。そんなことと戦いながら、裸のままの自分を出せたらすばらしい。

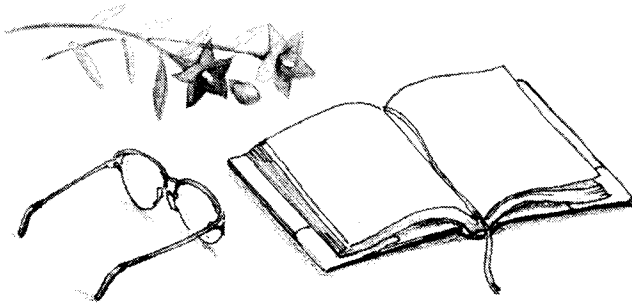
文章修業の本に向田さんは「良い文章の書き方」を説いて来られただろうか。私はまだお目にかからないが、何百本のTV脚本を書きつづけたつみ重ねにより、良い文章が書けたのだと思う。その行為が語らずして「良い文章の書き方」を示している。

雑誌などに頼まれて書いたエッセイが評判になり、本になったのであろうが、今、生きておられたら、日本一の脚本家であり、もっともつとTVで活躍しておられるだろう。ことわりきれず、切りに追いかけられる生活だと思う。

逆に、余りに忙しい脚本稼業にきつぱりと足を洗って小説家になったとしたらどうだろう。すべて未知数だ。ありえないことに期待するのは、夜寝る前にいい夢を見たがる気持ちに似ている。

向田さんの文は、連句である。連想ゲームの連なりが、ユーモアとペース、てれくささとやさしさのないまぜられた地味な色あい、統一されている。その中の魅きつけられるものが、山道に咲く小さい花のように、目立たないが心の安まる色で咲いている。

登場する父母も祖父母も、さすがに映像作家で、イメージとして本の中から湧き出してくる。子が父母を書くのは、赤裸々にすぎ、親のかんしゃくなどは書き



たくないことだが、それを越えて向田さんの父追慕が見えてくる。祖父母を書いても、ありのままの平凡人であった明治の人を想像させる。やはり、淡淡とした語り過ぎない簡潔さが、余情を持たせるからだと思う。

絵画、音楽、読書、芸術一般はすべて人の心をなぐさめるが、向田さんの本も私にとってその一つである。向田さんの本を読むとき、私は私のうつうつから解かれ、ひとときのくつろぎを感じることができる。

このごろ私は本屋へ行くたびに向田さんの本を見つけてはほっとしている。私が高生きたときも、また本屋さんで向田さんの本の背文字を見たいものである。三十年前に親しんでいた幸田文、森田ま、福島繁子夫人の本を読み返して、幸せな気分でいられる今と同様、ずーっと先にまた向田さんの本を、私はどんな気持ちで読み返すことだろうか。

(え・早乙女光子)

「わいふ」を月刊にすべきかどうか——一九四号で、再度この問題についてよびかけさせていただき、十四人の方からお返事をいただきました。お一人を除いて、すべて月刊にご賛成でした。

読者のご要望がつよければ、多少の障害はのりきって、と思っておりましたので、最終的に細かい具体的な費用の算定をして

みました。

ところがその結果、賛成の意志表示を下さった方々には本当に申しわけないことに、月刊化はなかなか容易でないことが分かったのです。

まず、誌代の問題。

現在の投稿をすべてのせるには、毎月約百ページが必要になります。月刊にすると

月刊問題について



三種郵便の許可が取れて郵送料はぐっとお安くなりますが、年十二回の発行のため、やはり発行の費用は大きく上昇します。

試算の結果、少なくとも、年間五千四百円の講読料にしなければ、諸経費がカバーしきれないことが分かりました。

現在の三千六百円に比べ、はたして読者の方々が、「わいふ」にこれだけのお金を

投ずることに賛成して下さるだろうか——

どうしても自信が持てないのです。

もう一つ、大きな見落としをしていたことがはつきりしました。月刊にすれば、誌上交流をもっと緊密にできるのではないかと——という期待が的外れだったのです。

Aの質問に対してBの答え、Cのよびかけに対してDの賛同、というのは、どうし

ても一カ月おき、つまり隔月刊と同じ間隔をおいてでないといけないことが、こまかく計算してみるとよく分かったのです。前月号の反響を翌月に出すことは、時間的にどうしても不可能なのです。

このことがムリとなれば、月刊の大きなメリットの一つは失われてしまいます。

こういうわけで、議論を重ねた結果、やはり月刊は見合わせるより他はない、という結論になりました。残念でたまりません。月刊賛成の線でご意見をお寄せ下さった方々にはまことに申しわけなく、ご期待に添えなかったことをおわび申し上げます。

今後、ふえ続ける投稿にどのような形で対応していけばよいのか、どうしても名案が浮かばず、頭を抱えています。

ともあれ、みなさまのお力ぞえに、心からお礼を申し上げます。どうかこれからもご意見をお寄せ下さい。本当にありがとうございます。

投稿ホットライン——珍獣一匹飼ってます

オットどっこい

粗大ゴミ予備軍の生態記録をとろう！

大ノロケ シタイ

東京都国分寺市

たまき久美



夫のこと、ノロケます。途中で放りださずに終わりまで聞いて下さいね。

ある日の夕食後、私は「人魚姫」について雑感を書いたものを、夫に見せました。そこには、「人魚姫の言う眼をみながら、『妹のようにかわいい』と言う、身勝手な子」に対する憤りを書いた部分があったとして下さい。

それを読んで、うちのかわいいオットドッコイは、こう言いました。

「ぼくなら人魚姫がいるのに、他の女性と結婚なんかしないよ」って。

この言葉を吐いて、キザにならないのは、彼がマジメ人間のネアカ人間だからかなァ、なんて、その性格をまた、バカみたいにノロける私。

でも、一方私は知っていますのです。彼が、非のうちどころのない、ハンサムな男だったら、やっぱりキザになるだろうなって。

顔はなかなかイイんです。鼻すじ、スーッで眼はパッチリで……。へへへ。で



も頭頂部に大きな問題があるのです。

そして片や、「人魚姫」なる私メは、娘
呵代の七号サイズはどこへやら、産後の
いか、中年太りか、今や下半身は十三
つに接近中、顔は……。二児の母親、専
業主婦という条件をあげ底して、十人並
ひに手が届く、というところ。

想像してみてください。いや、想像力の
乏かな方は、ほどほどに想像するだけに

しておいて下さい。

三歳の子供もいる居間で、「ぼくなら、
人魚姫がいるのに、他の女性と結婚なん
かしいよ」と、原稿を手に、妻のほう
をむいて、にっこり笑いながら言う、三
十五歳の頭頂部に問題のある男性。

そして、それを聞いた三十路すぎの妻
は、幼いころからあこがれた「人魚姫」
に、はじめてたとえてもらったうれしさ

に、そしてその物語の結末を変えるよ、
と王子様が言う、そのうれしさに、一メ
ートルの空間をフツと縮めて、王子様の
広い広い額にキスをしたのでありました。

——数日後のこと——

気のおけない友人に、ノロける、とい
う悪い趣味をもつ私は、ある夜、夫ぬき
で集まった二人の友人に、この話をしま
した。

七つ年下の友人は、「不思議な夫婦ね
え。お見合いというのが信じられないワ」
とただただうらやましがってくれました。
一方、身長一七二cmの体格に似合わず、
今も恥じらいを忘れないもう一人の友人
は、何と答えていいものやら、と口を半
分あけたまま、一言も物を言えずに、私
の顔をみていました。

自分の外見を考慮せずにノロけるのは
「シューアク」のそしりをまぬかれない
かな、とちょっと反省致しました。

(え・万谷陽子)

投稿ホットライン——百聞は一見に如かず

観たり聴いたり

「マルグリット・デュラス映画祭」を観て

東京都港区 松本家栄子

この度、連続公開されるマルグリット・デュラスの映画は、現代絵画やニュー・ミュージックのように私達をたじろがせるのに充分な「異種の映画」と言えましょう。若者達の絵や音楽のように煩わしくもなく、むしろ静寂そのものなのですが、これはもう映画にあらずる映画。

デュラスと聞いて、かつて公開された「雨のしのび逢い」や「かくも長き不在」のイメージで試写室に出かけたのですが、何ごととも起きない平凡な画面の連続に狼狽し、果ては睡魔と闘うはめになったりしてしまいます。けれども画面から物語を掴みとろうとする努力をやめた時、これまでの映画で

は体験し得なかった映像のリズムのようなものに身をゆだねていることに気がきます。「ゆったり」という気分を通り越したほど緩慢な映像……。画面とは全く無関係に聞こえてくるセリフや外界の音……。ジャンヌ・モローとルチア・ボーゼの日常的な女のしぐさが美しい風景と全く同質の景色のように捉えられてしまう映像の不思議……。何かデュラスの芸術に近づけたように思われてくるのもまた不思議なのです。

デュラスの映画は普通の映画のように物語がないのです。語られているのは物語の断片にしかすぎ

ません。おそらくその断片から私達の一人ひとりが、物語を想像してゆかねばならないのではないのでしょうか。

これまで私達の観てきた充分に説明された映画と比べて、何といっても繁張を強いられることになりましたが、しかし貴重な傑作とも言えるかと思えます。七〇歳を過ぎた現在でも創作意欲に燃えつづける作家デュラス。新作の小説「愛人」(ラマン)は、フランスで大ベスト・セラーになりました。この夏は少し気をひきしめて、デュラスの世界を覗いてみられては如何でしょうか。(え・岩本節子)



投稿ホットライン——可愛さ余って憎さ百倍

うちの悪ガキ

うちの子に限って！の大集合。汝の敵を愛すべからず……

息子の思春期

千葉県千葉市

関根 洋子

「慎ちゃん、お湯かげんはどう？」

と浴室の戸を開けたら、いきなり、慎一にせっけん水をぶっかけられた。

「何するのよ！ 慎ちゃん、お母さんのバジマが汚れちゃったじゃない！」

怒っても、慎一は浴室の戸を閉ざしたまま、答えない。

後で主人に言われた。

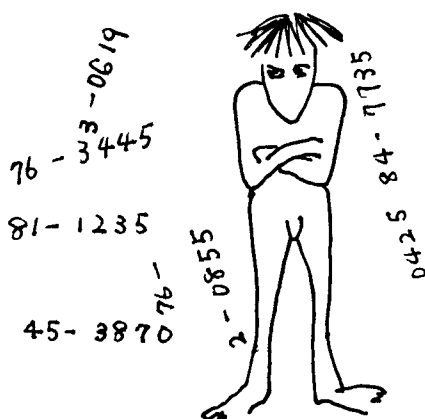
「慎一はオチンチンに毛が生えてきたんだから、風呂場の戸を開けたりすると、怒るんだぞ。気をつけなさい」

そう言えば、慎一は少し前から、湯あがりには必ず浴用タオルを腰にまいて、陰部を見せないようにしていた。毛が生

えてきたのかどうかは分からない。見たわけではないから。

だが慎一ももう中学二年、そうなるもおかしくない年頃になったのだろう。

六月になって衣替えの季節になり、冬



物の制服をクリーニングに出した。この制服はもう小さくなっているのです、この秋には新調しなければならず、今あるのをクリーニングに出すかどうか迷ったのだが、捨ててしまうのももったいなくて出すことにしたのだ。で、ポケットに何か入っていないか調べたら、一年生の時の生徒手帳が入っていた。

何気なく中身を見たら、住所欄の所に、女の子の名前ばかり、ズラリと十数人も並んで書いてある。住所とか電話番号とか書かれているのだ。

慎一が女の子に電話をかけたり、女の子から電話がかかってきたりしたのは見たことがないから、これは意外だった。電話番号をメモするだけで満足しているのだろうか。

隣の棟の美智子ちゃんの名はなかった。慎一は小さい時から、近所だということもあって、美智子ちゃんと親しくして、よく遊んでいたはずなのだ。大きくってから、疎遠になったのだろうか。

それにしても、男の子の思春期はどういう風にやってくるのだろうか。ある日、パンツが精液で汚れていたりするのだろうか。女の私には、何も分からない。私が慎一と出会ったのは、この子が四歳の時だった。

婚期を逸して三十歳を過ぎてしまった私は、もう、子供のいる男の所でもいいと思っていた。離婚経験者の夫と見合いして、何度目かのデートに、慎一と会った。慎一は人なつっこい、愛くるしい坊やだった。保育園の遠足にも、来てくれるお母さんがいなくて、さびしいらしかった。

慎一の母親は、慎一を産んでもなく、この子連れて他の男性の許へ走った。夫は追いかけて行って、子供だけとりもどして来、離婚した。その後、慎一はおばあちゃんに育てられた。

その頼みの綱のおばあちゃんが亡くなって、夫は結婚をあせっていた。私と主人、結婚をあせっていた者同士

が、結ばれた。その後の何年間か、私にとって、母親を恋しがる慎一を育てるのは苦労だった。私がいなくなればいい、ほんとうのお母さんとパパと自分と三人で暮らせればいい、などと言うのである。あまりに母親を慕うので、

「いつか大きくなったら、会いにいらっしやいね。今は小さいんだから、待っててね」となだめすかした。

その慎一もいつか生みの母親のことは口に出さなくなり、私がちらとでもそれに関連したことを言うと、怒るようになった。

私になつてはくれたけれど、今はどう思っているのだろうか。生母に屈折した思慕の情を抱き続けているのだろうか。母親のほうはどう思っているのだろうか。成長したわが子に会いたくないのだろうか。

思春期を迎えた息子を見て、時々、そんなことを考えるこの頃である。

好きになれない女の子

京都府八幡市 栗屋 郁子

女の子、特に言葉を覚え始め、母親のまねをはじめ頃の女の子は、にがてである。まあその前に、本来あまり子供好きではないのだが。それに子供ってのは、よく知っているもので、本能的に「アッこの人は、私のこと（僕のこと）かわいがってくれそう」というのが、わかるらしい。まるで犬や猫が、動物好きの人を、直感的に、かぎわかるように。

それにしても、我が家の隣に住む三歳になったばかりの女の子。おしゃまプラス、知能犯プラス、今からコビを売る姿、何ともついていけないと言うが、かわいくないと言うか。（と言っても、うちのダンナや周りの年いった人達に言わせると、先が楽しみなんだそうだが）

そう言って、我が母親に、隣の女の子のことを話すと、「あんたもそうだったよ、特に若いお兄ちゃんなんかが遊びに来ると、まだ回りきらない口調で、おしやまなことを言ったり、かわい子ぶってたもんだ」。私「えっ、私が、うそでしょう、気持ち悪い、私がそんなことするわけじゃないじゃない」。母「でも本当だもの、お父さんや周りの人に聞いてみなさい。行くすが花道じゃ困ったもんだなあと、笑っていたよ」

女の子って、みんなそうなのかな。かわい子ぶる性格を、誰もがみな持って生まれてくるんだろうか。それにしても、そのままぶりっ子から、女はかわいらしさが一番と思う人間と、そういう人みた

ら、アー気持ち悪うと思う人間とに、いつの間にやら分かれるんだから、そこらあたりが人間のおもしろさかしら。

ともかくにも、毎日、我が家の二歳になる息子が、「やれ、植木を引っっこめてる」と、つげ口をしにきたり、「秀ちゃん、それやったらあかんの」と、母親そっくりのわめきちらし姿、はたまた我が夫に、「おじちゃん、いっしょに遊んで」と、夫のひざの上にちょこんと座って、最高というような顔をしている時、やっぱり好きになれない。

今ところ、我が家は息子、それもどちらかと言うとキカンキの強い悪ガキ。ひっぱたいたり、どなりつけても、泣きわめいて、後はケロリでスカッという感じで、うん私好みと思うのだが、さて二人目が女の子ならば。我が子は別だろうか、それとも女の子を持ってみたら、私の思いも変わるだろうか。

（え・岩本節子）

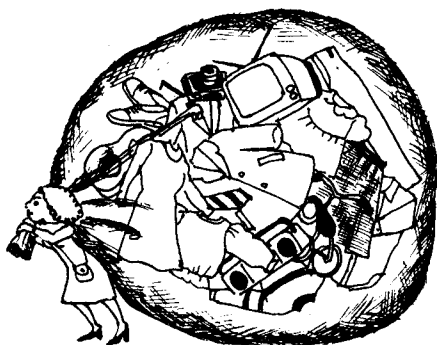
投稿ホットライン——物いわぬは腹ふくるるわざ

マジの発言

黄色い声、赤い声——五色の声でもの申そう！

「日本のゴミ」は
ゴミ？

サンフランシスコ 草名 雪子



今、手元に日本の新聞の切り抜きがある。その切り抜きには、『にっぽんガボロジー』というタイトルがついている。ガボロジー GARBALOGY とは、GARBAGE (ゴミ) と LOGY (学問) を合成した言葉だという。

「資源小国・日本は、世界有数の廃棄物大国。日本人が出す家庭ゴミは一人当たり世界最大級」ではじまる記事には、アメリカから「日本のゴミ」を買いにやってきた、あるジャンク・ショップの経営者の話を書いてある。

彼女は、日本全国の廃品回収業者の倉庫を回って、これらを買いまくる。そして、「八千点は買ったかな。アメリカ人なら欲しがるものばかりだ。日本人はすごいものを捨てるんだね」という。

まだ着られる服が年間二十万トン、一人当たり二キロ弱、古繊維回収業者に回るといふ。

この記事を読んで、THRIFF SHOP のことを思い出した。渡米してか

ら長女が生まれるまでの二年間、その店でボランティアとして働いたことがあるのだ。

THRIFTとは、日本語で節約・儉約という意味である。中古品を扱う店なのであるが、アンティーク・ショッブのようなファッショナブルなイメージはない。価値ある骨董品や美術品が置いてあるわけでもない。まさに、「節約の店」なのだ。

この店は、アメリカへの移民（NEW COMER）の世話をする、ある慈善団体が経営していた。

売り上げがその団体の運営資金の一部になるということ。「商品」は全て人々の寄付から成り立っているということ。また、寄付した人は、税金を少し引き下げてもらうことができるなど、個人経営のジャンク・ショッブとは少々異なる。

サンフランシスコ名物の一つ、古い大きなヴィクトリア調の家の地下にその店はあった。うす暗く、ほこりっぽい店内

はまるで物置のようだった。よく見ると、商品が部門別に置かれていたのであるが、寄付されたものは、大部分を余程ひどくない限り並べてしまうのだから、こうなるのも当然だ。とにかくなんでもあった。衣類、子供服、靴、バッグ、アクセサリ、家庭用品、家具、本、レコード、おもちゃ、事務用品、カーテン、寝具等。

新しく入荷した「商品」は一つ一つ点検される。破れたブラウスは繕い、とれたボタンをつけ、汚れている食器や置物は洗い、磨いてと手間のかかるものも多い。使いものにならないようなブラウス、ワイシャツからは、ボタンやレースだけをとって売る、といった具合で捨てるものは少ない。

電話帳をみると、サンフランシスコ市内には、こういう店が四十以上も名を連ねている。

「ゴミ」として捨てる代わりに寄付をする。中古品でも使えるのならいい、おまけに安いのだからと言って買う人がいる。

その売り上げは、世の中の役に立つことに使われる。合理的な方法ではないか。

しかし、日本でこの手の店が成り立つかと考えると、疑問である。誰が使ったともわからないものを、安いからといって、また他人の目を気にせず、我々は買えるだろうか。それに、あれだけのゴミを捨てている人たちが、そのゴミを買うとも思えない。

別に、THRIFT SHOPを宣伝しているのではない。まだ使えるものが、それだけ捨てられていると知って、「もったいない」と思うのである。何とかできないものか。

ゴミとなれば、それを処理するのも大変であろう。企業も競って、産業廃棄物の再処理・再利用を二十一世紀への生き残り戦略として追求し始めたと聞く。

物を大切に使い、ゴミの量を出来るだけ抑えるということを、我々も真剣に考えていくのではないか。

スパイ防止法、 知ってますか？

神奈川県川崎市 田中 恵子



自民党が六月六日にスパイ防止という名目で、「国家機密法案」という舌をかみそうな法案を、今国会に提出したことは御存知だろうか？ このところわが日本国政府は「一体どうしてくれんのサ」とタンカをきりたいぐらい、いろいろ庶民代表・共働き・子持ちの中年女をジトーといじめるのだ。一年に二回は上がる女子の厚生年金の保険料。あわや、ガン、年齢にさしかかったとたんの健康保険の本人一割負担。ガン。第二次世界大戦の東条内閣以来のことというではないか。（当時の健保は公務員、大企業の社員本人だけ。十割給付であったのが本人二割負担に改められた）だから、健康保険の本人一割負担導入の今日という時代は、もう戦後は終わり、新しい戦前のはじまりなのかもしれないなあとうつろな（何しろ乳児が夜中にタビタビ起きるので）頭で考えたりする。

この「国家機……」というしろものは政府が「防衛上秘匿することが必要」だ

と認めるなら何でも対象となり「死刑又は無期懲役」でしめくくりとなるおどろおどろしい法案なのだ。悪名高き戦前の、治安維持法の孫という感じで、やはりいかめしく漢字ばかりでご登場。ウソー。ヤメテーと甘ったれた口調で言いたいのが、当方皇室に血のつながりもなく、さりとて「パパは独占大企業の社長」でももちろんないタダのオバサン、夫は中小企業のこれ又ただのサラリーマン。私の従妹は二歳の時広島で被爆し、中学一年生の時白血病で死んだ。思えば私の長男と同じ年齢の時だ。何故、自分がこんなみじめな死に方をしなければならぬのか、可愛いリボンの彼女は知っていただろうか？ 夏休みになるごとに会っていたこの従妹は、私の心の中でいつもういういしい少女だけれども、私と同じにバーゲンあさが大好きな、ウルサイ中年女になってもよかったのに。

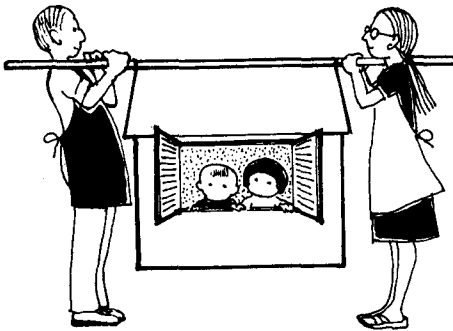
正直な話、私は自分の死を国家に強制されたくはないのだ。どんなに世の中全体が

狂ってしまった、私は私自身の頭で、身体で考え、生き、死を迎えたいと思っている。毎日何となく泣き、笑い、すごしているうちに、ある日気がついたら、黒こげの死体で水道橋（私の会社がある場所なので）あたりで被爆して死んでい

た、というような終末は迎えたくないと
思うのだ。十八世紀のスローガン「自由
平等、博愛」は、まだまだわが日本国で
は不十分なのだから、九十歳、嫁いびり
ができる意地悪ばあさんになるまで文句
を言うぞー。同志をつのります。

男も女も仕事を

千葉県松戸市 紺清由美子



妊娠したら仕事を辞める、などとは考
えてもいなかったが、悪条件が重なり退
職を選んでしまった。今思えば、もう少
し踏んばれば良かったと一抹の後悔が残
るが、今更悔いても仕方ない。その当時、
妊娠八カ月で退職し、去年十一月に再就
職するまで、ちょうど二年間専業主婦を
経験した。

子供が満一歳を迎える前後から、積極
的に再就職にむけて準備をした。まず家
から一步外に出ること。市の催す市民大
学や教養講座にも、保育付きとあれば、
参加した。核家族であり、この地に移っ
てきて日が浅く、何をするにも母と子は
くっついて暮らしていたから、急に長時
間離れて過ごしては、子の精神に負担が
大きいであろう。母親が講義を聞してい
る間、別の保育室で我が子は少しずつ母
親と離れることに慣れてきた。初回は泣
き通しだったが、回を重ねるごとに、泣
いている時間が短くなり、ついには他の
子供たちとかけまわって遊べるようにな

った。保育園に入園する時も慣らし保育というのがあり、第一日は、二時間ぐらいで、二日目、三日目と時間を延長していく。しかしこの時母親はたいじ就労しているであろうから、慣らし保育のために仕事を休むのは難しい。我が子の場合、預けることに慣れていたため慣らし保育が短くてすんだし、園での生活にも比較的早く溶け込んだようだ。

さて、地域によって事情は異なるが、入るのが難しいといわれる認可の保育園。自宅から歩いて十分ぐらいのところに、公立と私立の二カ所がある。福祉事務所で聞くと、私立の方が入園しやすいとの情報を得て、提出書類をもらう。公立と私立では、公立の方が良いと思っている方も多いかもしれないが、認可された所ならばほぼ同じ。自分の目で園を見て選択した方がよい。

求職中でまだ就労していなければ、まず入園はできない。入園できなければ職にもありつけないから、この矛盾には腹

が立つ。私は、いちかばちか、保育園には入園できると仮定して仕事を先に見つけてしまった。

英文タイプとテレックスができるので、いろいろ問題は知っていたが、派遣企業（大手ではマンパワーと言えど存知でしょう）に登録する。そこでの面接では、「一歳のお子さんはどうするのですか」としつつ聞かれた。「保育園にあずけます」と言っても入園が決まっている訳でなく内心はひやひや。どうせ子持ちではなかなか仕事がまわってくるはずなからうと多寡を括っていたら電話があり、英文ワープロの研修を受けることになった。

何しろそこでは、幼児を抱えて働いている人は誰もいないので、保育園の手続きのことなどなかなかわかってくれない。なんとか就労証明書を書いてくれ、すぐに福祉事務所で入園の申し込みをした。

たとえ入園できても月初めからである。それまでの間はベビーシッターに頼んだ。

料金は一日八千円ちかくかかる。ワープロの研修を受けている間は、無給である。一日一日と出費がかさむ。ここで投資してもきつと取り戻せるとは思っても、入園許可の電話があった時はどんなにほっとしたことか。

子育てが一段落してから再就職しても、遅くないのではという意見もあるが、次の諸々の点から反対する。

第一に自分で稼いだお金で食べていきたい。それは子育て中でも同じだ。無収入で子供とともに夫に頼っているのは、夫は収入源の会社にいやがおうでも束縛される。夫ひとりに家族を扶養する責任を押しつけたくない。

第二に、夫や子供が専業主婦という便利な存在のいる生活に慣れ、自分の後始末を自分できちんとしなくなりがちで、いざ再就職となっても、家事を相応に分担することに抵抗ができてしまう。家事や育児を一手に引き受けることは、夫や子供の生活の自立を奪う結果になりはし

ないか。粗大ゴミの生産元は、母親であり妻である。家事育児は、生きていく上でとても大切なことから、家族の者すべてがわかち合って暮らしたい。

第三には、再就職までのブランクが長ければ長いほど、好条件の仕事は見つけにくい。たとえ手のかかる子供がいても初めの一步が早ければ、キャリアも積める。

第四には、子供は母親の手だけで育てるより、できる限り多くの人と接してほしいと願うから。保育園では、保母さんや沢山のお友だちができ豊かな人間関係をもつことができる。幼児期の集団保育は、働く母親には必要不可欠だが、子供にとってもプラスになると思う。

そして何よりも自分が今までの専業主婦時代の不満だらけの生き方を抜け出て、少しでも納得できる生き方をし、子供とも距離をおけるようになり、毎日の忙しさとは反対に、却ってゆとりを持って子供と接することができるようになったこ

と。一日の仕事を終えて、園に迎えに行くと、飛びついてくる我が子。今までこんなにかわいいと思ったことはなかった。あの時、仕事を辞めなければならなかったのは子供のせいだという、否定してもふと表われる潜在的な全く身勝手な思い

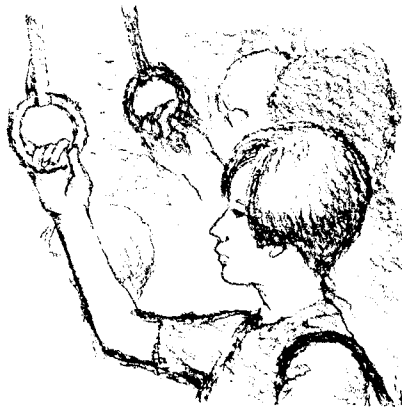
夫が病気になるとき

神奈川県茅ヶ崎市 M・H

夫が肝炎になって六カ月が過ぎようとしています。肝炎と他人に言うと「お酒の飲み過ぎですか」とまず聞かれますが、原因としてはウイルスによるものが多いです。ウイルスも四種類に分けられま

から、やっと解き放された。

男も女も仕事を。そして男も女も家事育児を。どちらか一方に片寄ることなく、寄りかからずに信頼しあって生きたい。それには、より人間らしく生きるための労働の質と量を問わねばならない。



すが、夫の場合はB型肝炎で、これは母子感染によるものが多く、また慢性化しやすいのが特徴でしょう。肝臓の役割を考えれば、まあ納得できますが、薬はありませんし、治療法もないのが現状です。

以前、新聞に掲載された予防のワクチンも、感染の機会が多い医療従事者に与えるのに手いっぱい、一般の患者の家族には手に入りません。私や子供が今は感染していなくても、後に感染した場合はどうなるのかと憂うつです。病気になるれば一生つき合わなければならぬし、会社も出たり休んだりということになります。夫は昨年の十一月末に入院して四カ月後退院しましたが、まだ会社には出ていません。夫曰く、「俺の人生もおしまいだ。もう責任ある仕事にもつけないかった」

入院先の隣のベッドの人は夫と同じ病気で再々入院。会社での信用を無くしたと嘆いていました。男性は今も昔と変わらずで仕事第一なのかも知れませんが、

ところで、病夫を持った場合、どのようにに接したら良いのでしょうか？ 悪妻の典型である私は、夫のヤツ当たりにもメゲず、ケンカを受けて立ちました。夫が「お前の食事が悪くて病気になった」



と言え、「何よ。病気持ちとわかっていたら結婚なんかしなかったわ」と切り返し、離婚さえも考えました。

今、別れていないのは妻の座に未練があるから？ 病夫にとってこんな悪妻は無用かというところでもないらしく、ケンカもストレス解消になり、今は心理的に落ちついてきているようです。病人にとって心配の種は経済的なこともあるようです。家を二年前に購入したばかりでローンもたっぷり残っているし、心の重くのし掛かるのも当然と言えます。

それで、私なりに考えて、これを機に働く方向で準備したいと、十年来の文通友達に書いて出したら「ご主人に尽くすほうが先よ」と返事が来てガックリしました。尽くして病気が治るものなら私のできうる限り尽くしますが、そうでない尽くし方も認めてほしいと思いました。

でも人それぞれ考えようがあるから、彼女を責めるつもりはないのです。夫も病気になっていろいろ変わってきました。今まで私が働くことを良しとしなかったのに、むしろ働いてはしそうになりました。私自身は余り外に出て働きたくないほうですが、今はまずステップの段階。少しずつ頑張るつもりです。

病夫を持った時の妻の心境など、多くの方から聞きたいものです。わいふでも特集を組んでいただきたいものですね。

ところで、あなたのご主人様は大丈夫ですか？

(え・早乙女光子)

投稿ホットライン——三度のメシより本が好き

生きてます 活字人間

——目の鱗、落としてますか？

記憶の闇

かぶと

甲山事件（一九七四→八四）

松本竜一著

神奈川県横須賀市 松本 弘子

障害児施設にて児童二名があい

ついで行方不明となり、やがて便ツボの底より発見されるという不思議な甲山事件について、新聞を読む限りでは、犯人は、その施設で働いていた若い保母さんという説を、誰もが単純に信じてしまう

ほかはないでしょう。

事件の一〇年を追った本書を読み、何と簡単に、一人の人間が殺人犯に仕立て上げられていくかを知り呆然とし、慄然とします。いつこのような事件がわが身に振りかかってくるか、他人事ではあり

ません。

一緒に働いていた一女性の証言、といっても証拠一つあるわけではなく、ただその女性の思い込みによるとしか思われませんが、たまたまウマが合わず、常日頃快く思われぬ同僚を名指して、どうもあの人があやしい、あの人が犯人に違いないと語ったことが、唯一にして有力な証言として權威を持ち、何が何でも犯人を逮捕しなくてはならぬ警察によって、よってたかつて強引に犯人に仕立て上げられ

てゆくのです。

一日の行動を分刻みて逐一覚えていられるほど、人間の記憶力は確かではありません。しかも厳しい取り調べの過程で、記憶は操作されてゆきます。にもかかわらず、その記憶にない束の間のアリバイがないために、この時間にこそ犯行に及んだと断定され、心身耐えられぬほどの苦境に陥れられ、意識もうろうとして……では、私が知らぬ間にやったのかも知れない、などというハメになり、犯人に仕立て上げられてしまうのです。無防備にして無邪気な人ほど、実に巧妙に陥れられてゆく過程がよく判り、心凍る思いとなります。長く苦しい無実の罪を晴らす闘いは、まだまだ続くと思いますが、負けずに頑張ってくださいと声援を送ります。

（河出書房新社 一三〇〇円）

何かをしたい主婦のために

「主婦の壁を破るセミナー」の記録

愛知県名古屋市中 岩田 和子

「何かやりたいわねー」「働きたいの」でも「子供が小さいし」「夫が……」「姑が……」「近所が……」だから、「だめなのよねー、主婦って」「私にはできないわー」

——たいていの専業主婦なら一度は口にもし、耳からも聞いたことでしょう。

しかしこうしたグチをグチのまままで終わらせずに、もっと細かく検討し、「本当は何がしたいのか」「その障害は何なのか」「どうすればよいのか」を考えて意見を出し合えば、どこかに突破口が見つ

かるのでは——こんな思いの中から生まれたのが「主婦の壁を破るセミナー」でした。

この本はセミナー参加者の一三人の主婦と、東海BOC（バンク・オブ・クリエイティブティ）創始者の高橋ますみさん、桜井京子さんを助言者とする、一五人の女性たちの討論を記録したものです。特に一三人の主婦たちの生活環境や意見などは、同年代の「わいふ」読者なら、いずれかに自分と重なりあうものが見いだされることと思えます。

また「主婦が歩き出すとき」(BOC出版部)の著者でもある高橋さんは、夫と男子二人、病気の姑をかかえて、独力で塾を開き、BOCを作り、今ではセミナー、講演も含め八面六臂の活躍をされていますが、ここに至るまでの彼女の生き方にも驚かされると同時に、たいへん力づけられることでしょう。

セミナーは第一回「主婦の思い込み」では各自カードを使って自己分析。第二回「働くことを生き方の中に」(高橋ますみ助言)。第三回「主婦の壁を解明する」で、障害となる夫、子供、そして何よりも自分自身への対処の仕方。第四、第五「働き方を探る」「新たに仕事を創る現実」では、かなり具体的な点で、新たな仕事への模索が始まっています。

このセミナーには結論はありません。いうまでもなく、それは各



自分で出していかなければならないのですから。しかし対話、討論していく中で、少しずつ真実や知恵がほの見えてくる、そしてそれを十分に生かしていくことで、これからの結果が出てくるのでしょう。あなたも、この本の誌上セミナーに参加者の一人として、対話してみませんか。

(学陽書房 一〇〇〇円)

小鳥が好きになる本

文・光瀬 龍
絵・藪内正幸

東京都文京区 林 夫佐

だんだん戸外へ出かけるのが楽しい季節になってきた。いつも向こう三軒両隣の賑やかな声に囲まれ、空らしい空も見えないような街中で暮らしていると、自然の中に戻っていく機会の多いこれからは、精神のリフレッシュの時でもある。

流行のバードウォッチの楽しさに、遅まきながら眼ざめた中年オバサンにも、この本は充分使いこなせる(?) 本なのである。図版が全てカラーなのはいうまでもないが、それぞれの鳥の説明の上につけられた、ユーモラスなタイトル。たとえば、ホオジロ——ほお

限られた時間とお金をヤリクリして、自然らしい自然の残る場所を探します。仕事のある日には絶対起さない時刻に起き出して、バッグに持ち物を放り込む。弁当、ハンカチ、ティッシュペーパーの

類に、最近は何倍率7の双眼鏡とこの本「小鳥が好きになる本」が加わる。
また、各ページに設けられた生息環境の表示や、飛び方、歩き方

の特徴を示したシンボルなども、観察の際には意外と役に立つ情報である。

軽くハンディなスタイルで、表紙は雨にあっても大丈夫なように、ビニールコーティングがほどこされている。

お天気のよい休日、子どもとゆっくり歩きながら、鳴き声の主を探しつつ、自然のあり方と、その自然の一部である人間の生き方の意味を、それとなく話し合うキッ

女を装う

駒尺 喜美編

今、この本を読み終わって茫然としている。日頃「フェミニスト」であると自認し自立をめざしてい

カケにしてみてもいいかがだろう。小学校の中・高学年以上ならひとりで充分活用できる。
(ネイチャーアイランド社 八〇〇円)



東京都大田区 須藤 揚子

る私だけれど、今まで全く気づかなかった盲点を指摘され、「なるほど、そうだったのか」と深いと

ころで納得ができたのである。

リブに関心を持ち、性差別に強い怒りを感じている人でも、「女らしさ」の枠にとらわれず自由に生きたいと考えている人でも、ごく当たり前にスカートををはき、化粧をし、ヒールの高い靴をはいている。

スカートやハイヒール、そして誇るべき民族衣装とされている、着物……それらを身につけることは、女自身が自分の意志で選んだことだと考えていた。（少しは男の目を意識するとしても）服装と女性解放運動の深いかかわりなど全く考えもしなかった。

ところが、スカートやハイヒールは、あのいまわしい足や鉄製コルセットと何の変わりもなく、すべて男社会により、男達に都合の良いように考えて作られたものであったとは……。しかも女自身

も、「女らしい美しさはこうだ」

といわれると、何の疑いもたずに従ってきたなんて……。実際は、男の作った美の基準に従わないと結婚できない、イコール生きていけないから）てん足それ自体も恐ろしいことだが、しらずしらずに美意識まで洗脳され支配され、疑うことを知らなくなるこののほろが、もっと恐ろしいと駒尺さんは言う。

「女はみだしなみが肝心といって、小きれいにせよと言われ、それでいて、炊事・せんたく・育児と、とりすましてはいられない境涯におかれる。いつも夫より一歩下がつて夫をたてていて、いざピンチの時は夫をものぐ内助の功を發揮せよと言われる。ある時はつましくみだりに露出すると言われ、またある時は女の肌はできるだけ見せるほうがいいとされる。

ある時は貞節を、ある時は煽情性を求められる。こうした矛盾した要求は、しかし男にとっては決して矛盾していない。女は男の所有物であってみれば、それは閉じこめておかなければならない。しかしまた、女は男のなぐさみものであるから性的刺激がほしい。つまり、△殿さま△△ご主人△の要求を全部充たしたいという意味で一貫しているのである。その点スカートは、足を露出し、しかも女を活動しくくさせている。男の欲情を刺激するに便で、女の行為をしるに便という一石二鳥も三鳥もの役割を果たしている。ハイヒール・ガードルなども同じである」ああ本当にどうしよう。この本を読んでから、私は困ったことに心の痛みを感じずにスカートをはくことはできなくなってしまった。ましてや、上半身きゅうくつ、

下半身無防備、しかも乳房にすぐ手が入るように、こていねいに身八ツ口があいているのだという、着物などは、生涯タンスのこやしとして身につけることはないだろうと思う。（本当は似合わないし、着付けができないからだけれど……）

何か絶望的になってきたけれど、駒尺さんはこうも言っている。「幸いにして私達は、いまアンドロジニアスという言葉も受け入れられる社会に生きている。もちろんこれは世界中の女性解放の波のおかげである。男装、女装の区別もうすれはじめている。二五年前にはTシャツにGパンで女性が街を歩けるとは思いもよらなかった。それを思えば、やっぱり、地球は動いている」とわたしは信じたい」

（勤草書房 一八〇〇円）

どうしていつしよに走るの

多湖 輝 編著

東京都新宿区 田中喜美子

『日本の子は、知らない子に会わずにいつしよにやろうと思う。』

しかし、イギリスの子は、知らない子に会って、まず親切にしてあげようと思う。』

『ぼくが初めてアメリカの学校へ入ったときは一年生でした。席にすわるととても親切にしてくれました。「こんにちは。日本からきたの。よろしく」などと言ってくれました。』

この本で、いちばん心につきささるの、日本の子どものいつしよを描いた部分でした。

閉鎖的で、自分たちと少しも差があったところのある友だちを差

別し、いつしよに抜く日本の子どもたち。彼らは外国の、本当に子どもらしく親切な子どもたちと、なぜこうも違うのでしょうか。

海外帰国子女の学校体験を集めたこの一冊は、日本の学校だけでなく、私たちの文化に対する鋭い問いかけを含んでいます。

一人一人の子どもの進歩にあわせ、同じ学年でも進んでいる子と遅れている子に全く別の授業を行なうアメリカ。教室での静かさははじめ、食堂でも、家の外でも、徹底してマナーのよいイギリス。

フランスの、式ともいえないほどのどかな入学式、始業式、卒業

式。読むうちに日本の学校が現在どれほど管理化され、画一化され、硬直化しているか、その中で子どもたちがどんな息苦しい思いをしているか、が自然に胸につきささるのでした。

巻末についている編集者の多湖氏と元文部大臣の永井道雄氏の対談がまた、面白いのです。子どもたちの告発？を素直に受けとめている多湖氏に対し、定評ある大知識人である永井氏は、アメリカ

の全体的学力低下を挙げて、日本のシステムが一概に否定すべきものでないことを語っています。

大所、高所に立ったおえらいさんの教育論が、現場で苦しんでいる子どもたちの状況の救済に、一向に結びつかない現状。現場の声が、どこで、どんなふうに変質してしまっているのか、その謎の一端にふれたように思うのです。

(桐原書店 九八〇円)





車なしではいけない郊外のスーパー

子連れのフランス

③ ドロボー天国南仏

文・かずみせきこ

あつ、ない／ 車がない／ 心臓がとび出しそうになった。

そんなはずはない。昨晚いつもどおりアパートの専用駐車場にとめてちゃんと鍵をかけたのだから。

きつと何かの思い違いだろう。もしかしたら無意識にとんでもない所へとめてきたのかもしれない。いや、誰かが間違えて乗って行ったのだ、後で気がついて返しにくるだろう、ととっさにあり得ないことを想像しながらも滅茶苦茶に探し回った。

フランスで盗難にあうほどバカらしいことはない。個人主義国では、いわゆる下駄ばきの気易い隣人関係がないから予防がしにくい。盗まれたら盗まれっぱなしである。

警察は血が流れなければ事件とは認めないらしく、空巢にやられた友人は「盗まれるのは不注意だからだ、身体に危害を加えられたわけじゃないのに大げさな」と叱られてあたまにきたと言っていた。

外国でそんなみじめな立場に立たされるのはごめんである。それに、よもや自分の身にだけはふりかかるまいと思っていた。ふりかかって、断固認めたくない心理が働いて反射的に事態を軽視し、時間稼ぎしたのだと思う。

が、ないものはないのだから仕方がな

なくなつた私の足

パリのように交通機関が整備されていない南仏の田舎町では自家用車は生活必需品、というより完全に肉体の一部である。

毎日大学に通い、子供を学校へ送り迎えし、スーパーや郵便局や病院へ往復する時の足。友達を訪ねたり映画や芝居を見に行ったり、ヴァカンスに近郊の城めぐりをしたり、コートダジュールへ甲羅干しに行くための手段である。

エクスがどんなに文化都市だろうが、プロヴァンスがいかに魅力に溢れているかが、その文化と自然を吸収する手段がなければ何も存在しないのと同然だ。だ

い。昨晚にわか雨に降られたので、駐車場に戻った時雑巾で車体を拭きあげた。

その雑巾が証拠品として所定の位置に残留している。それを見た瞬間カーッと頭に血がのぼってクラクラした。メルドノどうしたらいいんだ。

からこそ必死で言葉と地理を覚え、ライセンスを取って車を買ったのである。

しかも二台目の車だった。最初に買ったスーパーカーが欠陥車と判明したので、夫が無理して安全な家庭車二C.V.を買ってくれたのである。

友達に警戒過剰だと笑われるほどの気の使いようだった。ちょっと車の傍を離れるにも鍵をかけ忘れなかったかを確かめに戻り、アパートの付近に不審人物を見かけた日など、わざわざバッテリーを外しておいたり……。

日本では到底考えられまいが、至る所



盗まれちゃった2CV

にジプシーやアラブ難民の子供がウロチヨロシ、浮浪者や乞食がたむろしてスキをうかがっている土地に暮らしていると、こんなのは警戒のうちにいらなくなる。生活を守るための最低の常識になるのである。

むろん、日中変な男に後をつけられないよう、はねつけて恨みを買わないよう自重するのも生活の知恵のうち。安全と便利を保証してくれそうな人と交遊関係を持つのも計算の上だ。母子留学といえはいかにもスマートにきこえるが、実際は外国で母子家庭を維持するために悪戦苦闘の連続である。

それはさておいて途方にくれた。が、とにかく次の行動を起こさねばならない。

こともなげな警察

「車を盗まれた？ あ、それなら二階」こともなげに言ったのは入り口に立っていたフリックめだ。

階段を一気にかけのぼり、半開きのド

悪いことに、ちょうど大学の定期試験の初日だった。死に物狂いで覚えた中世語の動詞の活用がきれいさっぱり頭から消えて、代わりに口惜しさと先の不安が一杯詰まっている。

その上、午後からマルセイユの日本語補習校へ教えに行く日に当たっていた。半年前に創設された時代教師に志願したのは、当然車で通勤できると思ったからである。全くツイてない時はどこまでもツイてない。だめだ！大学の試験にはもう逆立ちしても間に合わない。それより先ず盗難届けを出さなければ、と思いつくやあとは夢中で町の警察めざしてかけ出した。

アの隙間から呼ばれると、机にうつむいて書きものをしていた係官が顔もあげずに「……で、車種は？ 色は？ 特徴は？」と面倒臭げにきく。

「別に特徴はないが、トランクにスーパーで買ったお米が十キロと、それにゴザが入ってる」と言うと、やおら赤ら顔をあげ、

「フーン、そんなにお米買ってどうするの？」ああ、今頃ドロボーはお米にありついて、ござの上でお花見でもやってるんだらう、とムカムカして思った。

「じゃあ、この用紙にサインしてコピーのほうを保険会社に持って行きなさい。一カ月以内にこちらから発見通知が行かなかったら、もう一度ここへ未発見証明をとりに来なさい。保険金が払い戻せるからね、見つかったらこっちから連絡するから、問い合わせの電話をしないこと、しても無駄だからね、ハイ、サヨナラ」である。

気が抜けてしまった。そのまま引き揚げるのかもしれないので、「一体全体見つかる可能性はあるのか、どのぐらいの確率なのか、希望を持って待ってていいのか、メルセデスが盗まれずに2CVが盗

まれたとはどういうことだと思うか」と、しつこく質問して職務妨害してやった。

すると、

「見つかるか見つからないかは運次第。

神様だけがご存知だ。が、見つかったも事故を起こしていてめっちゃめっちゃということがあるし、部品を抜き取られてガイコツになってることも多い。要は見つかるかどうかの確率でなく、保険金がどのぐらいおりるかの確率が重要なんじゃないか」と、無責任極まりないが、意外にまじめに答えてくれた。そしてこうつけ加えたのである。

訴えも笑われるだけ

とぼとぼ帰りかけた町に夏がやって来ていた。車で通っていた間は気づかなかったが、舗道やカフェテラスに旅行者の姿が目立ち、ブティックのショウウインドーは水着とリゾートウェア一色になっている。そうだ、くよくよせず今年の夏は誰もいない海辺に一人で出かけて存分

「お宅の住んでるアパートは泥棒に狙われている。町外れで閑散としている上に、アヴィニオン街道に面しているので、盗んだ車で逃げるのにうってつけだ。途中で山道に入りこんだら探しようがない。したがって、この半年間にお宅のアパートの駐車場から九十台ほど車が盗まれた。月平均十五台だ。この分だと、あと半年で駐車場が空になる計算だが、どんどん補充されて、まだどんどん盗まれている。実によくバランスがとれて、常時車の台数はほとんど変わらない」

「……………」

に陽焼けしようかな、と思い、ああ、車がないやだめなんだ、とまたガックリきた。

夫に何て告げよう。今度こそ本当にもう金食い虫に愛想を尽かして三下り半をつきつけてくるかもしれない。しかし考えたってどうなるわけでもない。潔く車



友人と城めぐり

のない生活のプランを立てることにしよう
と決心してバーに入った。そうか、車
がなきゃ昼間からアルコールがのめるん
だっけ。

ビール瓶を膝の間に挟んで栓を抜きな
がら、「珍しいね、どうかしたの？」と
顔見知りの主人。口惜し紛れにことのい
きさつをぶちまけ「ドロボーをつかまえ
てプリゾンにぶちこんでやりたい」と言
ったら、店中にきこえるような大笑いを
して、こう言ったものである。

「そりゃあだめだ、ドロボーだらけで監
獄は満員だ、失業者や宿なしは監獄に入
りたくてわざと盗みを働くしね、それに
死刑が廃止されてからは新入りの入る余
地がない、だから警察もまじめに泥棒を
探したり、つかまえたりしやしないよ」
居合わせた客達がうなずいたり、口を
とがせたり肩をすくめて同感の意を表
わした。

そういうことだったのか、昔読んだ
O・ヘンリーの短編にそんな話があった



が、最近のフランスに同じような事件が起きていると聞いたのを思い出した。刑期を終えた囚人が出獄を拒否してハンガーストライキしているというのである。

娑婆に出たら不景気で職などあるわけがない、宿にも食事にもありつけない、一人で餓死するより仲間にとられて死にたいとこねているそうである。

ますます暗い気分になった。坂道をのぼって帰るのが億劫になったので久し振りにバスに乗ることにした。

バス停に四人ほど人が待っている。初老の男が二人に老婦人、それに女子高校生だ。顔であいさつして加わると、「来ないよ、もう三十分も待ってる」「運転手が仕事に飽きて遊びに行っちゃったのよ」「いや、美しいご婦人のあとにくっ

ついて行っちゃったのさ」と口々に言う。「コンタクトレンズ落っことして探してるんじゃない？」と私も口を挟んだ。

それから更に延々と待ってやっとバスが来たのだが、運転手が何とこのたもうたのだ。

「サン・ミニユットウ（五分だけ待ってくれ）あそこのバーでひと息入れてくる」客はどうしたかというところ、

「ボン・ダコール（いいとも）」と答えた。

さまざまな表情とゼスチャーでニュアンスをつけたのであって、タモリのは全然違う。こういう時の陰影のあるフランス語を正確に伝えられないのが残念だ。

この運転手氏、ふざけてとび回る小学生を膝に抱き、片手ハンドルでガムを囁

み囁み発進させた。

泥棒だらけの物騒な町で人々はこうして呑気に気ままな生活を愉しんでいる。

ビクビク警戒したり、被害にあってよくよしているのがバカみたいだ。全く彼らの論法や暮らしの哲学にかかると、具体的怒りや口惜しさが、抽象的な悲憤に変わってしまうのだから妙である。

例えばその日帰宅して隣人に告げた時のこと、

「うちでも去年盗まれた、暫くして見つかったが事故を起こしていてベチャンコだった。盗んだのは若い子のカップルで、助手席の女の子は即死したときいて胸が痛んだ。車社会が若者を墮落させ、生まなくてもいい無数の悲劇を生んでいる。我々は無制限に求めた文明の進歩に罰せられているのだ。いっそ昔のように馬車に戻るか、中国みたいに自転車だけという生活に切り変えるべきだと思う」

友人は電話で、



士同者被盜車

だめ。確かにアラブ移民の子供の盗みグループはやたら多いけど、フランスの子供が盗まないという証拠もない。いずれにしろ悪いのは子供達じゃないのだから」現場を見ても、証人がいても、大半の人々が見のがすだろうし見のがしたのを

車ドロボー天国南仏

知っている。これは極めてフランス的事態、つまり病めるフランスが病原菌をまき散らさないようとり決めた暗黙の了解事項、いわば生活者の間だけの共通理解なのだ。これを説明すると長くなるので先へ進もう。

さて、案の定警察からは何の連絡もないまともとう一カ月経った。言われた通り未発見証明をしてもらいにもう一度出向き、その足で保険会社に回って交渉開始した。

交渉といってもその保険会社の支店長とは長いつきあいなので大いに同情され、中古車としては目一杯の保険金を出して貰った。

次はもう一度中古車探しである。自動車屋や中古車センターのものは仲介料が含まれていて高い上に、素人と見るとんでもないガラクタをつかませるところがある。

こりたので今度は新聞の売車欄や、スーパーの入り口に貼られた掲示板を見て、売り手からじかに買うことにした。それでも一対一では危険である。口八丁手八丁の敵相手に女子供がたちうち出来るわけもない。口達者で車に詳しい男性に一緒にいて貰い、叩いて貰う必要がある。

何しろ買った時点で売り手との関係は永久に切れるのだ。一分後に故障しても「知らない、もう私の車じゃない」と手を払うゼスチャーをされかねない。

そんなこんなで交渉や手続きに明けくられ、結局二カ月余り生活がストップしてしまった。ちょうどその間に、消費者協

「ティアン、ティアン（オヤオヤ）あなたもやられたの？ 私もおとといやられて会社へ行くのに困ってるの。あなたの車貸して貰えないかと思って電話したのに。仕方ない、じゃあシャルルのライトバン借りるわ、必要な時は電話してね、共同で使いましょーうよ」

それから最後にこう言い渡した。

「証拠がない限りだめよ、現場を見て、二人以上証人がいない限り口に出しちゃ



コートダジュールの賑わい

会発行の月刊誌が「車ドロボー天国フランス」盗みの手口と対策」を特集したのだから皮肉といえば皮肉である。

それによると一九八一年度に盗まれた車は何と二十二万台。モビレット五十万台、バイク六千台、カーラジオ二十五万台だ。盗難多発地区はマルセイユ、エクスを含むブーシュ・ド・ローヌ県とセーヌ・サンドニ県。パリを抜いてトップなのは明らかに車への依存度が高いことを

示している。

狙われる車はやはりメルセデス、BMWなど高級車で、これらはプロに目をつけられる。

映画「サムライ」でアラン・ドロンが手口を公開していたが、あんなふうにガレージとぐるになり、ナンバーを変えて登録証を偽造するなど朝飯前らしい。または悠然とマルセイユからカーフェリーでアラブ、アフリカ、中近東に運び去られ、そこで色を塗るかえられ、メーターを戻されて新車としてまた売りされているというのだ。

一方、人気のルノー^{サンゴ}五や2CVを盗むのはもっぱら十代から二十代前半の初心者。土曜の晩恋人を誘ってディスコへ行くのに足がない、隣の町のデパートヘレコードを買いに行くのに足がないというので盗む。大抵小グループを作って深夜の住宅街を襲い、用が済むと怖くなって乗り捨てる。

警察が発見する確率は約二〇%だが、

事故を起こしているか部品を抜きとられているかしてやはり使いものにならないことが多いらしい。

ではどうするか？ 頑丈な盗難予防具か警報器をとりつけるか？ 三重に鍵のかかるガレージに収納するか？

私がとりつけていたカーヌという予防具（ハンドルとベダルにかけ渡して固定させる鉄の杖）はどんなに太いものでもヤスリで三十分以内に切れる。発見された盗難車の大半はこれが切られていたそう。ナイフで窓ガラスを切りとれば鍵も役立たず。そこで目下試験的にメルセデス専用の完璧な予防装置が作られて発売されているとのこと。

各ドアとタイヤに複雑な鍵を埋め込み、割れない窓ガラスをはめ、車体全体に警報装置をはりめぐらす。これら一式で国産車が一台買える値段だそうなの、一体どうなってるんだらう。

投稿ホットライン——楊枝で重箱の隅をほじくろう！

マスコミむしる

追いつめられた

子連れ出勤

——そこに甘えはない——

東京都 津島 遼子



五月十七日付けの朝日新聞「ひとときレポート・子連れ就業」をお読みになりましたか？

子連れで会社に出るのは「甘えだ」という声が非常に多いのにびっくりしました。

私も同じ立場の人間として紙面で徹底的に話したかったのですが、こちらもマスコミで働く一人として朝日に回答を求めるのはいささか面はゆくて、「わいふ」に投稿することになりました。

まずは現状をお知らせしてはいけません、子どもは朝九時二十分～午後四時三十分まで保育園。その後、地域の中で何人もお子さんを預かってきた五十三歳のおばさんに頼んでいます。二重保育です。迎えに行くのが午後七時。仕事で遅くなる日は八時～九時まで預かってもらうこともあります。

ところが、預かってもらっている方が病気の時、都合が悪くなった時には、保育園に迎えにいったって仕事場に連れてこな

くてはいけないわけです。

「どうしようか、父ちゃんに電話して、迎えに行ってもらえないだろうか？」

それがダメになると「下の管理人さんにお願ひしようか？」「友だちは仕事が終わったから頼もうか？」と、「今日は迎えにいけない」と電話がある時、あるいは保育園から「熱がありますので迎えにきて下さい」と言われた時、それこそ五分間ぐらいで五、六本の電話をし、それがどうしようもなくなると、おんぶして会社にもどらなくてはいけないわけです。

状況判断を簡単に口にしてみても、その場になると、「保育園に行くべきかor行かなくてもいいようにするにはどうすればいいか？」いつも二者択一を迫られます。私自身、子連れは邪道だと思いますがときに仕事を離れては無理だという日があれば、切羽つまってくるのです。しかも、いざおんぶして子連れで会社にくると、原稿書きでイライラしている

同僚から「うるさい」「電話の相手に泣き声が聞こえると失礼にあたる」との怒鳴り声。(勤務体制も十時～六時。新聞社は六時～七時が一番忙しい時。「六時に帰るのなら、必要ない。能力はない」と言われることもあります)

もちろん、そういう人ばかりではありません。「しょうがないよ。どっちにも預けられないなら」と言ってくれる上司が多く、面倒を見てくれます。

私の母親も、主人の母親も子育てしながら働いてきたバリバリのキャリア・ウーマン。とても東京に来てくれなどと泣き言はいえませんが。

私がこれを書くことになったきっかけも、実は会社でのやりとりなどではなく、友人とたまたま子連れ取材のことを話したのに端を発しています。

既婚の彼女は看護婦。子どもがいません。「会社と家庭を混同するのも甚だしい。甘えているよ」と手厳しく非難されました。

これに対して私は、先ほど書いたようなことを具体的に説明しました。

「会社に保育園があるわけでもない。親が近くに住んでいるわけでもない。どこかに少しづつ犠牲になるかもしれないけど、お願ひするしかないのよ。自分がそういう風になったらどうする？ 実際に子連れで働く看護婦がきたら、許さない？ 甘えよ、で切り捨てられるの？ お互い話し合って改善していくところがあれば、やっていくのが同僚じゃないの？」と。

彼女は他に「今、ベテランの人で子どももいて、ずっと仕事を続けてきた人は



素晴らしい」とも話しました。

それでは、今、現在、子連れで働いている人はどうなんでしょうか？ 結果の中には、大変な苦勞があったというプロセスがあるはずです。途中で酔った彼女と見解の相違もありながら、必死で話し合った結果、「子どもがいらないから、わからないわけじゃないと思うけど、大変だ」というのはわかった。それでも会社の子連れはよくない」と彼女の最後の言葉。ガックリしましたが、話をしたことによって彼女にも少しずつ、共働きで子持ちの母親がどんな思いで働いているかは理解してもらったような気がします。

私の場合はむしろ会社、夫、保育園、預かってもらっている人たちに恵まれているほうです。つい先日、夫も子連れ出勤しました。何でもやめろというのはた易いことです。共働きが増えている中でそれをどう解決していくか、お互い考えていく状況にあると思います。皆さんはどうお考えでしょうか。

男と女の関係

東京都新宿区 堀内千恵子

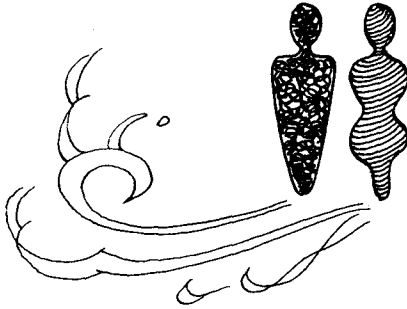
男と女が出会えると、次はベッドシーン、というワンパターンの最近の小説に、うんざりさせられている。セックスを描かなければ、売れないし、小説ではないという風潮である。それが暗くウジウジした不倫の関係で、くどくどと描写が続く。「チャタレイ裁判」は私の若いころのことである。ローレンスの『恋する女たち』



には、男と女の闘いがあって面白かった。日本では男女平等が行きわたらないうちに、男尊女卑の考え方のまま、性の解放が行なわれたから、ベッドシーンの描写も男中心で、女は性の道具として物並みにしか扱われていない。女性蔑視の考え方がチラチラして、腹が立つ。男が「女を満足させてやった」と得意になっている

るのに対して、女は男のテクニクによって満足させてもらった、となる。もっとも、セックスにおいては女は本来、受け身なのだ、と言われてしまえばそれまでだけでも。

性にルーズな女たちのことが、マスコ



ミで騒がれ、不倫の恋がもてはやされている。しかし、それはごく一部の人のたちのことで、大多数の女たちは、若い人も含めて、堅固に貞操を守っている。不道德な関係をくどくど描かれると、嫌悪感を持ってしまう。我慢して読み終えても無駄な時間を使って、何も得るものはない。出会った男たちとどうしていいかわからない。関係を持たなければならぬのだろうか、という疑問がわく。

不倫な関係は、夫婦のどちらか一方を欺いていることであり、家庭崩壊につながる。避妊したところで、性病にかかることもあるだろう。この情報過多の時代に、くどい描写はもうたくさんである。アンコを食べすぎて、ゲップが出そうな感じなのだ。

NHKテレビで、「こどもは変わったか・ひろがる性体験」というのをやっていた。十四、五歳の女の子たちが、親に内緒で中絶をしている、というショッキングなルポである。産婦人科の女医さん

の話では、彼女たちは深く傷ついている、ということであった。フリーセックスのつけは女にくる。性は解放されても、男女平等ではないのである。

男と女の間は性愛のみ、と煽っているマスコミ、特に週刊誌や月刊誌のやり方は、どうかと思う。世の中には男と女が溢れているのだから、男と女の間をすべて、愛とか憎しみ、好き、嫌いで結びつけようとするのも、無理である。もっとサバサバした間柄であっていいはずだ。

以前ゴルフの女性教室に行っていた。そこで奥さんたちに人気のあったのは、おしゃべりで屈託がなく、絶対に危険のない教師であった。奥さんたちは健全で、家庭円満である。これが小説になると、ゴルフ教師のXは、以前から弟子のA夫人と関係があったが、新弟子のB子とも内密の関係になり、コースへ行った帰りに、車でC夫人とホテルに行った、とでもなるのだろうか。

ちよつと気になるCM

東京都大田区 柴田 知子



アサヒビールの新製品「ビー」のテレビコマーシャルをごらんになったかた、いらっしやいますか。たぶん、「わいふ」の読者の中ではこの製品を愛飲されているかたは、たとえあってもごく少数だろうと推察しますが、ちよつと気になるCMですので、ご一緒にお考えいただけますか。

「ビー」は、ビールタイプのライトカクテル（アルコール分約二%）。ピンク、グリーン、パープルの鮮やかなカラーで染めあげられた三匹の子猫が登場、同三色の飲料に色彩的なダブルイメージを図るように映像構成されています。

五月十六日の毎日新聞夕刊（毎日以外の各紙にも掲載されたそうです）の同商品広告では、「天然着色料を使用」の注釈と、「自然に、ありのままに。あなたの生き方がそのまま……」で始まるコピー記事、および、ピンクの飲料はレモンの風味、グリーンはコーラの風味、パープルはジンジャーエール風味、というふ

うに、テレビだけではわかりにくい点が補足説明されていました。

それにしても——、生きた子猫を全身くまなく染めあげることが、なぜ自然で、なぜ、ありのままの生き方へとイメージが結びつくのでしょうか？そして、ピンクがなぜレモンへと繋がるのか、これでは新たな戸惑いが増すばかりです。

直接、同社宣伝部に二、三問い合せてみたところ、ピンク色は赤キャベツから採取、グリーン、パープルに関しては他社に真似られては困るという理由で教えてもらえませんでした。購買対象は二十歳から二十三歳ぐらいまでの女性とのこと、同年齢層の圧倒的多数がピンクを好むというデータによるものだそうです。

これで納得のいく人、いらっしやいますか？私にはとても無理。ますますもってわからなくなってしまうのです。

レモン、赤キャベツ、ショウガ、おまけにCMソングを唄ってるグループが「ナスビ」ときては、一見、野菜ジュースか



な？の趣がないでもありません。ところが、これがビールやらコーラへと飛躍。「風味」というもっともらしい表現も、実態の曖昧さをカバーしているようにしか受けとれません。ともかく、食品における「色・味・匂い」の脈絡がバラバラ。視覚的にはいうにおよばず、心理的な色盲症に陥りそうな戸惑い——、これは私だけの病的症状なのかなあ、と不安にさ

えなります。

多様化、個性化の時代といわれて久しいわけですが、私たちをとりまく環境は、常に何かが向こうからやってきて、主体的な行動ができにくくなっています。楽チンといえば楽チンですが、テレビコマーシャルの特定層として狙い打ちされた若い女性たちが、ピンク一色に染めあげられ、没個性に逆もどり、なんてこともあるいはなきにしもあらずです。

商業主義に狙われているのは、決して若い女性ばかりではありません。むしろ日常の消費全般を受け持つ、主婦層をターゲットにしたもののほうが多いように思います。こちらのほうは、前述の「ピー」のように裏がミエミエの可愛らしいものではなく、もっともっと巧妙です。なぜなら、主婦層の賢さや見栄や損得勘定に聡いことなど、一筋縄でいかないことを彼らは知っているからです。騙されまいとして片意地になるのもシンドイし、なんかこう、CM屋さんを相手に知的ゲ

ームでもするような具合に、物事を見分ける確かな目や暮らし方のセンスを磨いていけないものかなあ、と思うんですが、いかがでしょう。なにしろ、消費者イコール被害者の図式は、もう通用しない世の中ですからね。

ほんの一例ですけど、ついこの四月、大阪での事件ですが、マイホームを購入した家族が新居に引っ越した直後、隣の工場の騒音の凄さにびっくり仰天。「業者が事前に周辺環境を説明しなかったのは不当である」と、訴訟したところ、「日曜、祭日などの休日しか下見をしなかった購入者側が注意義務を怠った」として敗訴しています。このように、消費者が常に正義でもなければ、被害者でもあり得えないという事実を、私たちはしっかりと踏まえてからなければなりません。つまり、物事に対して、自分がどう主体的に関わっていくか、ということでもあるんですね。

(え・万谷陽子)

ニューヨーク便り⑤

絵と文●西田淑子



雨の日も雪の日も歩き続けるいたいけなラテン系新聞配達少年——その実、新聞配達おばさん。子供は週に一度の集金係。失業率の高いアメリカで、英語もしゃべれないとあっては、もう子供の仕事を奪うしかない。

他

家の裏庭で遊んでおばあさんにとっつかまった悪ガキグループ。

働いている母親の代わりに怒られているのはオペアガール（住み込みベビーシッター）。

被害を受けた向こう三軒両隣り、窓から「出てけ、出てけ」と顔を出し、おばあさんの説教に唱和する。

from
NEWYORK

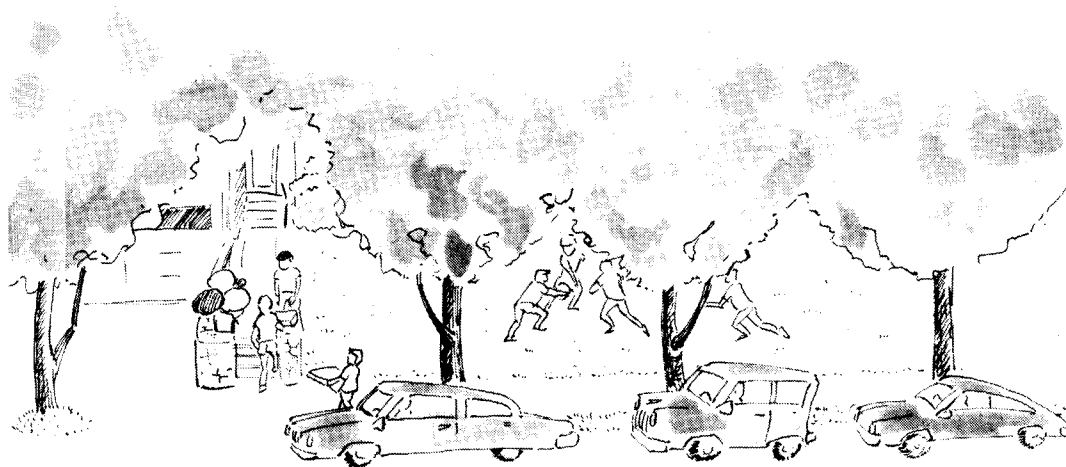


次

々と高級車が列をなすパース
ディパーティ。

風船は表札のないアメリカでは不
可欠の小道具。

パーティ慣れた子供達が集う三
時間は、親にとって楽なものだと
思うのだが、それでも更に手を抜
いて、ローラースケート・ボーリ
ング・プールと会場を外に求める
親が多い。





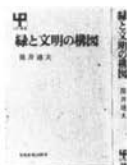
春

だけしかないリトルリーグ戦。裕福そうなこの黒人女性には、犬のひもを持つためにだけ連れてこられたメイドである。

キャッチャーがポジションを離れると、すぐしゃしゃり出てきて代役をつとめるのが彼女の男主人。女主人は児童文学作家。まだ陽の明るウィークデーの六時。あちこちでフルメンバーの家族の姿がみられる。このうちの何割かは再構成家族のはずだ。

緑と文明の構図

筒井迪夫



森林率国土の凡そ七〇%、高温多湿の夏を持つわが国が、砂漠化する危険はまああるまい。たとえばイタリアは、夏期三カ月ほとんど雨が降らず、森林率はたったの二一%だそう。それでもやって

けるんだから……と思うが、本書によると、ことはそう簡単ではないのだ。わが国の伝統的森林管理は、園芸といってもいいほど、手を掛けたいわば名人芸であった。それで水を治め農業を守り、日本人

の生活全体を成り立たせて来た。しかし近代化の激流に、今やすべては押し流されつつある。どう変わるか、どう変えるか。「緑の国づくり」を本書はすすめる。
東京大学出版会 一二〇〇円(W)

私の「女性学」講義

小松満貴子



もっと若い時期に、女性学的視点から、生涯設計についてアドバイスを受けていたら、どんなによかったか……著者自身、研究の過程で痛切に思ったという。女性学者としての立場から、『女性学』の

系譜をたどり、『女性学』とは何か、を分かりやすくまとめたのが本書である。著者はこの講義ノートを、「女性の自立のためのオリエンテーション」として構成したという。

「女性学とは何か」「職場と女性」「家庭と女性」「地域社会と女性」の四章に分かれ、女性に生きるための指針を与えてくれる。
ミネルヴァ書房 一七〇〇円(W)

八月の少女たち

大野允子



昭和二十年八月六日、広島市上空で炸裂した一個の新型爆弾によって、どれほど多くの人が運命を狂わされたことか。当時爆心地近くにいた県立第一高女一年六組の生徒五十余名もほとんどが即死、或

いは全身火傷の身で自宅に這い戻って死んでいる。その時のようすを同じ県女の上級生だった筆者が、当時の生徒日誌や、父母達の聞き取りをもとに再現させてつづったのがこの本である。淡々とした語

り口ながら、一人一人の行動が実にいていねいに優しくいたわるように描かれている。主に小、中学生たちに夏休み中の読み物としてぜひすすみたい一冊である。
新日本出版社 一二〇〇円(T)

親と子の愛 赤信号・青信号

吉岡たすく



世に教育書は、たくさんあるが、この本は「クルマ時代」に対応できる人間を育てることに眼目が置かれている。

良くも悪くも車は急速に社会に定着した。親たちの育った環境とは

明らかに違う。環境の悪さを嘆くばかりでは、今、育っている子供たちには役に立たない。

現実の子育てのヒントとして、教師体験の長い著者のアドバイスは有効である。何より観念論のお説

教でなく、具体的なエピソードで語られているので、説得力がある。また、内容が項目ごとに細かく分かれているので、どこからでも読み始められるのも嬉しい。

交通タイムス社 六八〇円(Y)

さらば、悲しみの性

河野美代子



高校生の妊娠——それが近年急増していることを、私達は数字の上では知っている。が、その彼女らはどんなふうにも身ごもり、どうやって中絶、あるいは出産しているのか、そのとき相手の男性や親

はどうするのか、はほとんど知られていない。これは、広島産婦人科医が、そんな女高生たちに接し、女性の眼でその実態を見つめて、こみあげる怒りを爆発させてきた本といってもいい。

「妊娠したらおろせばいい」と安易に考える連中に、このドクターは、人工中絶の方法を事細かに示すべく、この本をプレゼントしなくなった。高文研 一一〇〇円(H)

村上義雄のトークマラソン
子どもたちがタイヘンだ！

村上義雄



肩ヒジはった教育書ではありません。児童読物作家の山中恒、井上好子、保坂展人、落合恵子、村田栄一、中沢けいの六人と、朝日ジャーナルの村上義雄氏との対談集。ふつつ、対談というのは手とり

早く本をつくる手ぬきの方法、というオモムキがあるのですが、この本はべつ。それぞれの人が教育を中心に語っている、のだけれど、自由な「語り」の中から、おのずから語り手

の半生や性格、生きかたが浮かび上がってきて、面白がっているうちに、教育の問題点が見えてくる仕組みです。

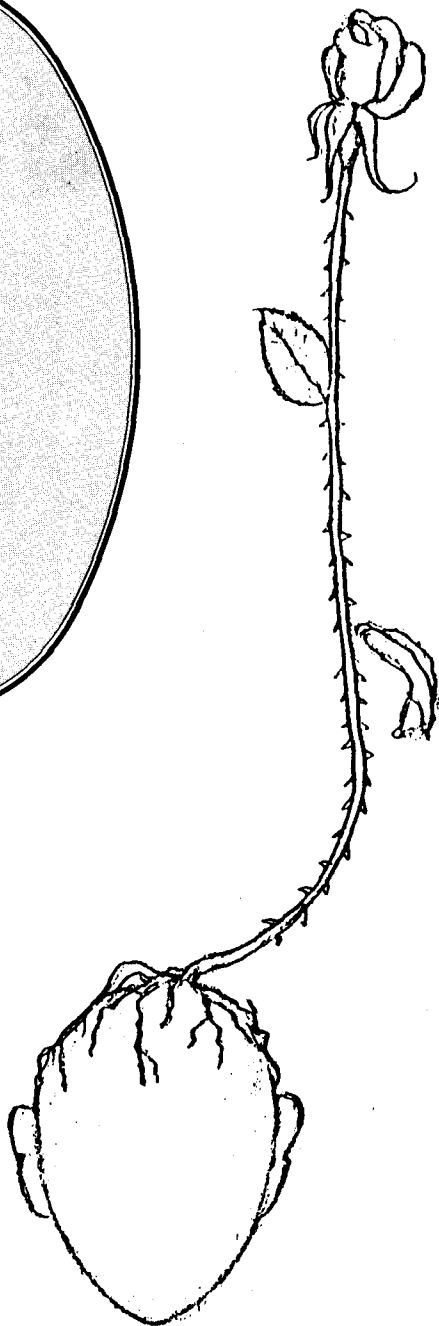
金子書房 一二〇〇円(T)

ほん

ほん



石渡雅子



寝たきりになった私

しらじらと夜が明けてきた。

「マアちゃん、峠を越したみたいね」と、ハツ子さん（弟の妻）の声が聞こえる。私の病気は一人に一人という脳動静脈瘤破裂であった。

手術までは、一週間ほど、頭を動かさずに居るようにとの先生のお達しがあった。

頑健というほどでもないが、四十一歳のこれまで、入院は一度も経験はなかったので、真直上^{まなすく}を向いて寝たきりの生活は、この上もなく辛い毎日である。

毎日、毎夜、絶え間なく襲ってくる頭痛、食事は他人に食べさせてもらう。本来個室でしゃがんだり、腰かけて済ますトイレの用を、ベッドの上で、人にとってもらう。皮肉なことに、トイレの真前の部屋に入ってしまったらしく足の音、水の音が一晩中絶え間なくしている。私

も行きたい。この二本の足で歩いて。当たり前前だが、こんなに素晴らしいとは。

点滴を、大きなのを、黄と無色透明のを各一本。計二本。入院当初は、検査検査の毎日。それでも点滴をしている間は、その中に痛み止めが入っているものとみえて、激痛が少し和らぐのが救いであった。

上を向いたきりの寝たきり病人の私に残された、当時のたった一つの楽しみは、天井のしみを見ることだった。天井のしみは勝手についたものだろうが、つなげて見ていくと、女性の群舞のようだった。

上を向いたきり、じっと寝ていることは、重労働だった。

朝、五時になると、検温にくる。六時半に顔を洗わせてもらう。七時半食事と薬。片付けると、夜泊^{なふ}まってくれた人が帰る。姑と私の妹^{ななこ}尚子が一日置きに交代で泊まってくれた。

尚子は、私と幾つも年が違わないが、いつまでも甘ったれの女の子であったのが、今度の私の入院生活では、大働きなのであった。

泊まってくれた人が帰ると、十時頃母がやってくる。母は庭に咲いたコスモス、小菊などを必ず抱えてやってきて、ない時は病院の門前の花屋で買ってくる。

「花瓶ごと買ってきたの」

とすましている。私からは見えないが、枕元の棚に全部飾られているらしい。

兄一家がきた。

「わあ、お花がいっぱい」

幼稚園年長組の甥は、ボーイ・ソプラノで言った。そして私のベッドの傍に立つと胸を張って、言った。

「僕はこの病院で生まれたんだ」
姪も、

「あたちもよ」

と負けずに言う。皆が笑った。頭が痛い私も顔をゆがめて笑った。姉が私に夕食を食べさせようとすると、姪は、

「なあに、自分で食べられないの？ 自分で食べなよ。ノンノ（なぜか姪はそころ、自分のことをノンノと言っていた）だつて食べてるんだよお」

と、半ば羨ましそうに言う。そしてお祈りを忘れちゃったと祈ってくれるのだった。主の祈り。だった。

「天にましますわれらの父よ。願わくはみ名をあがめさせたまえ。み国をきたらせたまえ。みところの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用のかてを、きょうもあたえたまえ。われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ。国とちからと栄えとは限りなくなんじのものなればなりアーメン」

甥と姪は、珍らしげに病院の裏庭を眺めて、

「ドラえもとアバレハッチャクが、夜ここで運動会をするんだよ」

と、言いながら帰っていった。

血管撮影をやった。頸動脈から造影剤

の入った管を脳の中の血管へ通して、撮影するレントゲンのことで、それは恐ろしい体験なのだった。スイッチを入れると、頭がクラクラッとして眼の裏に稲妻のような光が見える。クラクラクラッドカンヒルヒルヒル／＼ 自分が怪獣か何かになってしまったかのようで、終わった時は、ズッシリと疲れ切ってしまう。翌朝見えた二人の先生に、

「原爆で亡くなった方は、あんな風な体験をしたんではないでしょうか？」

と、思わず言ってしまった。

運動会のシーズンで毎日、近くの小学校からは運動会の音が聞こえてきた。

いやでいやでたまらない手術

病院と家までは近いので、夫は仕事の合間にきてくれるし、姑、実母、姉、妹、弟夫婦がくるくると交替で看病してくれたので、私は病院の中では稀に見る幸せな患者で通っていた。

担当の畑先生が見えて、

「私の手を握ってごらんさい」

とか、

「私の顔が二つに見えませんか？ この指は一本に見えますか？」

と、いろいろなことを聞かれる。左手左

足は全く動かない。動かないというより、動かし方を忘れてしまったと言うほうが

当たっているかもしれない。

手術の日までは新聞や本を読むことを禁じられている。

入れ替わり立ち替わり、きてくれる姉や妹が、いろいろな情報を持ってくるのだった。

「発病の時、七十パーセントが死んで、残りの三十パーセントのうちの三分の一が手術で死んじゃうんだって。マアちゃん、あぶなかったんだよ」

夫がやっと簡単なお化粧道具を持ってきてくれた。私は口紅をこつてりとつけてみた。看護婦さんが飛んできた。

「石渡さん、口紅なんかつけちゃって、

どうしたの？　ここは病院なのだから、口紅つけるんだったら、早くうちに帰ってつけてください」

畑先生が回診の時、ベッドに散らばった、コンパクト、口紅、アイシャドウ、眉墨などを、ポリエチレンの袋に入れてくださった。

「ここへ置きましたから、枕の上の棚ね」手術の日が決まった。十一月八日（木）、この日は長姉の誕生日である。

手術には自信があるが、検査の結果、私の心臓は心音が小さい。不整脈がある。脳の手術は長時間にわたるので、麻酔が大変に難しい。二人の先生は毎日、頭を抱えて研究に没頭してくださったと言う。麻酔に心臓が持ちこたえられないこともあるからである。

そうこうするうちに、私自身が、手術を受けるのが、いやになってしまっていた。姑は、

「あら、気が小さいんだね。あたしなんか楽しみだよ」

と、言うし、母は母で、

「切っちゃまえば、もう簡単。わたしは手術大好き」

と、言う。皆、脳神経ということをお忘れしてしまっているか、理解できないらしい。脳神経はさわってしまえば破壊されてしまい、一度破壊された脳神経は絶対に再生されないのに。それに手術料だって莫大なものだろう。患者本人がやりたくないければ、やらないでくれるだろうと、私は思った。

看護学生がきて、手術の説明が始まった。「よくわかりましたが、手術がいやでいやで仕方がないのでです」

「どうしてですか？」

「それは、あなたが私になってみないと、わからないと思います」

夫、親姉妹、姑にみとられて、何が不満かと言う顔をして若い看護生は出て行った。

大勢の近親者にみとられて、稀に見る幸せな人間ではあるだろうけれど、それ

も一つの幸せというだけで、手術がいいやということに理由はない。いやだからいやなのだ。

畑先生が入ってこられた。

「石渡さん、来週月曜日、また背中から髄液取りますからね」

「はい、わかりましたけれど、手術がいやで仕方がないんです」

すると、畑先生は顔を赤くして、

「だいじょぶ、だいじょぶ」

と、出て行ってしまわれた。

寝ている間も、何とか手術はしないで済ます法はないものかと、さんざん考えた。

頭の激痛は、十月の終わりのころ、ガチツと麻酔でもかけられたかのように止まっていた。足はトイレを使わしてもらったとき、倒れないだけの力がついてきているし、手も、指を全部折れるまでに回復している。

背骨が痛くなるほど考えて考えたのは、長姉の誕生日ということである。

これは我ながら名案だ。私は母に言った。
「十一月八日はみこちゃん（美智子）の
誕生日だから……はずしてもらおう？
だって、もしもよ、私が駄目だったとし
て、ずっと先のことを考えてごらんない
片方でお祝いしていて、片方で法事をや
ることにしちゃうじゃない？ お母さ
ん、そう思わない？」

意外にも母は、

「そんなこといわよ。手術は八日」

いやだいやだと思いながら日はどんど
ん経ってしまうものだ。

夫が泊まりにきてくれたことがあった。
私はベッドの傍にきてくれるように頼ん
で言った。

「あのね、あなたと結婚できて幸せだっ
た……いろいろなことを教えてもらえたし」
と、言うとき、夫は暗闇の中で感激したよ
うにうなずいた。

「そう……」

（ああ、これで安心して手術に臨める）
（絶対に死なないぞ。この二本の足でま

た、歩いてやるぞ）

そう、自分に言い聞かせてはみるが、
失敗のほうに入ってしまうかもしれない
のだ。

いよいよその日が
やってきた

手術の日がきた。十一月八日朝。入院
直前、偶然に、ゆるやかなパーマをかけ
て左から右へ横わけにして、前髪共に唇



の線で内巻型にしていた髪を刈ることに
なっている。

床屋さんが来た。

「どんな症状ですか？ 私も頭を切りま
した。ほら、ここに金具があるでしょ」
と、自分の額に私の手を持っていてさ
わらせてくれた。ホチキスのピンの大き
いような金具が指に触れるのがわかった。
「でも、いま、何ともありません」

次から次へと、いろいろなことを話題
にしながら、あつと言う間にバリカンで
丸坊主にされ、次に剃刀で剃られてしま
った。思ったほど、何の感傷もなかった。
「じゃ奥さん、頑張ってくださいよ」
「ええ、大丈夫です。私には生命線が二
本もありますから。ホラ！」

「あ、こんなに元気なら大丈夫」

一人ごちて、床屋さんは出て行った。
九時になると、夫が友人の天野さん^{あまの}を
連れてやってきた。

「天野さんの弟さんはね、終戦直後、頭
の手術をして、今も元気にやっていられ

るんだって」

（終戦直後は、まだ日本では脳の手術はできなかったのではないかな）

と思ったが、手術前の私を元気づけようとして言っているのだと思って、黙っていた。

看護婦さんが入ってきた。

「わあ、似合うわあ」

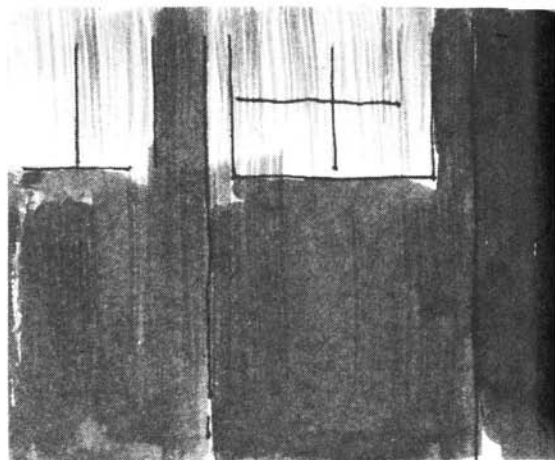
と、丸坊主になった私を見て言う。

「色っぽいよ」

と、天野さんも言った。天野さんが荷物をもとめているすきに、私は夫に言った。「もしもね、万が一、私が駄目だったとしても解剖して、研究に役立ててくださって、先生に言って」

天野さんが帰って行くと、手術の仕度が始まった。手術室を探険に行くような気分になってきた。

看護婦が、担架で迎えにきた。夫と握手をして部屋を出た。十一時近くになっていた。もう手術がいやでも何でもなかったが、素裸のまま行くのがいやだった。



看護婦さんは手術室の前で、言ってくれた。

「じゃ、あなた、頑張ってくるのね」

二、三名の若い医師が飛び出してきて、手術室に入ると西元先生が近づいて来て、

「だんだん眠くなりますからね」

私は相変わらず素裸で恥ずかしいので、誰へともなく、

「寒いから、何かかけてね」

と、言った。

（ちっとも眠くならない。どうしたのだろう）

そっと眼を開いてみた。私の手が固定されているのが見えた。右足の付根がバサッと切られたようだった。

（おかしいな。頭を切るはずなのに）

あまりの痛さに、思わず、

「痛いから、早くやってね」

と叫んだつもりだったが、そのころから何もわからなくなった。

どのくらい時間が経ったのだろう。十五、六人の白い着物を着た人が、右往左往しているかと思うと、真暗なところに迷い込んでいくような気がする。

「もう醒めてるんじゃないの」

と、いう声が聞こえてきた。すると畑先生の声が、

「石渡さあん、もう終わりましたよ。

眼をあけてごらんなさあい」

と、大声で言われた。ガラスがピリピリ

するほどの声だった。そして、

「きようは、幾月幾日いくがついくにちですかあ？」

幾月幾日なんがつなんにちって、普通、何月何日と言わないだろうか？ これが気に入らなかつたのと、中国語で言ってるうかなと考えていたので、黙っていた。

眼を開けると、沢山の先生の眼が、私をのぞき込んでいた。

点滴をしながら、ガラガラと廊下を帰って来た。

結局、私の場合、十一月八日午前十一時から、出てきたのが翌朝一時ごろだから合計十三時間余、他の患者さんが、

「あの人どうしちゃったのだろう」

と、いぶかるほど時間がかかったのだそうである。それはまさしく「奇跡の生還」と言う言葉がびつたりのものであったと言う。満五年が経ったいま、私はこれを書いている。

病室に着くと、看護生のOさんが待っていてくれた。私は、

「さんそ」

と、言った。

「はい、酸素ですか？」

と、Oさんは、壁からすぐにビニールの管をのばしてくれた。夫がどこからか現われて、

「おい、わかるか？」

と、言うので、うなずいて、右手を出した。

麻酔が切れたのか、大激痛が始まった。せつかく治っていたというのに。

「先生にお礼言ってきた。そして痛み止めの黄色のカプセルをくださいって」

と、私は夫に懇願した。

先生方が病室に集まってこられた。

「先生、ありがとうございます。カプセルをください。黄色のカプセルをください」

と、私は言い続けた。

手術の夜が更けていった。雨が降ってきたようだった。暗闇の中のベッドの脇に母が和服で坐っている。時折誰かしらがネプライザーで痰をとってくれる。母

が坐っているというのは私の錯覚だった。

「お母さんは元気？」

「お母さんは元気ですよ」

手術というのは心身ともに大変に疲れるが、畑先生もフラフラになって説明に出てこられたということだった。その日の記録に、私が、

・「もう寝るからね」

と、スヤスヤと寝息をたて始めた。

とあるが、自分では殆んど寝ていないような気がしていた。

手術は終わった

昨日までと同じ太陽の光なのだろうが、えらくまぶしく感じられる朝日が、病室に入ってきた。手が、ベッドの柵に縛られている。くやしい。畑先生がこられた。

「先生、手をほどこいてください」

「頭の傷をいじらないと約束しますか？」

よく頭をいじる人があるから」

「ついでに足の点滴が痛いからとって」

「あ、それは駄目だ」

手術のあとに、大々的にまた、麻痺がきてしまった。妹や夫がトイレを使わせてくれるたび、

「困った、困った。足が倒れちゃう」

先生は、

「悪くすると、一生車椅子の生活です」
「リハビリは、半年はみてくださいね」と、言われる。

衣笠病院の武田先生が駆けつけてきてくださった。手術後、声が出なくなってしまった私の手をとって、
「声はすぐ出るようになりますからね。あなたは、脳外の手術としては、経過がとても良いそうですから」と、励ましてくださった。

西元先生が見えて、

「可哀相のようだけど、明日午後から、血管撮影をやりますからね」

「血管撮影ってどんなのだったけ」

「どんなのだったけなんか言っちゃってる。ハハハハ。一番いやがっていたあれです

よ」

手術の次の日に、あれをまた、やらなくてはならないとは。

次の朝、きてくれていたハツ子さんが、朝食を食べさせてくれた。おかずに切り干し大根の煮付けが付いた。

「手術の次の日に切り干しをハツ子さんに食べさせて頂いたこと、一生忘れないわね」

と、言うとき、ハツ子さんは泣きそうな顔をするのだった。それまで絶対に、いっていいほど出ることのなかったタクアンも付いていた。嘔吐とあごが痛い。これもリハビリテーションの一つだったのだそうである。

西元先生が見えて、

「来週中には大部屋に移って、からだを、ベッドごと起こして、ご飯を食べましょうね」

私は、眼をつぶったまま、

「ああ、うれしい。良かった」と、つぶやいてしまった。

思えば一カ月以上も、検査の時や、シート交換の時以外は、上を向いたつきりで、せめてベッドをギャッジ・ベッド（ハンドルをぐるぐる廻せば上半身を起こすことができるベッド）にしてももらえないものかと、待ちに待ったことだったのである。

二〇八号の大部屋に移った。十一月も半ばになっていた。あんなに楽しみにしていたベッドなのに、起こしてもらったら身体中が痛くて、なれるまでに二、三日はかかった。

すぐにリハビリが始まった。理学療法士の坂内先生が部屋まできてくださった。私のベッドに櫓を立ててくださった。櫓に滑車で私の左手左足を吊って動かす訓練をしようというのだ。また、板と針金で作った手の形をしたものをく다さって、古い手袋を輪ゴムで止めつけるよう指導してくださり、夫がつけてきてくれたもので毎日、指を動かすようになった。何をどのようにやっても、左の肩から

下の関節という関節が痛くて死にもの狂いでやらなくてはならない。

妹が泊まってくれた朝は、恐怖の時間がくる。朝、私が眼を醒ますか醒まさないかの時刻にバツと蒲団を剥いだかと思うと、キュッキュツと私の左の指を動かしかかる。

「あのね、只今からリハビリを始めさせて頂きますとか何とか、挨拶をしてからにしてよ」

と、言くと、

「あの時、ああしてもらったから動くようになったと後で思うと思うんだ。感謝のない病人だね」と、得意満面である。

「よおし。治ったら往復ビンタだから」

十一月末、とうとう西元先生が、

「いま歩行器を持ってきましたから、石渡さん、歩いてみましょう」

と、言われる。六十日ぶりに私は床の上におり立った。

リハビリに向けて 再出発

毎日午後になると、付添の人か看護婦さんに車椅子を押してもらって、整形外科へ行き、一時間ぐらいいリハビリを受けるようになった。

夜七時になると、弟夫婦が必ず立ち寄って、歩行器で歩かせてくれる。



夫が千秋実さんの「生きるなり」を買ってきてくれた。脳卒中から奇跡の生還」と副題がついている。読むことが許されてきたので夢中で読んだ。

頭の毛が生えてきた。針金のような。

先生は、

「若い人は早いねえ」

と、おっしゃるが、手術の時消毒を兼ねて、ヨードチンキで、ここを切る」という印をするもののだそうで、

「石渡さん、手術の時、うっかり使っちゃって、大急ぎで洗い流したんですが、間に合わなかったですね」と、気の毒そうに言われた。

幅一センチ長さ十センチぐらいの禿が出来てしまっていた。何と毛根まで溶けて流れてしまうものらしい。輝かしくも誇らしい禿が私の頭に残ることになった。麻痺を治すためのリハビリのために厚木市七沢の七沢病院へ申し込んだのは昭和五十四年暮も押し詰まってからだ。入院許可はなかなか下りない。

昭和五十五年が明けてしまった。

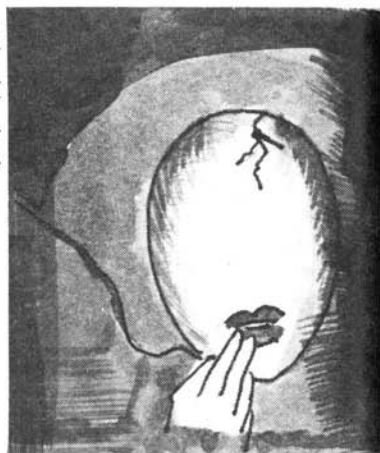
「もうこれでは二月かもしれない」

と言いついた時、一月二十七日、やっと七沢病院から返事があって、医事会議に通ったから明二十八日十時に家族面接、二十九日入院ということになった。

一月二十八日。夫が七沢勉院へ行ってくられた。厚木市七沢は山の中なので、相当に寒いらしい。五病棟と決まったから持ちものは全部五と書くようにといわれた。

面白いのはトレーナーとサラシのひもを五本、持ってくるようにとのこと。トレーナーとは、もう入ったらすぐスポーツでもやらされるのかな。無理なのに。もっと具合がいいと思っているのかな。そう言えば千秋実の「生きるなり」の表紙にも千秋さんがトレーナー姿で写っている。私が、あんな風に手を振って駆け走る姿が出来るのはいつの日か。とにかく行かなくてはならないんだから。

その日、逢えた看護婦さん看護助手さ



ん一人一人に、

「おかげさまで、明日七沢へ行けることになりました。永い間お世話になりました」

と、あいさつにまわった。

皆感慨深げに、

「そう。良かったわねえ。頑張ってね」と、言ってくれた。

夕方、畑先生が飛び込んでこられ、

「お別れだっけ？ 元気でやってきて下さい」

西元先生も、

「何時ですか。六時四十五分頃？ 早いね。送れないと思うけど、元気でやって

きて下さいね。この間も言ったけど、治ったらきて下さいね。石渡さんと飲みに行くつもりだから」

私は国立ではとうとう「飲む人」で通ってきってしまったらしい。実は殆んど飲めないのに。

次の朝一月二十九日、またもや雨だった。同行してくれる弟夫婦が朝食まで持って早く来てくれた。夫、私、弟、ハツ子さんの四人で、朝食をして、つかまればやっと立てる足で、三人に付き添われて、雨の中を七沢病院へ向かうことになった。

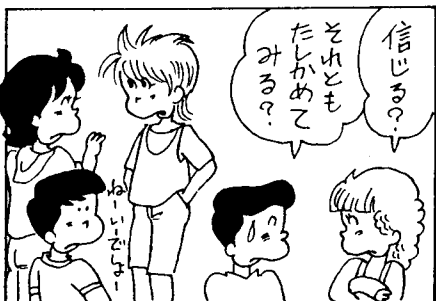
丸四カ月前、ここへ運ばれ、十分に歩けないにせよ、また生きてここを出ていく。玄関前に着けられた車の、助手席のドアにつかまって私は雨の中の病院を振り返った。思わず泣きそうになった。どこかで先生が見ていてくださっているかもしれない。

「じゃ、石渡さん、ほんとに元気で」
玄関の庇の中で見送りの人が言った。

笑止笑止

♥ テーシゆの？

♥ ドースル？



テーマ原稿募集

●一九六号のテーマ原稿は、「夫ではない異性の存在」（仮題）と決まりました。

巷には、人妻のよろめきだの、不倫の恋だのということが溢れています。

そうしたことは、下劣な男性週刊誌がでっち上げた「ガセネタ」と思いこんでいたのに、「わいふ」のアンケート調査によっても、妻たちの婚外の性の実行率は意外外に高く、それも年齢の高い四十代以上で二三・三％という数字が示されました。

結婚している女性が夫以外の異性と関わりを持つ背景には、さまざまな現実があります。しかし少なくともそこには、台湾や韓国に「売春観光」に出かける夫たちの、性を弄ぶ姿勢はまったくなく、それぞれが自分自身の愛と性の充実を求めて模索している姿が、アンケートへの書きこみを通じてはっきり浮き上がっていた、と思います。

残念なことに、そうした真実は「妻の婚外交渉、四人に一人」というたぐいのショッキ

ングな報道に打ち消され、数字だけが一人歩きしていくのが残念でたまりません。

私たちには「婚外の性」を、罪悪として断罪する先入主も、ファッションとしては認める気持ちもあります。しかし二三・三％の数字の背後にひそむ妻たちの真実を、より間近かにみつめてみたい、と思うのです。

夫以外の異性への傾斜は、夫に十全な満足感を抱いていれば、あり得ないものなのだろうか。それならばこの数字は、日本の現在の夫婦の関係の貧しさを、表わしているのだろうか。いや、男も女も、長い結婚生活の中で、ただ一人の相手を守りぬくということは、むしろ自然に反するやりかたなのだろうか……。さまざまな疑問がわき上がってきます。

あなたと夫との関係、結婚と愛についての考え方などを含めて、夫以外の男性との関わりをレポートして下さいませんか。

個人のプライバシーに深く関わるテーマです。今回はとくに「誌上匿名」ばかりではなく、住所氏名、はじめから一切無記名の投稿も受けつけます。

枚数は四百字詰め原稿用紙で二十枚―三十枚です。あなたの心の真実に迫る手記を期待しています。

●ワンポイント情報

今回のテーマは「チカン撃退法」です。

満員電車や映画館の中で、不愉快な思いをなされた方は、沢山いらっしやることでしょ。夜遅く一人で寂しい道を歩くときも、何とも不安です。なぜ女ばかりがこんな思いをする？ の議論はさておいて、こんなときに身を守る方法を沢山知っておきたいですね。

チカン用の道具もいろいろ出まわっているようですが、そういうものを使って成功なさった方はいらっしやるのでしょうか。

愉快（不愉快？）なエピソードも交えての過去の体験談、いま実行していらっしやる予防法など、武勇派、知能派ひっくるめての、我々女たちのためのアイデアを、ふるってお寄せください。

分量は四百字詰原稿用紙三枚まで。締切は二つとも、八月三十一日です。ではご投稿をお待ちしています。

わいわいガヤガヤ

東京の会員の方々にお願い
貸家さがしをしています //

滋賀県大津市 中野 桂子

場所は吉祥寺あたり——これはこちらの思
わくなのですが……。

夫は県庁を退職して四年、目下県の広報の
仕事をしています。

私は来春退職予定（公務員）。そのあとは
どこに住もうといいわけですが、現在の家は
当分置いておいて、東京に“かしや”を求め
ているのです。そのわけは、翔んで行った長
女とそのあとをつけて——でもないけれど、
また関西否定の二女と、私たち夫婦のどちら

かが住みたいと思うからです。

長女は現在目白に下宿をして、三田の慶応
（博一年）に。二女は京都市立美術高校から
東京の美大への受験準備をしており、春休み
と、この夏休みも武蔵野美術学院の講習を受
けに東上。長女とは別に下宿をいたします。
こんなことでは、親のほうを腰をあげて住居
をまとめねば、年金生活があたりになるこ
と必至。もちろん公団住宅への申し込みをし
ておりますが、このあたりは千倍の申し込み
率、いつになったら結論が出るやら。

今頃おこがましい田舎者とお思いでしょう
が、吉祥寺にはこだわりの田舎者、もしお
心当たりがあれば……。この田舎者、現在滋
賀県大津の公民館で熟年大学（実は六十歳以

上）のお世話をしておりますので、東上の折
には何なとボランティアさせていただきます。
三DKぐらいを希望しています。
よろしくお願いいたします。

とにかくやってみよう

東京都 匿名（40歳）

今年いっぱい失業保険をもらいながら休養
するつもりでいた。念願ののんびり生活であ
った。それがまだ半分も過ぎていないのに、
新しい仕事の話がきて心が動いてしまった。
心の半分で自分の貧乏性のため息をついてい
る。

仕事の話というのはあるレストランの店長
である。今までにない大きな役割であり、今
までの経験を生かせる道でもある。その意味
で私を刺激するのに十分であった。どっちみ
ち働かなくてはならないのなら、自分の人生
のメインとなる仕事をと熱望していたので、
職業としては申し分なかった。

問題はお定まりの、主婦業との両立^①である。何しろ夕飯時に家にいられない。

この仕事との出合いを大切にしたいと思う心との狭間で私の頭は揺れ動き、眠れない夜を重ねた。

高二の娘に相談してみると、意外にも彼女はパッと顔を輝かせ、

「すごいじゃん、ママ。絶対やればノ」と、言ってくれた。

「ママが遅い日は私が夕飯作るわよ」

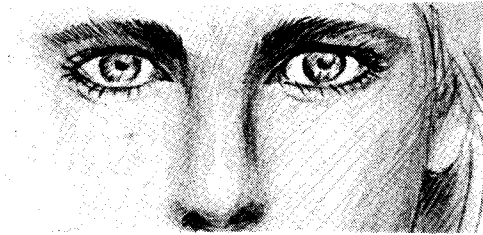
あんまり明るく言うので、もしかして私の不在を喜んでいるのではないかなどと、ちよっぴりひがんでみたりする。

仕事先の先輩女史も好感が持て、社長と共にこの仕事が女性に適していること、先行き主力となっていくことなどを力説する。

私自身、自分の道を探さなければいけない時期にもきており、娘に家族としての責任を持たせることも決してマイナスにはなるまいということ、とにかくやってみることに決心した。

果たして仕事を立派にやりこなせるか、娘

が私の片腕として成長してくれるか、数々の問題を提起して、私の新しい挑戦は始まろうとしている。



ようやく連絡できました

滋賀県近江八幡市 佐竹 陽子

もう、かなり以前のことですが、ラジオでグループわいふのことをお聞きしました。主婦の投稿誌を発行していると言うので、その後、ずっと、入会したいと考えておりました。連絡先がつかめずにおりました。

ところが昨日、「性・妻たちのメッセージ」を書店で見つけ、さっそく、おたよりを書いている次第でございます。

私は、短大卒業後、ずっと女性だけの職場に勤務しておりましたが、二年前、男性のいる職場に転動して参りました。現在の職場に移るまでは、自立した女性を自負していたのですが、男性と職場を共にするようになりましてからの私は、女性差別を利用して都合よく男性に甘えている自分を発見することになりました。

かつて「男まさり」と言われたことのある

私だったのに、今では、男性にとってかわい
いタイプの女性にさえなっていました。

いったい私に何がおこったのでしょうか。男
と女、不思議な関係について、もっともっと
考えてみたい。そんな思いが起こってきたの
です。

是非、入会させていただきたいのです。ど
うかよろしくお願い申し上げます。

私の休日

埼玉県越谷市 嶋田たい子

専業主婦であり、三人の子供の母親にひた
りきっていた私が、ひょんなことから仕事を
するようになって今年で八年目である。今で
は、すっかり現在の生活のペースのパターン
が、決まっている。おそらく私は好奇心旺盛
な精神でこれからも専業主婦に戻ることもなく、
欲張りな日々をおくっていくことだろうと思
う。

働いていると休日が待ち遠しいものである。

私にとって休日は大事な心の充電日であるか
ら……。

私の休日の一日は主人を会社へ、子供達を
学校へと慌だしく出してからスタートであ
る。昨日の一日は……、誰もいなくなっ
てからまた、私は布団に入った。一時間ほどぐっ
すり眠ると時計は九時をさしている。さあ、
私の自由時間が始まった。

前日、仕事の帰り図書館から借りてきたば
かりの佐藤愛子の「躁病のバイキン」を読む。
相変わらず作者の皮肉が一杯、ウッフと声に
出して笑いながら一気に読み上げた。

もう、一時になっている。昼食を厚焼きの
トーストとサラダですませて家の掃除にとり
かかる。鼻唄も出てくるというものだ。階段
を雑巾で拭きながら、登場人物が、どの人も
自分の身近にいる人々によく似ていて、おせ
っかい屋、ケンカっぱやい人、うらみがまし
い人……と次から次へと私の心の中で動き出
して、私の鼻唄も大声の唄へと変わってゆく。
掃除が一通り終わる頃には私の頭の中の
「躁病のバイキン」の登場人物は静かに心の

中におさまっている。その余韻のさめぬ間に、
私は心を静めてノートに向かい、書名、作者、
感想を書いて次の本のページをめくる。時計
が午後の三時すぎを示している。

こうして私の休日は本と自分の心の世界に
ひたって過ごす。だから読書は私にとって、
必須のもの。一週間のうち一日は充電日で、
明日からまた、妻、母、仕事、さらにテニス、
ダンス、通信教育をする欲張り人生のスター
トである。

現実半分夢半分

埼玉県久喜市 斉藤 友子

(絵も)

昔少女漫画を描いていました。

ペンで描きはじめたのは高校時代からです。
大学ノートにストーリーリイを作っては書きこみ
資料を集め、原稿用紙に描きあげて行くのは
この上なく楽しいことで社会人になってから
も続け、友人達とささやかな本を発行したり
の青春時代でした。

が、結婚してからというものは家事と育児といった雑事に追われ、気がつけば三十代、少女漫画とはもう無縁の世界になってしまいました。ストーリーだけはノートに少しずつ書きためてきたのでたくさんある。

漫画ではなく絵本とか小説とかにアレンジしてみようと、原稿用紙に文を書きはじめて

まもなく「書きたい女たちへ」の本、そして「わいふ」にめぐりあったのです。現実をしつかり見つめて生きる「わいふ」の方々にくらべ私は、少女漫画と共に成長したせいか、夢と現実の世界に半分ずつしか生きられませんでした。三十すぎてもなお、天使や妖精の存在を信じタイムマシンで、過去の人々に会ってみ

たいという考えてしまうのは精神的に幼いかなんでしょうが。

中世の錬金術師がエメラルドを五月の露とよんだこと、クレオパトラもこの宝石が大スキだったこと、彼女が愛用したキファイを始め、香料の歴史のこと、パルミユラ女王ゼノビアのこと、貴婦人が愛したお菓子のこと、シルクロードに点在する天使達のこと、こういうものも調べて絵と文にまとめてみたいと少しずつ行動を開始しています。

というわけで子供が大きくなったからヒマで仕方ないということは全くなくもつと時間がほしいと毎日必死なのです。

専業主婦も気楽じゃない

千葉県八日市場市 鶴岡 俊子

昨年、三十四年の教員生活に終符をうち、専業主婦となった。今までと比較してどんなにか気が楽になるだろうか。これからは、のびのびしたくらしができる。



ところが主婦業一カ月で大失敗をしてしまった。

五月ははじめのある日の夕方、家の裏手で草取りをしていたら、若い男性が二人裏のほうまでずんずんはいつてきた。前を歩いてきた男性が、

「消防署の者ですが防災指導にまわっています」と、胸のポケットから証明書のようなものを、ちょっと出してみせた。紺の制服、星印のついた襟章、編みあげの黒靴、消防署の方とそっくりである。台紙にはった記入用紙をみながら、

「鶴岡さんは農業ですか」ときいた。私の家は畑の中にあるが、みんな近所の畑なのである。

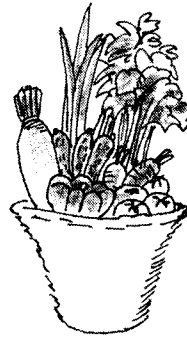
「いいえ、ちがいますよ」と返事をしながら、消防署には教え子もいるし、夫も教員をしていたので、私の家を教員と知らないはずはないな、と一瞬疑問はもったのだが、彼らは、さっさと仕事をすすめていく。そこにたてかけてあるプロパンガスのボンベをみて、

「くさりでとめてありませんね。地震の時例

れると危ないですから業者にたのんでくさりをかけてください」

「はい」

「それから、風呂のお湯は夜ぬかないでください。火事にでもなった時は水が一番必要ですからね」



次には消火器のある場所をはじめから知っているのかと思うほど、さっさと台所の裏口をあけて、柱にかかっている消火器をみつけ「これは期限がきていますね。新しいのととりかえてください」

「うちでは部落の消防団の人がきて、つめかえてくれるんですよ」

「そうなんですけど、消防団の人がいそがし

いから私達がたのまれてまわっているんです」
そういいながら家の表のほうへまわった。私もいっしょについて表の縁側に行った。そこにはもう消火器が二本置いてあった。来た時に置いて裏までまわってきたのだらう。

「この消火器は一年三千六百円です」というので、私は内心三千六百円くらいならどうにかなるだろうと思いつながら、

「これ、ほんとうに消防署でやっていることなんでしょうね。この頃、だます人もいますからね」

「そうですよ。悪い人もいますから気をつけただほうがいいですよ。これは十年分ですから三万六千円いただきます」と領収書とパンフレットを出した。私はびっくりした。一年三千六百円と安い言い方をしておいて三万六千円をとるなんて。でもこのやりとりが手ばかりで、私は出さなくてはならない感じで私の小づかいから三万六千円を渡してしまった。二人はさっさと門から出て止めてあった自動車にのり走り去ってしまった。私はあわてて消防署へ電話をして、防災指導をしているか

どうかたずねた。

「奥さん、だまされましたね。奥さん一人だつたでしょう。そういう時、ねらわれるんですよ。消防署では物品販売はいっさいしませんから今後気をつけてください」

ああ、だまされてしまった。くやしい。

それから間もなくテレビのニュースや新聞に消火器販売の被害がでていた。私のように倍以上の値段で買ってしまった人がほかにもたくさんいたんだ。

専業主婦も気楽だけではなかった。

がんばれノ

青いくちびるの少女

千葉県習志野市 岩崎 八重

青いくちびるの少女とすれちがった。ヨーロッパで、青や黄緑の口紅がはやっているのは知っていたが、黄色い肌の日本人の顔には、いまひとつしっくりこないようである。

しかし、似合おうが似合うまいが、堂々と

街の中をゆく少女がうらやましかった。この勝手気ままなところが「若さ」なのだから。

青いくちびるの少女よ、世間の目など気にせず、がんばれノ

新入りの弁

東京都豊島区 斉藤 雍子

朝日新聞紙上で「わいふ」を知り、さっそく一九三号から購読させていただきました。

まずは皆様のあふれんばかりのエネルギに圧倒され、今や日本女性に決して弱い立場ではないと実感しました。そしてまた同じ誌面に、栃木の大兼さんの「脇役、聞き役、陰の役の人々のことを忘れないで」という文が掲載されているのは、編集のバランス感覚の良さだと思われれます。

専業主婦と自立する女性とは、本来対立する立場ではなく、女性として、人間として、共通の問題に向かって協力し合える間柄であると思います。私自身、十二年ほど前、家の

事情でどうしても仕事に出なければならなかった時、何よりもありがたかったのは、母の協力和保育園の存在でした。

そして家庭と仕事を両立させるために、心身共に疲れきっていた頃、ちょうど日中国交正常化に伴い、ピンポン外交で我が国を訪れた中国の方達の笑顔をテレビで見たのです。

お化粧つきのない地味な服装の中国婦人の輝くような笑顔は、つくりものではない心からの喜びにあふれていました。その笑顔の原因が知りたくて、現代の中国についていろいろと調べていましたが、今年の夏、ようやく中国を訪問する機会が与えられました。

アメリカやヨーロッパの生活については、ちょっぴり憧れを含めて皆が注目しているのですが、アジアの人々の生活に対しては、何となく暗いイメージが今までついて回っていたような気がします。でも、同じ文化圏として、また、長い間、封建社会で家父長制の下敷きにされていた中国の婦人達の、現代の明るさと力強さには、私達日本人にとって、より身近に学ぶべきものがあるように思えます。

炎天下の大陸の暑さは覚悟していますが、なるべく頭を冷して、保育園や工場を見学し、女性の方々に直接会って、ホンネを聞いてみたいと、目下準備に追われています。

自分自身のこととは何処に？

愛知県知多郡 伊藤 智子

一九四号の佐々木さんのお気もち非常によくわかります。私には子どもが一人おりますが、正直いってここ数年の教育論議ブームには少なからず閉口しています。たしかに子どもは可愛い、幼児からの躾も大切、校内暴力もいじめの問題も素通りは出来ません。しかしあまりにも社会全体が、教育教育……の洪水で私は溺れそうです。

地域の集まりでも子どもの躾がテーマ、学級懇談会に出席すれば（これは子どもの話題が出て当然ですが）「子どもに学校での一部始終を聞きたいのですがなかなか話してくれません。何か聞き出すコツはありませんか」

と困惑している母親。それに真面目に対応する先生、「誰かこうしたらうまく聞けるというお母さんいらっしゃいませんか？」だって、もう馬鹿らしくて私はその場にいるのもいやになってきました。子どもは話したいときには話す、話したくないときには話さない。

自分の子どもの頃を思い出せば簡単明瞭。

このところ私は同年配の人と話すのが億劫になってきた。すぐ、うちの子が、先生が、塾が、なのである。いったいこの人自分自身のこととは何処においてきてしまったのかな？と心配しつつ、結婚しても子どものいない人、また独身で話題豊富な人と、社会のでき事、スポーツのこと、男のこと、そして自分自身のことを話すのでアル。

科学万博スケッチ

神奈川県藤沢市 内海真木子

万博中央駅のバス乗り場はいかにも遊園地行きのバスの発着場という感じでした。臨時

エキスポライナーの廃車寸前といった、なんとなくバッチイ感じの寝台車型列車から解放された私はほっとした思いでスパーシャトルバスに乗り込みました。スウェーデンのボルボ社製の連結バスは大型であるだけに、ゆったりとした乗りごちでした。

いかにも急造されたという食堂やホテルが建ち並ぶ道路を滑らかにバスは進みます。しかしバスが谷田部町に入ると、さすが筑波学園都市、森や畑の間に忽然と現われる環境庁や通産省などの研究所が物見遊山気分の人に緊張感を与えます。広い舗道をジョギングしている人や、自転車や徒歩で通勤、通学の人達の顔も日本の頭脳もしくはその子弟らしく引き締まって、バスの乗客とは好一対のように思われます。ただ単に子供の学校の創立記念日が平日にあったというだけの理由で特に関心もないのに、朝五時起きして子供二人連れ神奈川くんだりより出かけて来た私にはかなりショックでした。エキスポライナーの中での会話から考えてもデイズニールランドに行こうか万博に行こうか迷いに迷った末こちら

に來たというような人が多そうなのですが、私達見物客は日本一の高知能都市に遊びに來た旧人——遅れた人といった感じで眺められているような氣すらしました。

二十分の走行の後北ゲートにたどり着いたのが午前八時三十分、既に五千人以上の人が開門を待つており、開門の九時を待つて行列、これが今日の行列始めて、この後すいている外国館を除いて全て行列、行列を強いられました。そしてせっかちで、どっしりしたところのない国民性（ちょっとオーバーかな？）を十二分に味わわれることとなったのです。

上野からのエキスポライナーのほんの四十分ほどの乗車時間中に、やたらお菓子や果物を並べたて車中をよごしたり、立っている人で一杯の車中をやれトイレだ水飲みだと歩き、子供がドタバタふざけ回るのを放置していた人々が、そのままの氣分で列に加わるのですから、列は何時も乱れっぱなし。ガードマンが注意して回る時は良いのですがいなくなるとうすぐ知り合いをみつめてわりこみをしたり、子供達がふざけっこを始めたり、人に

コーラやアイスクリームをくつつけたりなど、またそれを注意する者もないという悪循環に身をさらすことになりました。さらにそうした国民性を熟知しているはずの主催者側も（日本の頭脳さん達も参加しているでしょうに）なんら手を打たずに混乱にまかせているわけ。特に富士通パビリオンでは整理券をもらうのに一時間、その整理券を行使して館に入るまでにまた一時間待たせ、なんのための整理券？ と思わせるんです。さらに新聞等で報道されているとおり午後四時をすぎると文字通り潮が引いたように観客はいなくなるのだけれど、それから入場整理券をもらいに各人氣館に行っても、みんな七時頃の最終入場整理券しかもらえず、人はいないのに入館出来ないしくみ。それで知らない人同士の整理券のやりとりの輪ができる訳だけど、なんか科学的でない感じ。

まあそうしたゴチャゴチャもお祭りの彩りとしてはいいのかも。児童生徒を中心とする団体客がいなくなると、商売不熱心で身内のおしゃべりにのみ熱を入れていたお店には人

影もなく、警備の人だけが目につく寒々とした光景の出現。さびれた遊園地といったたずまいに帰路の足をはやめます。

おもしろくなかったといえば嘘になるけれど、すばらしい科学の祭典といった気分にはほど遠く、やっぱり私にとってもデイズニールンドか万博かといった感じでした。暑い夏休みはこの混乱に身をまかせる気にはならないから、平日の（五月三十一日）万博行きは正解でした。普通の人の科学万博体験記です。



自転車

東京都調布市 今井富美子

一週間前、自転車がなくなっていました。鍵をかけたつもりが、かけていなかったらしい。

四年前、家庭教師と塾のアルバイトを同時に引き受けて通勤用にアルバイト料から買い求めたものである。店主と交渉の上、三千円までもらい、なおかつ二カ月払いという（その割にはあまり大切にしたいと言えないが）記念すべき品なのである。信州の寒い夜道を、子供達の通園の送迎を……と故障もせず、本当に役に立ってくれた。こちらへ転居後も仕事への往復、子供達とのサイクリング、買物にと重宝したものである。

中、高六年間、自転車通学をしたため、自転車は大好きで、ガソリン臭くなし、小回りはきくし、風を身体いっぱいを受けての自転車はこたえられない。

物を盗られた経験がないためか、不思議に怒りは湧いてこないが、まるで飼犬が蒸発してしまったようなもどかしさを感じる。そのうち、またひよいともどつて来るのではないかという気がして、つい自転車置場を覗いてみる。

駅前の通りに面したマンションの自転車置場のゆえ、誰かが気軽に乗って行ったものかも知れない。今頃はどこかに置き去りにされて野晒しにでもなっているのだろうか。

「母の日」異聞

愛知県刈谷市 原 眞智子

息子二人がこの春学業を終えた。長男は修士課程まで十八年、次男は十六年の学校教育をへて職についた。それぞれ通勤の便を考えてアパートを借り、学生下宿を引き払った。夫と私が見合せては、やれやれやっと終わったかと思ふいたのは二度や三度ではない。学生生活の不規則さのとはっちりには



はとほと往生していたから。

四月が残り少なくなったころ、一人の友人が私に言った。

「お宅では今年は母の日が楽しみですわね」「え？」「一瞬・二瞬くらい後に私は理解した。息子二人が就職したのだから母の日にはプレゼントを抱えて母親のもとへやってくるに違い

ないと彼女は考えたのだ。しかし私は返事に詰まった。我が家には母の日の習慣はない。

私が遠くの老母に贈物する程度だ。若い息子たちは就職したばかりで、母親をしみじみ思ひ出すとは思えない。ましてプレゼントなどと殊勝なことをするわけではない。その点は太鼓判を押してもいいくらいだ。

「さあ、今までも贈物もらったことないし……当てにしないほうがよさそうですよ」いささか歯切れの悪い言葉を口にする、彼女は少し意外そうな表情で言った。

「うちでは息子二人（中・高生）が母の日とか誕生日には相談してプレゼントを持ってきます」

ウーン、そういう家庭もあるのか。ただ私の家は違っていたし、子どもをそうは育てなかった。

ところがこの日以来、私の心中に小さな疑念が宿った。もしかして母の日に息子が、息子たちが、リボンか何かついた包みを持ってきたやしないか。しかしそんなことがありうるだろうか。不安と言ってもよく、期待と名づ

けることもできそうな落ち着かなさだった。

そして五月の第二日曜。静かな晴天が暮れた。電話、小包なし。もとより本人たちも来ない。どうやら息子たちは私の思った通りに育ったらしい。善し悪しは見る人によるだろうが、私としては満足というか、落ち着いた気持ちになっている。

ふるさとの友よ

WIFEをどうぞ!!

千葉県船橋市 森本 邦子

昨年の春、差し出し人の名前に覚えのない手紙を受け取った。高校卒業三十年を祝っての同窓会の案内状だった。「はや、そんなに……」。歳月の重さに思わずうめき声をあげてしまった。

日本海の青い海の見える校舎も懐しく、私は仕事を調整して、若狭（福井県）へ旅立った。「そうだ、その折、あれを」と荷物の中に十冊余りWIFEを入れていった。

さて、梅雨の雨降りしきる会場での再会は、

ナイスミドルとやらの男達と熟女達の熱気で予想を越える興奮と感激の連続で、時は飛ぶように流れ、私は閉会近くになってカバンの中のものに気付き、いささか焦ってきた。誰に、何処できり出せばいいのか。遂に深夜に及ぶ三次会にもタイミングがつかめず、翌日、ローカル線、北陸線、新幹線と乗りついで帰る道すがら、十余冊の本は私にくっついたままだった。無性に腹が立った。思いついたら即実行、決意をしたことは躊躇せずに行ってみるという勇気と行動力を自負している私としたことが……。もっともこの敏捷性は、長所どころか思慮の浅さ故に、大失敗、大混乱、後始末に大わらわでヘトヘトになるということをこれまでの人生で何度繰り返してきたことか。

数日して、郷里の幹事連に御礼状を出す折、お礼として、それ等の本を送ることにした。話をした人々にも、各々、「良妻でござい」を看板にしていた人には「悪妻」の特集を、仕事をさがしていた人には、「再就職」の情報をのせたものを、恋多き女で独身貴族には

「恋愛体験」の号をというふうに。私の拙い幼稚園批判の文がのっているのと共に送った。唯、全ての友達に同じ文章をつけ加えた。貴女が生きてきた道のりは、平坦だったか、修羅場の連続だったか。三十年の空白をして私は知る由もない。が、先日、お会いした折の貴女の瞳の輝き、その視線を浴びた瞬間、私は識ってしまったのです。もはや確かなる自己証明をつかんでしまったのだな。これから、ますます若々しく、華やぐ生命を燃やしていくな、と。私の直感間違っていないと思うのですが、いかがでしょうか。もう、私達は、『文化』というものをひたすらなる受け手の時代から、送り手になるべき時期にさしかかっているのではないでしょうか。一市民である故にその生活実感を、嘘のない真実の視点で語り合える場が、友達にかつてどれほど活字文化の場であったでしょうか。お読み頂いたWIFEには、どのひとつとも商業雑誌の如き商品化された言葉はないはずで。そこにこそ価値を私は見い出すのです。読後の感想をお聞かせ下されば幸いです」と。

ほどへてハガキや電話が届いた。「おもしろかったわあ。はやけど、わいふちゅう名前が気に入らんなあ」。そうか、彼女は独身のキャリアウーマン。イノシシどしのわが同輩は、独身や若くして子連れで離婚した者等、女達は何故かシングルが多い。が、すかさず、「なにいうとるんや。主婦という状況を体験してないあんたらにこそ、その現状を知ってほしいのんや」。「なんでや?」。「考えてもみいな。女が生きてには主婦になることを当然とする社会に生きて、あえてそれをしないということとは、いわば、偏見と闘った戦士ではないか。だから、体制側についた主婦的状況はいかなるものかを知る権利と義務があるんちゃうやろか」。

私がまくしたてるほどに、短大の教師をしている彼女は、「ほなら、あんた、手続きとっといてんか」という具合になる。「く、ちゃんがすすめるもんなら、ええもんなんやろ、とったげるわあ」とすぐくあっさりした人もあり、「ほんまかあ、おおきに!!」と電話口で頭をさげることしきり。おしつけ

たみたいで悪かったかなあ。それにしてもふるさとの人々はなんと心優しいのだろう。それとも、かつて学び舎を共にした故の心の通じ合いかと涙が湧いてきたり。現在の自分の周辺で、経済的には不自由ない連中やひと理屈をこねまわすのがメシより好きという先輩、同輩、後輩の女達をねらって、「よし、この人なら」とあたってみて、見事に断わられた苦い経験をイヤというほどにしていた後だけにいっそう胸が熱くなった。

その後、郷里に帰省のたびに彼女達にお詫びもかねて(?)電話を試みた。ところが、これがまた意外なるかな。「主人にも読ませとるんよ。こういう活字のつまった雑誌、今どき珍しいいうて、二人で読んで、知り合いにも回しとるんや」と。だいたい似たりよつたりの感謝のお言葉。ほっとするやら、飲むが体中を駆けめぐるやら。そうか、今や、都市では溢れる情報の中で、真に価値あるものを見い出すマナコを人々は失いつつあるのかもしれない。

私達は、歴史の流れの中で生きていたとい

う存在証明を自ら記録する時代にいるのではないだろうか。偉いとされる専門家によってではなく普通の女達によってその足跡が残されてこそ、後に続く人達に確かな生き方の指標ともなるのではないだろうか。

長雨続きの梅雨もやがて終わりを告げるだろう。山あり海あり湖ありの故郷へ帰る日を待ちわびる日が近づいてきた。よし!! あ



人に手紙を書いて再会を約束しよう。そして、男性諸氏の意識改革のためにも、WIFEをすすめてみよう。私の胸は夏の季節を夢みて早鐘のように高鳴るのである。

辛さこそごちそう!

石川県金沢市 守田 厚子

活字人間の夫と旅行。

珍しく本を持たない彼に、さりげなく「わいふ」を渡す。

読みはじめて一時間。「毒のある雑誌だね」と。

この「毒」が良くなってやみつきになっているのです。

田舎の生ぬるい現実はこの辛さはごちそうそのものです。投稿したいけれど勉強不足。まずは版画で。よろしく願います。

(朝顔のすてきな版画のお集書をお寄せ下さいました。編集部の特断で「投稿」とさせていただきます。あしからず……)

職場の夢と現実

神奈川県横浜市 古山 明子

最初の育児の大変さの記憶が薄れる頃、(四年かかった)二人目を妊娠、次男を出産した。二人目の育児は上手にでき、それが自信となり、もっと積極的に生きたいと切に思うようになった。

長男が幼稚園に上がるまでの三年間は、イライラ、ダラダラの窒息しそうな毎日だったので、乳幼児だけを相手に一日中、家の中に閉じこもってしまふのもういやだった。

そんな折、通信教育の添削指導者を募集している広告を見つけ、これだ!! と思い即応募した。テストを受けて採用された時はうれしかった。テストを受けたところは本社であったが、答案の添削・採点を仕上げて届けるところは、自宅から近くということで、ある分室になった。ここは会社というよりは、マシンの一室で、オペチャン達がワイワイ

かたまって仕事をしているといった感じで、
のっけからがっくりきてしまった。

もっと他の雰囲気——男の人が大勢いて
心の広い中年男性と接したり、若い子の一途
な視線を浴びたり、聡明なキャリア・ウーマ
ンに出会ったりして、わくわくするような気
持ちで働ける場を——と密かに期待していた
のだ。話題といえば、子供と亭主のことだけ
という日常にあって、他の世界に入っていき
たかったのである。仕事の担当者も主婦（な
ぜか会社の人というよりは、主婦であること
を強く感じた）、出社してくる人も子連れの
主婦、主婦ばかりの職場であった。皆、お母
さんの顔をしていて——一人の女ではない——
各々の家庭の雰囲気をもそのままひきずって
きていた。

仕事を始めてみると、出社する曜日と時間
が毎回変わることが、預けるほうとの関係で
予想外に大変だった。答案の枚数も十枚だっ
たり四十枚だったりする。急ぎで四十枚も預
かると、ほとんど毎日、家事を放ったらかし
てこの仕事に追われるようになる。

五歳の上の子が「遊んで」と言っても、遊
んでやる時間がない。彼は同じ机の上で、お
絵書き等をして私のまねをしていたが、ずい
ぶんと淋しかったのではないか。枚数をこな
すのに追われ、本を読んだり、日記をつけた
りする時間もなくなり、自分がカサカサして
きたと感じた。家族に対しても心が閉ざされ
ていた。

これでは何のために働いているのかと、い
きづまってしまった。子供の急病で仕事を中
断したのを機に、思い切ってやめる決心をし
た。

子供達は幼く、自分が仕事を受けるのに
は早すぎた。今から思えば、女性雑誌からの、
子育て後どうしていいかわからない主婦、ヒ
マをもて余している主婦は云々という情報に、
自分の考えも判断もなく染まり、何かやりが
いのあることを……とあせっていたように思
う。

それに、元の職場のような所で働きたいと
どこかで強く思っていた。エネルギーな
職場、手ごたえのある仕事、わくわくするよ

うな体験……、さっそうと仕事をしていたO
しの頃を思い出し、今の仕事が味気なかった。
Oしの頃と比べること自体おかしなことであ
ったが、今や平凡な主婦である私が、再び働
くのは、よほどの覚悟が必要だとわかった。
今は、家族の中で、自分をしっかり見つめ
ていこうと思っている。

突貫工事もほどほどに

福岡県久留米市 島村 雅子

去年の暮、待望の新居に引越しました。ま
わりにはまだ自然がいっぱい。聞こえるのは、
近くの家の鶏と犬のなき声、庭からみおろせ
るお寺の林からとんでくる小鳥の声ぐらいの
もの。ああ、なんていいところだろうと毎日
感激していました。

ところが、先月、家の玄関の前の空地がう
れ、家が建つことになりました。にぎやかに
なっているわねと夫と話したのもつかの間、
毎日、十人近くの大工さんが来て突貫工事と

いった風。余程急いでいるのかと思ってましたが、後で建主の方に聞くとハウスメーカーの都合だそうです。

それにしても毎晩十時過ぎまでトントン、ギリギリ（電動ノコ）とやるのです。これが二週間ぐらい続いたあと、その日はなかなか終わらず、でももう帰るだろうと床に入りましたが、結局その晩は二時まで。我が家とは五メートルぐらい、隣家とは二メートルはなれてないのです。

翌朝、太工さんが「ゆうべはやかましかったでしょう」と一言、憤まんやる方ない私は「ええ、せめて九時までにして下さい、小さな子供がいるから」といいましたが無言。この晩も十時過ぎまで。

あまりのことなので支店に電話し苦情をいっただけですが、なしのつぶて。おまけに、水は隣家の水道をわがもの顔に使えばなし。ある晩、隣家のご主人が出てみたら、電気も隣家の屋外コンセントからひいていたとのこと、その非常識ぶりに腹がたつやら、おかしくなるやら。

このメーカー（高杉開発）は他所でもこの調子らしいのです。どうやら工事も終わり、また静寂が戻ってほっとしているのですが、この会社は工期の短かさも自慢しているようですが、近所の犠牲の上にあぐらをかいて、これからもやっていくのかと思うと許せない、不買運動でも起こしたい気持ちです。

私も月刊希望です

東京都太田区 関根 信子

さまざまな思いで、いつも「わいふ」を読んでいます。私も月刊希望の一人です。

「わいふ」の届く偶数月になると、待ちきれなくて、何度もポストをのぞいています。そして、できましたら料金もあまり高くならないようにお願いしたいのですが……。ちょっと虫がいいですね。

編集部の皆様のご苦勞もまたふえてしまうのでは……と心配しながら、小さな声で「月刊大賛成」と叫んでいます。

消極的、月刊支持

愛知県名古屋市長岡本のり子

「わいふ」も読みたいという程度の読者なので、正直なところ（隔月・月刊）どちらでもよいので、意見を言うのをためらっていました。

ところで、一度、ために月刊にしてみました？ というのは無責任すぎるでしょうか。——消極的、月刊支持——



（え・中山利恵子）

わいふ・投稿規定

書くもヨシ
書かぬもヨシヨシ

ドンドン書いてノドシドシ送ってノグイグイ載せますノ!

●定期購読者になればどなたでも投稿できます。誌上匿名は可。ただし原稿には住所氏名を明記すること。(無記名のものは受け付けません)

- 次のコラムへご投稿をどうぞノ
- うちのワルガキ 子どもとその周辺の話について、どんなことでも。
- オットどっこい 夫について、ノロケ、珍談、不満、ケンカ、何でも。
- ナウい熱年 今どきの若い者へ、一言いい方のためのシルバリーシート。若い方がそれを読んで、文句言いたい場合もどうぞ。
- ファミリー・イン・ブルー 家庭内、親戚づきあいなどのトラブル、よそ

では言えないホンネのはけ口に。

- マン・ウォッチング 家庭で、職場で、PTAで、その他どこでも、あなたの観察したヒト科男属の生熊を。
- 職場は多面体 あなたの職場レポート。フルタイムはもとより、パートでも内職でも、切実な体験や悩みなど、ぜひ寄せて下さい。
- 親のホンネ 親、ことに母親はどういうものはない。子育ての全責任者、何でも母親のせいだと言われ……でもこっちにも言いたいことありますよ。母親だってニンゲンだ。言いたいこと言おう。
- 男性専科 敵に塩を送る心意気、男

のいいたい放題のページです。

- マスコミむしる 新聞、雑誌、テレビ。ずいぶんどうかと思うこと、腹の立つこと、被害を受けたこと……いろいろあるんじゃないですか。遠慮ない告発をノ強いマスコミに弱いミニコミからなぐり込みかけよう。
- マジの発言 まじめは「わいふ」の本領なんですわー。あなたの主張や切実な体験を。
- 対話のページ 本誌の投稿や記事についての感想、反論など。
- 女の道楽 あなたがやってるホビーについて。
- 観たり聴いたり 映画、演劇、音楽

会展覧会などの感想を。

●生きてます活字人間 読んだものについて。

●遊びましょ こんなところ行ってみた、こんな遊びしてみたなど、楽しかった話を。費用も忘れずにね。

●わいわいがやがや どこにも当てはまらないものを押しこむスペース。

●エッセイストクラブ ずいひつのよさをたっぷり味わわせてくれるよい文章を。この欄だけ千六百字まで。

●ワンポイント情報 一つのものは事柄に関する読者の情報の徹底収集。テーマはそのつど設定します。

●以上いずれも八百字まで。オーバーしても内容がよければ掲載いたします。締め切り偶数月二十五日。

×

●持ちこみ原稿 詩、小説、評論、旅行記、ルポルタージュ、どんなジャンルのものでも。二十枚―三十枚程度。長篇なら連載も可。

掲載分には薄謝を贈呈します。締め切り日はとくにもうけません。

●短い投稿はハガキでもけっこうです。気楽に投稿して下さい。

●絵・カット・イラスト・写真などの投稿も歓迎します。

●ご自分の投稿に、イラストや写真が用意できる方は、ぜひそれも合わせてお送り下さい。

×

●投稿は原則として一応編集部で選択しますが、投稿規定以内の枚数のものについては、ほとんど掲載されます。

●編集部・編集長へのたよりで掲載ご希望でないものは必ず「私信」とお書きを下さい。

●「わいふ」の特色は、完全な言論の自由を守ることにあります。思想信条を問わず、すべての女たちに自分の考えを発表する場を獲得することが、「わいふ」の望みです。

●投稿は多少添削することがありますのでご了承下さい。

●「わいふ」からこれまで数人のライターが巣立っています。文章を書くことをしごとにしたいと思っていらっしゃる方に、「わいふ」は絶好のトレーニングの場となります。

●あなたの周囲に、誌上でご紹介できるようなすばらしい仕事をしている方、特殊な体験をお持ちの方、ユニークな生活をしている方——はありますか？ そういう方をご存知でしたら、ぜひご一報下さい。

●ハガキ以外の投稿は必ず原稿用紙にお書き下さい。原稿用紙の使い方はルールを守って下さい。

●ヨコ書き原稿は書き直すことになるので必ずタテにお書き下さい。原稿はお返しできませんので、必要な方はコピーをとってからお送り下さい。

編集だより

●今回の特集「私の足を引っ張る夫」(仮題)にはついに一通の投稿もありませんでした。

考えてみれば一九〇号で募集した「わが家の夫婦ゲンカ」にも投稿がなかったのです。

二回続けて「夫婦」をテーマにしたものに反応がなかったということは、どういいうけな

のでしょうか。子どものことというと、載せきれないほどドドッと投稿があつまるという

のに、不思議でたまりません。みなさまの側からぜひ、理由をきかせていただきたい、と思

うことしきりです。

●新連載「私の昭和史」が始まりました。半

世紀前の女と子どもの生活が生き生きと描かれて

いるすばらしい読みものです。ご期待下さい。な

お「再就職の落とし穴」は都合により今回は休

載いたします。

●一九四号九八頁「エジプト女王伝」は「古代エ

ジプト女王伝」の誤りです。

●「女性による民間教育審議会」の事務局を「わいふ」が引き受けることになりましたが、

机一つと電話一本あればという甘い見通しは破れ、毎日三人のボランティアの方たちに編集室の半分を提供する羽目になりました。

合評会や研究会も他に場所を借りて行なうという有様で、狭い金魚鉢の金魚よろしく、酸欠状態でアップアップしています。

●それにしても折角の教育改革も、現場で苦しんでいる子どもたちを本当に救えるものになるのかどうか、男たちだけに任せてはおけない、と痛感しています。運動の会計は火の車です。読者のみなさまも、どうか「女性による民間教育審議会」にお力ぞえ下さい。ご連絡下さればよびかけ文と資料とをすぐにお送りいたします。

●次号の特集テーマ原稿募集、今回は一二七ページにのっています。お見のがしなく。

●合評会、次回は八月で、夏休み最中ですのでお休みにさせていただきます。毎回十人前後のご参加があり、とても楽しい集まりなのですが、ページ不足でみなさまに内容をお伝えできないのが残念でたまりません。

●ではみなさま、よい夏休みを！

購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。

すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバー
のご注文も同様に。二冊以上まとまりま
すと送料が半額以下になります。

WIFE

(隔月刊) 195号

1985年9月1日発行

印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共3600円)

発行所・わいふ編集部

編集・わいふ編集部 ☎162

東京都新宿区市ケ谷加賀町2-5-23

TEL (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続
き送本しています。お申出がないと、お送
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

●食べものと ●暮らしを ●あなたの手に

自然食通信23

隔月刊

7月20日発売

A5判/定価450円

特集 豆腐——おいしく付き合ってますか

豆腐から始まった、自然食通信の「手づくりのすすめ」。5年目に再び豆腐から、食べものを育む環境と人のつながりを見つめます。

●豆腐味見—ガッチリした北の豆腐から沖縄のフワフワゆし豆腐、赤い豆腐に丸い豆腐、そして心意気ある街の豆腐屋さんの話と、各地の豆腐をめぐる15編●一生懸命はたらけば腹いっぱい豆腐が食えるだろうって—東京・武蔵屋豆腐店●「安さ」の陰から仕掛けがのぞく—添加物が心配、市販の豆腐●この街では「作る人」だって「使う人」—静岡市七間町商店街「七ぶら市」

別冊『百姓になるための手引き』

(仮題)

10月20日発売

予価850円

バックNo.もあります。●1号2号と10号以降 450円・3号～9号 380円 18号(特価)850円

発行・自然食通信社 東京都文京区本郷2-6-10

TEL・03(816)3857 振替・東京5-78026

発売・新泉社

小さな目の教育論

子どもたちから…お母さんへの教育提案!! どうしていっしょに走るの



多湖 輝編著

980円

日本の教育に対する子どもたちの素朴な疑問?

アメリカ、イギリス、エジプトなどから帰国した子ども達が、授業・友だち・行事などナイーブな目で綴った作文はアッと驚く教育・文明批評!

スナックタイムのある学校、日本の学校は自由が足りない、各自マイペースの授業など。

桐原書店

東京都杉並区高円寺南2-44-5 ☎03(314)8181(大代表)

9月新学期
9月7日開講
 申込受付8月27日

フランス語



夏から秋へ

秋の心にはシャンソンがよく似合う

心の中のひとつの言葉を

フランス語に置きかえることに成功したら

次からのフランス語は楽しい努力でいっぱい!!

少しずつあなたの心が

Monsieur や Mademoiselle にとどきます

ムスイウー

マドムワゼル

さあ、フランス語を始めましょう

アテネ・フランセでは、フランス政府派遣の先生を含め、一流の教授陣があなたのフランス語を指導、初めての方にも楽しくフランス語が学べます。

——午前・午後・夜間全140クラス——

- 本科クラス (週2～9時間) モージェ、カベル、アンテルコード、サン・フロンチエール
- 視聴覚クラス (ラボ使用・週3～21時間) クレディフ、サンテティック
- 専科クラス (週1～3時間) 会話、作文、書取、和訳、仏訳等
- 入門クラス (週2～6時間) 日本語で授業

英語 ■ 集中口語英語コース(午前)

■ 英語レギュラーコース(午後・夜間)

■ 英語オープンコース(午後・夜間)

同時開講：ギリシャ語・ラテン語

新 設

午前英会話クラスCo

初級・中級・上級

講師：ハーヴァード大学B.A.

キャサリーン・オレアリ

- 受付時間
9:00AM～7:00PM
- 各クラス共申込順受付、定員に達し次第締切り
- 要項 千共140円

ATHÉNÉE FRANÇAIS

アテネ・フランセ

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-11B
 国電・地下鉄：御茶ノ水・水道橋徒歩5分

☎03(291)3391